

GLOBE Architect

確認申請編

内容

0.	はじめに.....	3
0.1.	データ構成について.....	3
1.	申請図作成の準備.....	5
1.1.	配布テンプレートの読み込み.....	5
1.2.	プロジェクトの設定.....	7
1.3.	加筆用レイヤの設定.....	7
1.4.	各種高さの算定点.....	9
1.5.	設計モデルと図面作成.....	10
2.	配置図.....	11
2.1.	作成フロー.....	11
2.2.	【設計モデル】斜線計測線.....	11
2.3.	【設計モデル】延焼部分.....	15
2.4.	【設計モデル】隣地・側溝・塀フェンス.....	17
2.5.	【設計モデル】2D CAD 編集.....	19
2.6.	【図面作成】配置図.....	22
2.7.	【図面作成】専用加筆.....	24
2.8.	【図面作成】専用加筆.....	28
2.9.	【図面作成】2D CAD 編集.....	30
2.10.	【図面作成】ボリューム解析配置図.....	31
2.11.	【図面作成】配置図（凡例）.....	33
2.12.	【図面作成】レイアウト調整.....	34
2.13.	【図面作成】2D CAD 編集.....	36
3.	敷地求積図・表.....	37
3.1.	作成フロー.....	37
3.2.	【図面作成】敷地面積求積図・表.....	37
4.	建物求積図・表.....	40
4.1.	作成フロー.....	40
4.2.	【設計モデル】床面積区画の入力.....	40
4.3.	【設計モデル】建築面積区画の入力.....	42
4.4.	【設計モデル】敷地面積の確認.....	42
4.5.	【設計モデル】延べ面積の確認.....	43
4.6.	【図面作成】床面積求積図・表.....	44
4.7.	【図面作成】延べ面積計算表.....	46
4.8.	【図面作成】建築面積求積図・表.....	48
5.	各階平面図.....	50
5.1.	作成フロー.....	50
5.2.	【設計モデル】法規 LVS.....	50
5.3.	【設計モデル】延焼部分.....	55
5.4.	【設計モデル】プロパティと凡例.....	56
5.5.	【設計モデル】建具仕様.....	57
5.6.	【設計モデル】2D CAD 編集.....	59

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.7.	【図面作成】 平面図	60
5.8.	【図面作成】 専用加筆	63
5.9.	【図面作成】 法規 LVS 平面図	64
5.10.	【図面作成】 平面図 (軒先ライン)	65
5.11.	【図面作成】 平面図 (凡例)	68
5.12.	【図面作成】 レイアウト調整	69
6.	立面図	70
6.1.	作成フロー	70
6.2.	【設計モデル】 プロパティと凡例	70
6.3.	【図面作成】 立面図	71
6.4.	【図面作成】 専用加筆	73
6.5.	【図面作成】 2D CAD 編集	75
7.	断面図	77
7.1.	作成フロー	77
7.2.	【設計モデル】 斜線計測線	77
7.3.	【図面作成】 断面図	78
7.4.	【図面作成】 専用加筆	79
7.5.	【図面作成】 斜線図	80
7.6.	【図面作成】 2D CAD 編集	82
8.	LVS・シックハウス算定	83
8.1.	作成フロー	83
8.2.	【設計モデル】 法規 LVS	83
8.3.	【図面作成】 法規 LVS 図面・表	84
8.4.	【図面作成】 専用加筆	90
8.5.	【図面作成】 2D CAD 編集	92
9.	建具表	93
9.1.	作成フロー	93
9.2.	【設計モデル】 建具仕様	93
9.3.	【図面作成】 建具表	94
9.4.	【図面作成】 2D CAD 編集	95

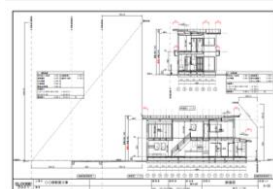
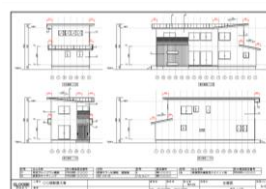
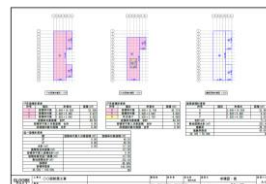
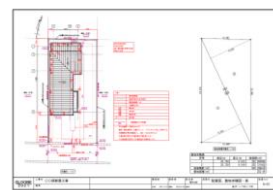
0. はじめに

0.1. データ構成について

0.1.1. GLOOBE Architect 四号確認申請.pdf

確認申請図書の PDF データです。

赤色は2次元汎用CAD機能で作成したデータ、その他の**紫・青・黒色**はBIMの持つ情報や機能によって作成されたデータになります。



図書の構成は以下のとおりです。

- ・ 図面 No : A-01 配置図、敷地求積図・表
- ・ 図面 No : A-02 求積図・表
- ・ 図面 No : A-03 平面図
- ・ 図面 No : A-04 立面図
- ・ 図面 No : A-05 断面図
- ・ 図面 No : A-06 LVS・シックハウス算定
- ・ 図面 No : A-07 建具表

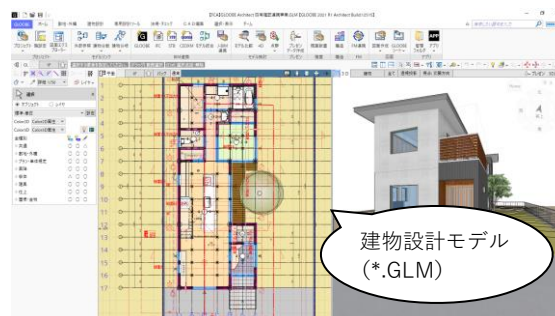
0.1.2. 【FCA】GLOOBE Architect 四号確認連携事業.GLM

GLOOBE Architect のファイルです。建物設計のモデルと申請図面が作成されたデータです。上記の確認申請図書 PDF の出力元となっているデータです。



0.1.3. 【FCA】GLOOBE Architect 四号確認連携事業（図面練習用）.GLM

GLOOBE Architect のファイルです。建物設計のモデルデータです。モデルは完成していますが、申請図面作成前の練習用データです。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

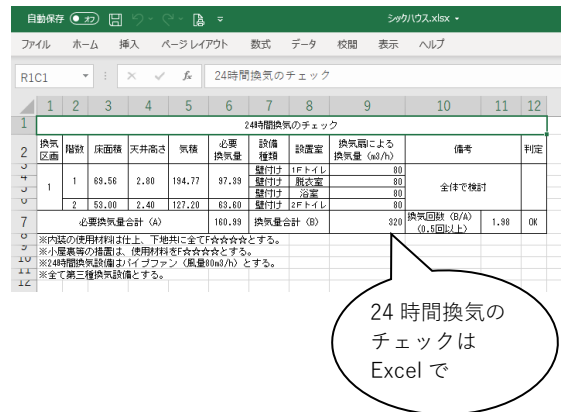
0.1.4. GLOOBE Architect 四号確認申請.gto

GLOOBE で使用するテンプレートです。「凡例」「図面作成条件」「用紙枠」のテンプレートになります。テンプレートの取り込みは、次の「1章 申請図作成の準備」でご紹介します。



0.1.5. シックハウス.xlsx

「【FCA】GLOOBE Architect 四号確認連携事業.GLM」で使用する Excel データです。GLOOBE Architect には、24時間換気のチェック機能は搭載されていないため、別途 Excel で計算した結果を図面上に読み込んでいます。読み込み方法については、後の章でご紹介します。



1. 申請図作成の準備

1.1. 配布テンプレートの読み込み

1.1.1. テンプレート メンテナンスツール

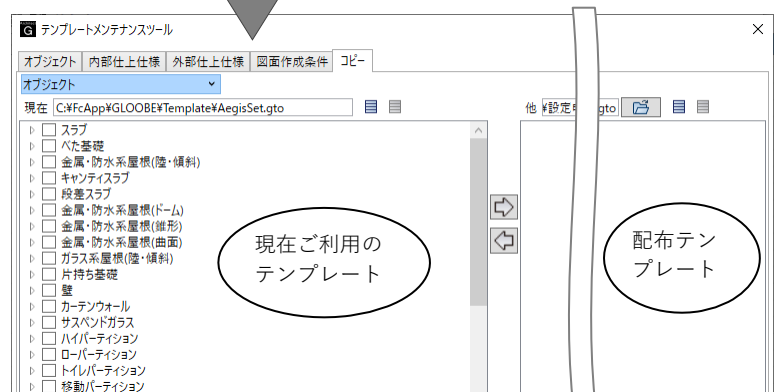
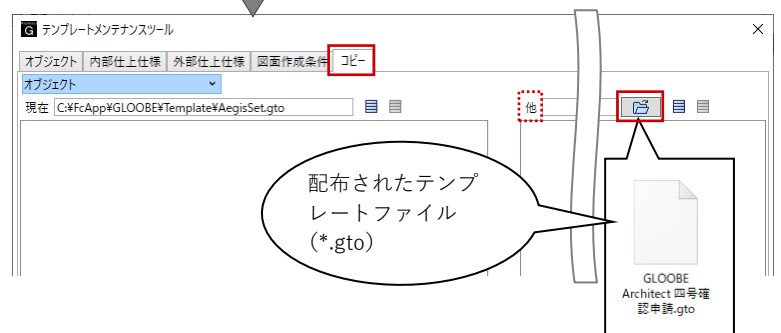
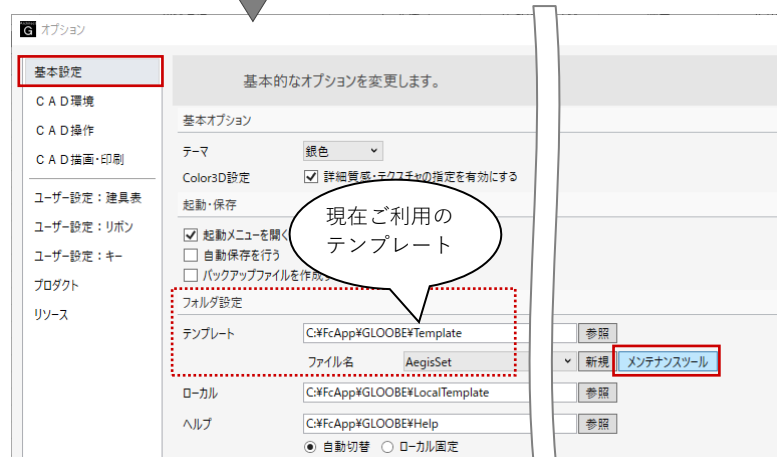
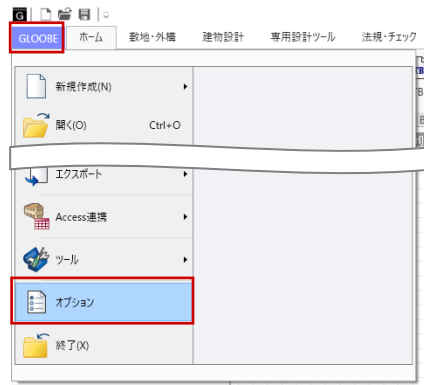
配布されたテンプレートを自社のテンプレートに合成します。

GLOOBE Architect を起動して、「GLOOBE ボタン」より「オプション」をクリックします。

「オプション」ダイアログが開きます。「基本設定」から、「フォルダ設定」のテンプレートより「メンテナンスツール」をクリックします。


「メンテナンスツール」ダイアログが開きます。「コピー」タブをクリックします。ダイアログ右側の「他」から「フォルダを開く」のボタンをクリックし、今回配布されたテンプレートファイル「GLOOBE Architect 四号確認申請.gto」を開きます。

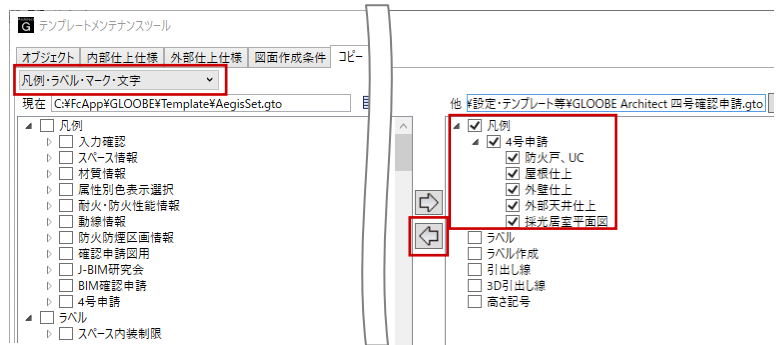
ダイアログ左側に現在ご利用のテンプレート、右側に配布されたテンプレートが読み込まれます。




第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

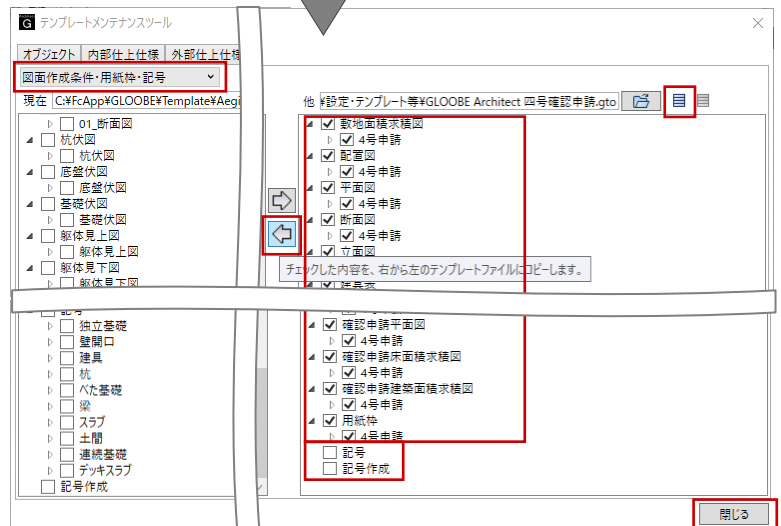
リストボックスより、表示グループを「凡例・ラベル・マーク・文字」に切り替えます。

右側の配布テンプレートから「凡例」をONにして、「」をクリックします。配布テンプレートから「凡例」テンプレートが取り込まれます。

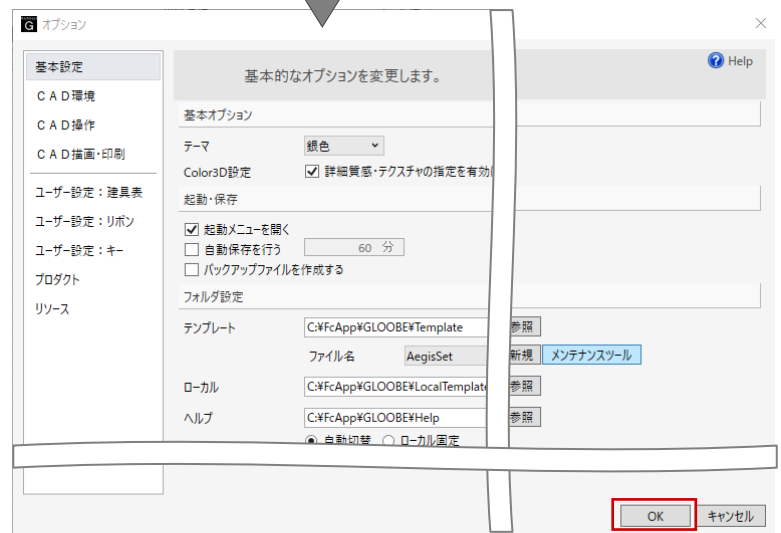


リストボックスより、表示グループを「図面作成条件・用紙枠・記号」に切り替えます。

右側の配布テンプレートから「全オン」をクリックして、末尾の「記号」「記号作成」のみ OFF にします。「」をクリックして、配布テンプレートから「各種の図面作成条件」「用紙枠」テンプレートが取り込まれます。



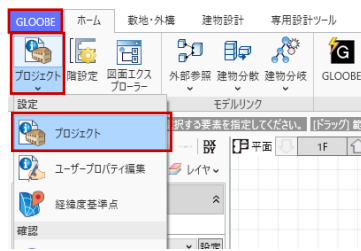
取り込み完了後、「閉じる」で「テンプレートメンテナンスツール」を終了し、「OK」で「オプション」を終了します。



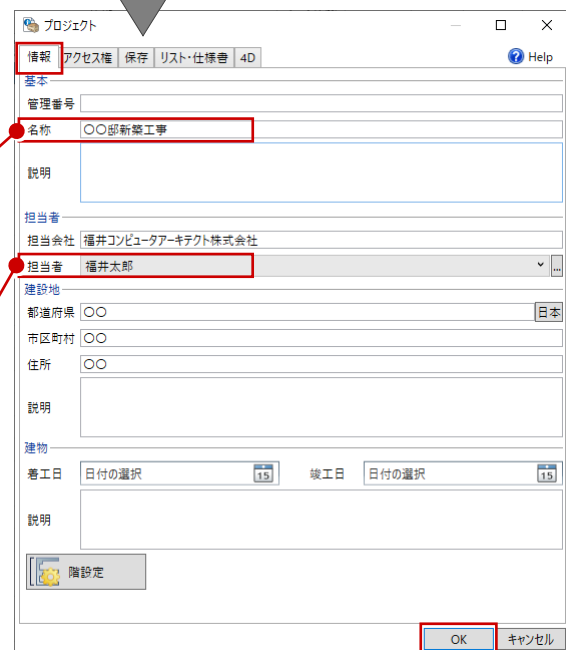
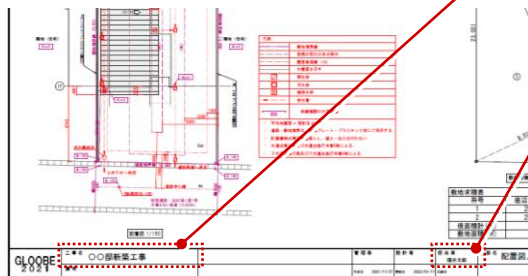
1.2. プロジェクトの設定

1.2.1. プロジェクト

「ホーム」タブの「プロジェクト」メニューから「プロジェクト」をクリックします。



「プロジェクト」ダイアログの「情報」タブで各種情報を入力し、「OK」することで、図面作成の際に用紙枠内に「管理番号」「名称」「担当者」等が反映されます。



1.3. 加筆用レイヤの設定

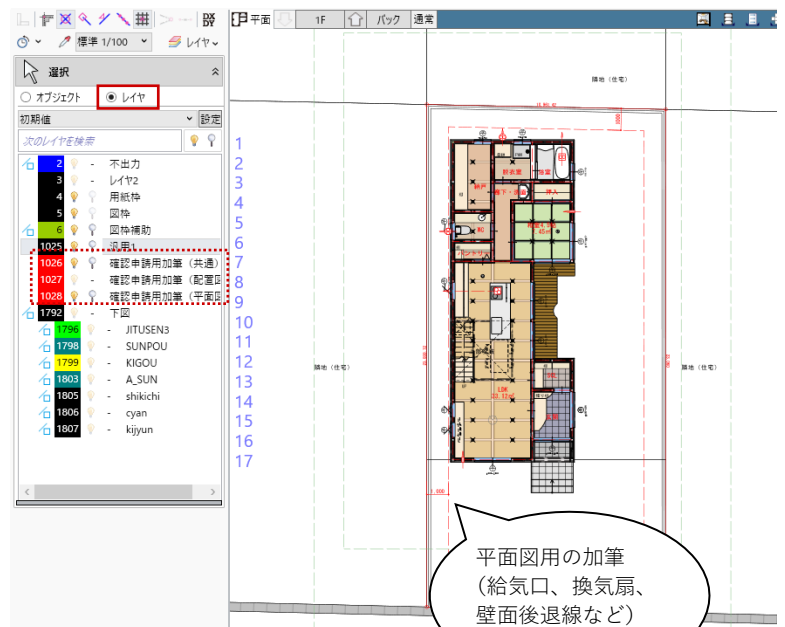
1.3.1. レイヤ

「コマンドサポートウィンドウ」を選択状態にします。設定対象を「レイヤ」に切り替えます。

設計モデルの平面ビュー上で2D汎用CAD機能で加筆した線や文字は、そのまま「図面作成」で作図されますが、配置図のみ、あるいは平面図のみで作図したい項目を書き分けるために、それぞれレイヤを指定します。

ここでは、

- 1026：確認申請用加筆（共通）
 - 1027：確認申請用加筆（配置図）
 - 1028：確認申請用加筆（平面図）
- というレイヤを追加しています。

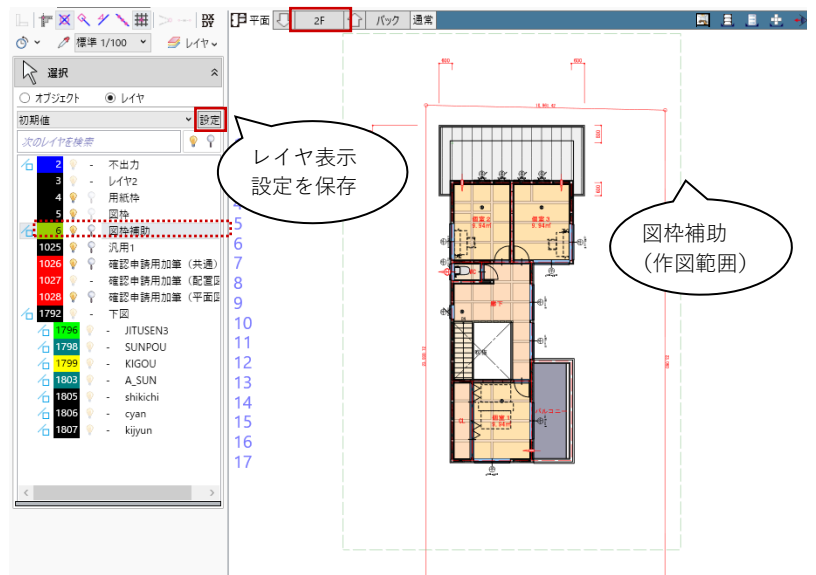


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

また、図面レイアウトや重ね合わせをする際に便利のように、

6：図枠補助 というレイヤを追加し、平面ビューの各階に矩形領域として入力しています。

これらのレイヤ表示設定を図面作成時のレイヤの作図条件として反映させるため保存します。リストボックス横の「設定」をクリックします。



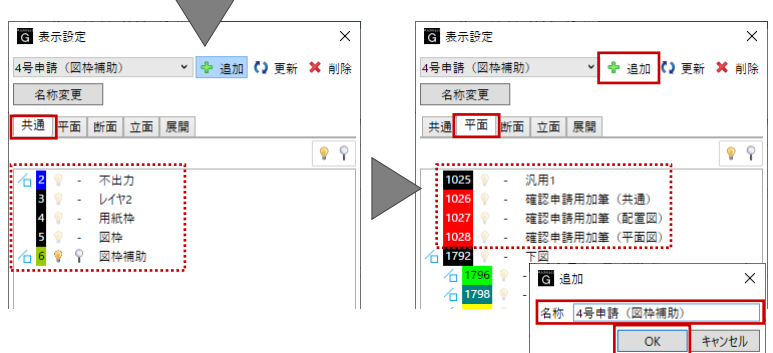
「表示設定」ダイアログが表示されます。「共通」「平面」のタブの表示・検索を右図のように設定して、「追加」ボタンをクリックします。ここでは、平面図作図用のレイヤ表示設定として名称：4号申請（平面図） と入力して「OK」します。



同様に、右図のように設定して、名称：4号申請（配置図） を追加します。



さらに、右図のように設定して、名称：4号申請（図枠補助） を追加します。



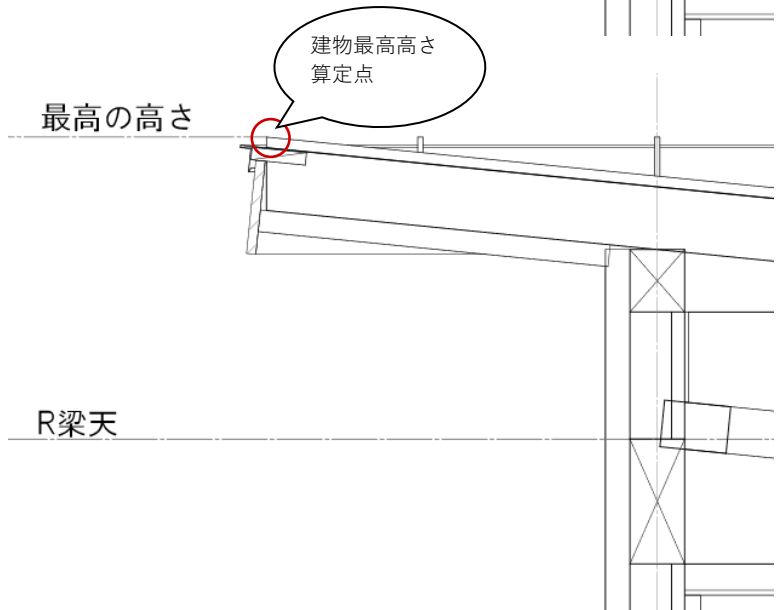
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

1.4. 各種高さの算定点

道路斜線や北側斜線、採光補正係数の高さ算定の基準は、右図のとおり建物モデルで入力された「軒」の先端になります。

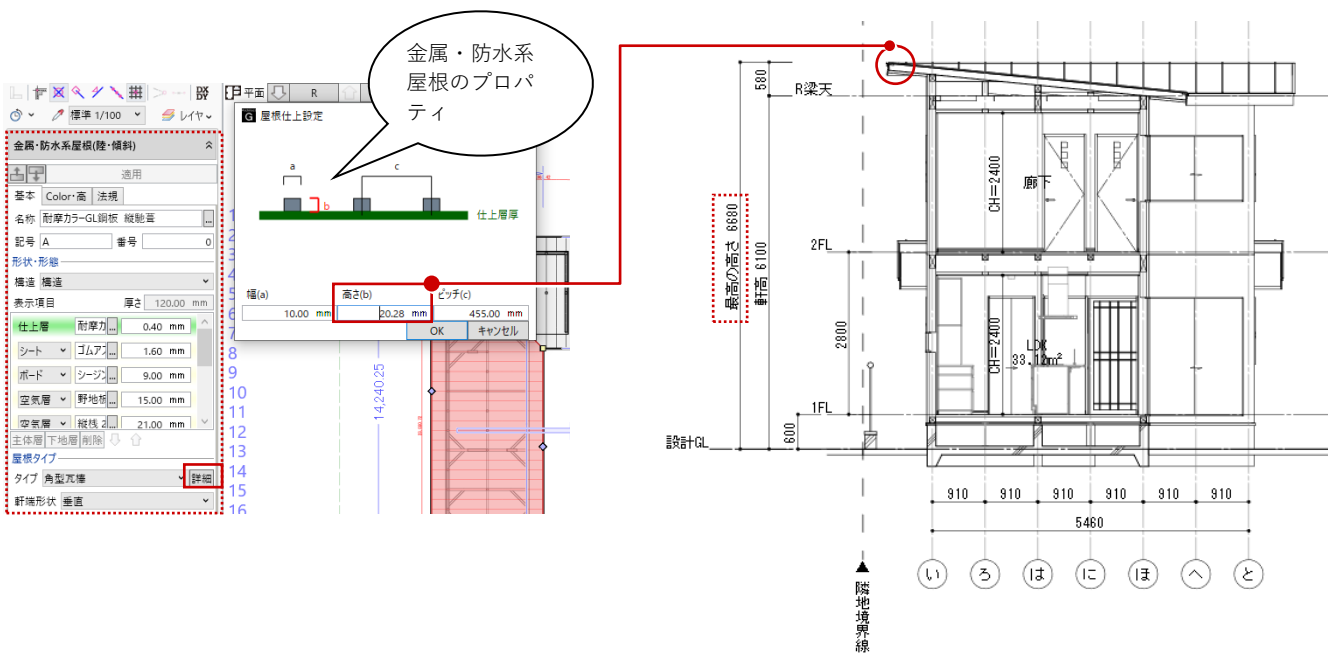


また、立面図・断面図等に表す最高の高さ算定の基準は、右図のとおり建物モデルで入力された「金属・防水系屋根（陸・傾斜）」のプロパティの「角型瓦棒」の縦ハゼ最上部の「高さ」になります。



立面図・断面図等に表す最高の高さを整数値（=6680）とするため、この建物モデルデータでは縦ハゼの「高さ」を「20.28」としています。

（縦ハゼの高さを 20 とすると、最高の高さは 6679.72 になります。）

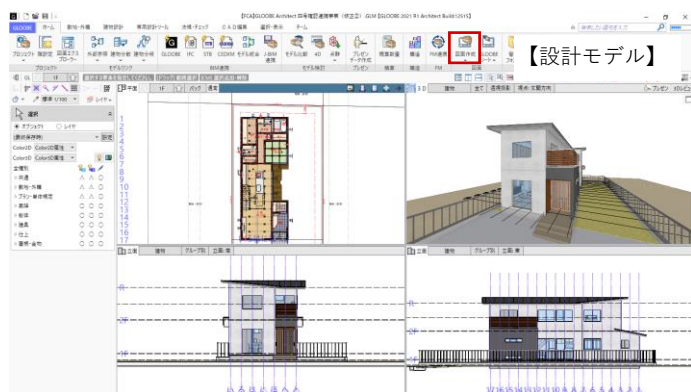


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

1.5. 設計モデルと図面作成

申請図作成にあたり、設計モデルの入力・編集ステージで行う作業と、「ホーム」タブの「図面作成」後に図面側で行う作業とを区別するため、これ以降の説明では章のタイトルに【設計モデル】と【図面作成】をそれぞれ記載します。

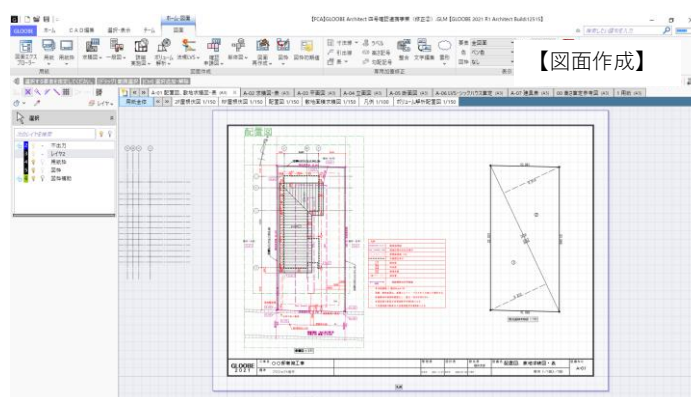
基本的に、【設計モデル】側で入力・編集されたデータは各種の【図面作成】に反映されます。それに対して、【図面作成】側で個々に編集したデータは【設計モデル】には反映されません。あくまでも編集を行った図面に対しての2次元CAD的な作図の操作になります。



モデル上の入力・編集が、各図面に反映



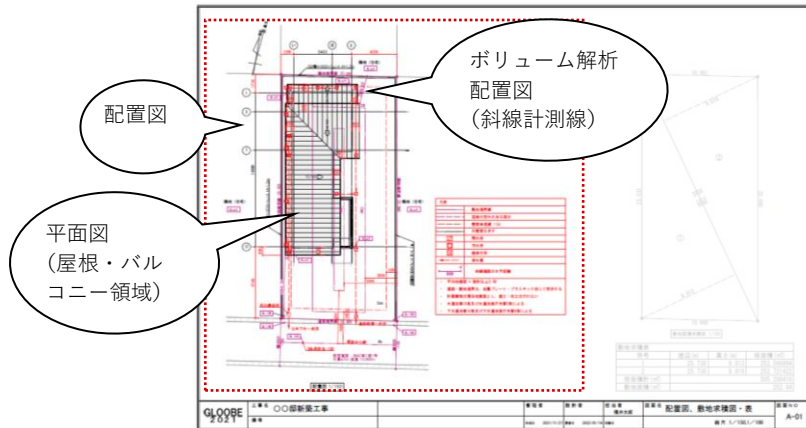
図面上の編集は、モデルに反映しません



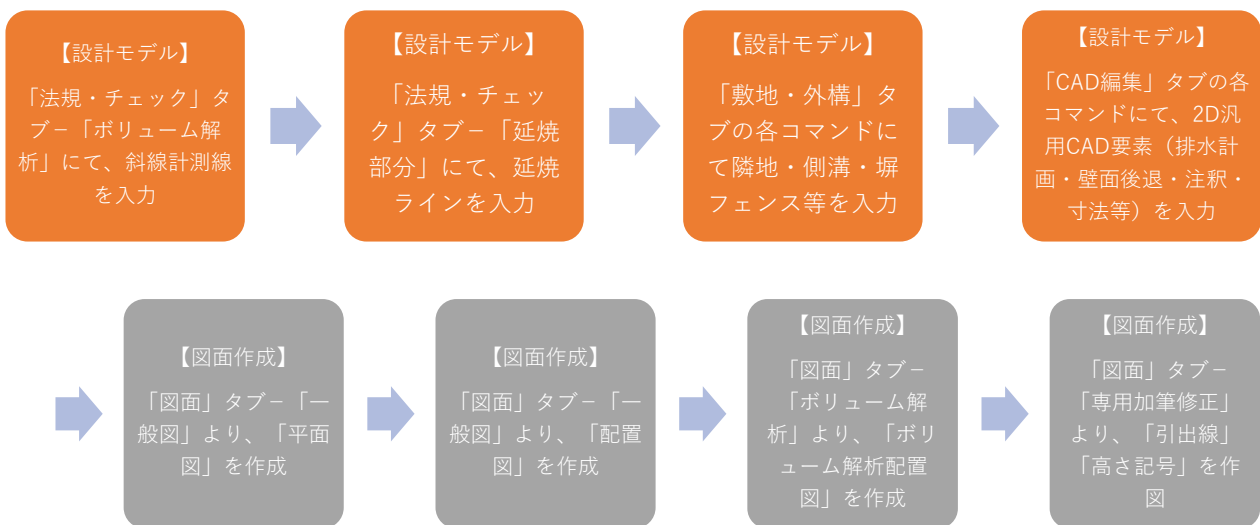
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

©2021 建築確認における BIM 活用推進協議会 ©2021 公益社団法人日本建築士会連合会

2. 配置図



2.1. 作成フロー



2.2. 【設計モデル】斜線計測線

2.2.1. ボリューム解析を開く

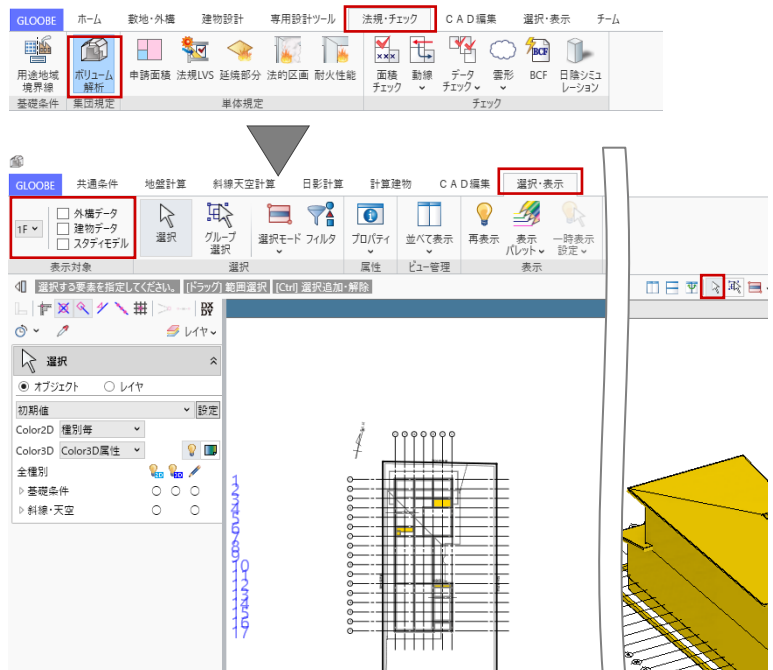
「法規・チェック」タブから「ボリューム解析」をクリックします。

「ボリューム解析」ウィンドウが開きます。

ツールバーの「左右に並べて表示」をクリックし、「選択・表示」タブより表示対象を整えます。ここでは、次のように設定します。

表示階：1F

外構データ・建物データ・スタディモデル：全 OFF



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

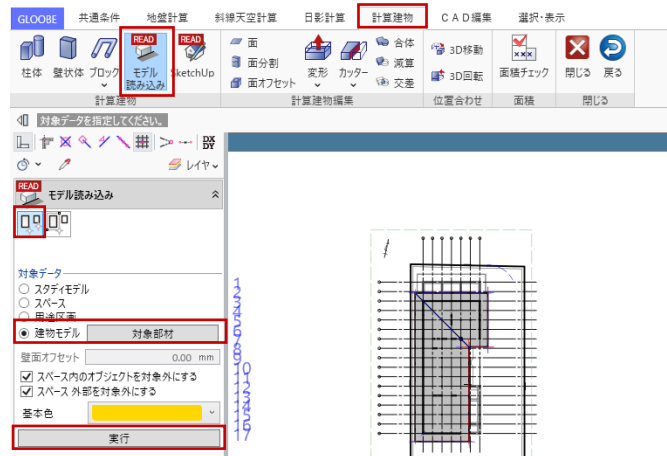
2.2.2. 計算建物を作成

「計算建物」タブから「モデル読み込み」をクリックします。

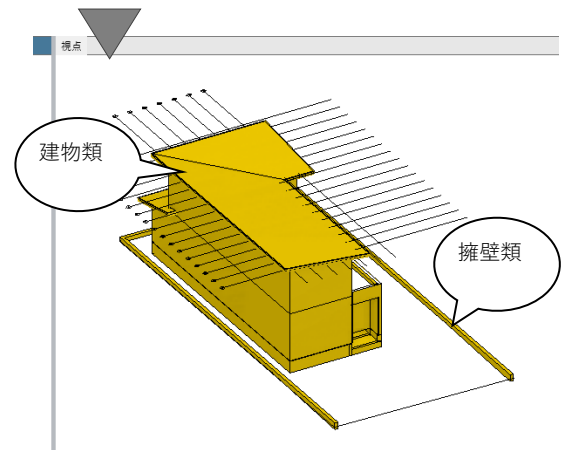
入力モード：一括モード

対象データ：建物モデル

「実行」ボタンで、建物モデルを読み込みます。



建物や外構（塀等）のモデルが計算建物として読み込まれます。

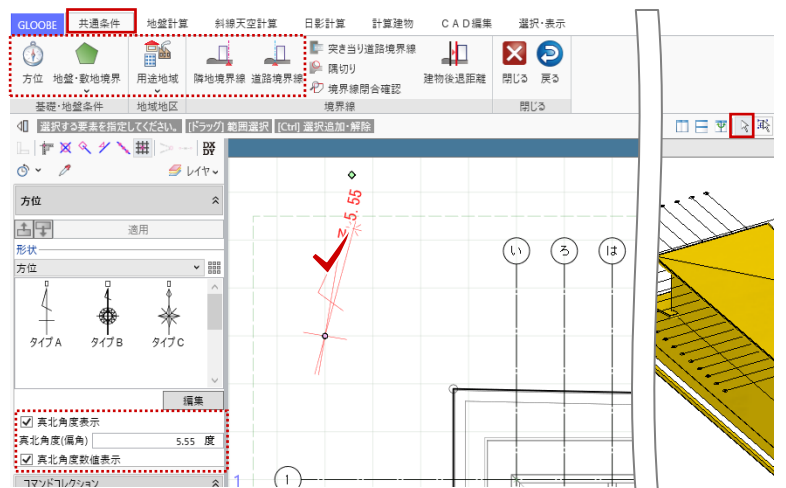


2.2.3. 共通条件を確認

「共通条件」タブをクリックします。「方位」「地盤・敷地境界」「用途地域」「隣地境界線」「道路境界線」の各オブジェクトについては、ここでは既に入力済みとなっています。

ツールバーの「選択」より、方位を選択して「真北角度（偏角）」を確認します。この値は、北側斜線の計測線の描画方向になります。

偏角の値については、国土地理院 地磁気測量サイト等で確認のうえ、設定します。

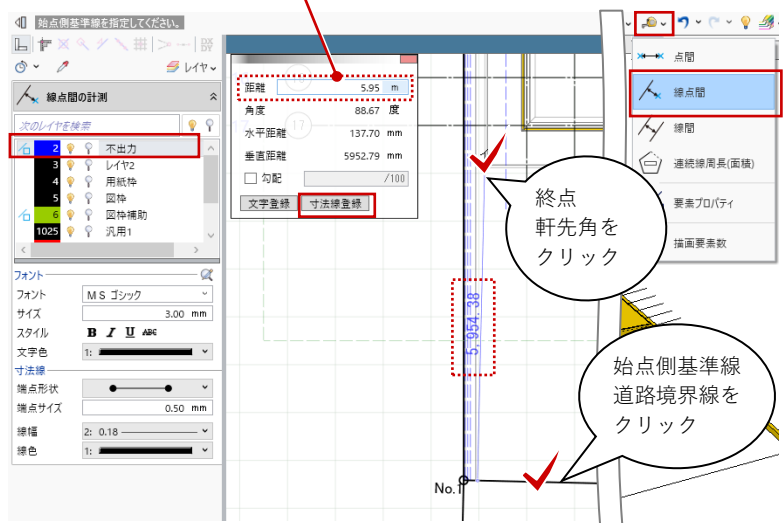
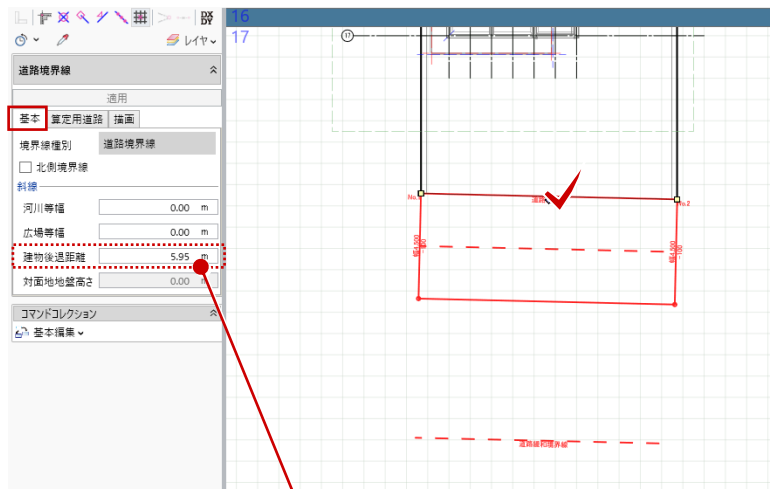


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

続いて、ツールバーの「選択」より、道路境界線を選択して、「基本」タブの「建物後退距離」を確認します。この値は、道路斜線制限における後退距離（セットバック）による緩和の値になります。

建物後退距離は、ツールバーの「計測」で事前に計測します。「線点間の計測」をクリックして、始点側基準線として道路境界線をクリック、終点としてR階軒先の南西の角をクリックして距離を計測します。「寸法線登録」しておくことで、入力時に確認しやすくなります。

「共通条件」タブの「建物後退距離」を利用して後退距離をセットする方法もありますが、この建物形状では正確に算定されないため利用しません。



2.2.4. 斜線計測線を作成

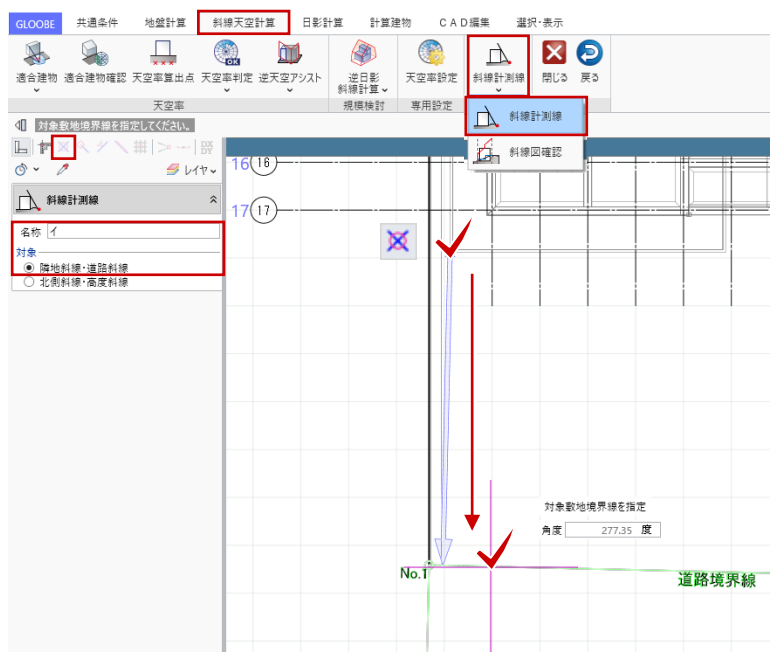
「斜線天空計算」タブから、「斜線」メニューの「斜線計測線」をクリックします。

名称：イ

対象：隣地斜線・道路斜線

スナップモード：交点

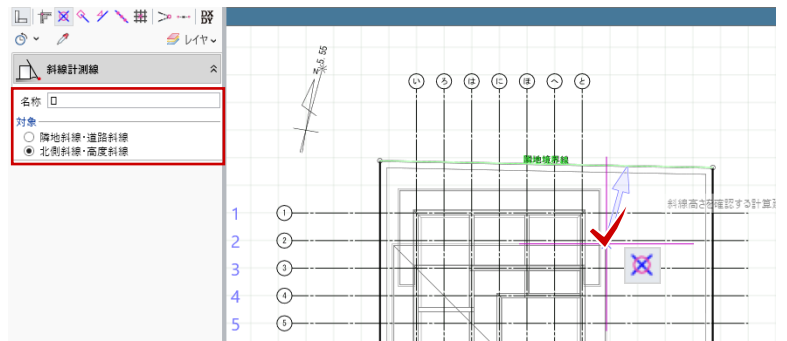
斜線高さを確認する計算建物の位置（ここではR階南側軒先）をクリックし、続いて対象の敷地境界線をクリックします。



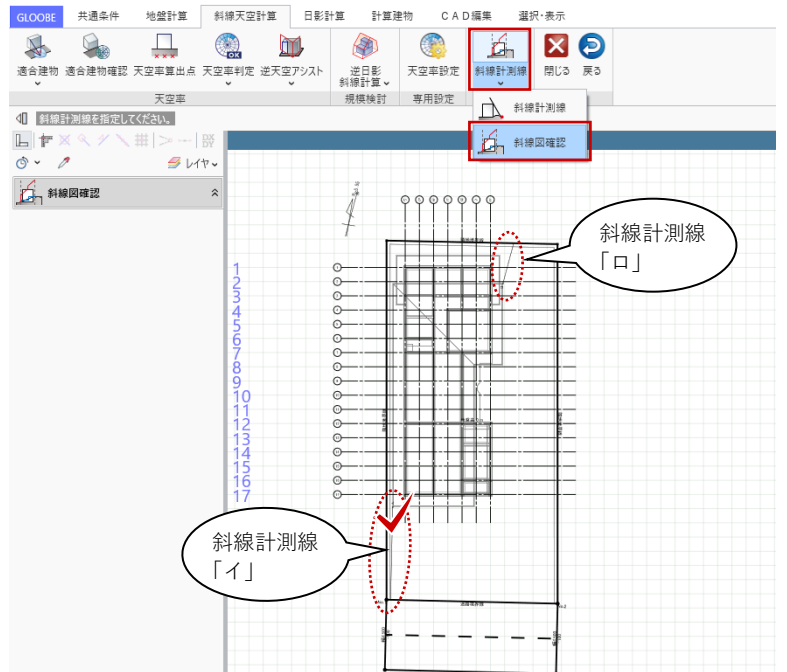
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

名称：口

対象：北側斜線・高度斜線 に変更して、斜線高さを確認する計算建物の位置（ここではR階北側軒先）をクリックします。



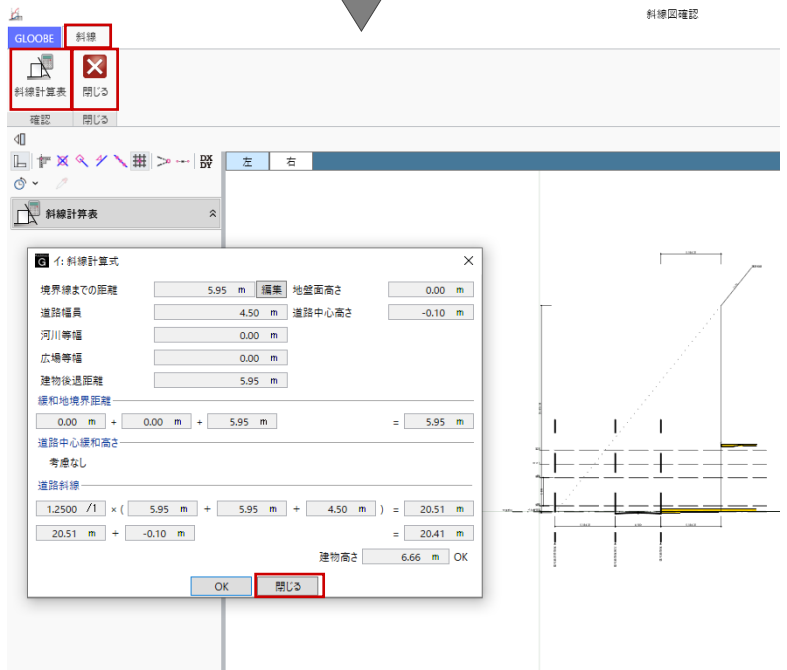
「斜線」メニューから「斜線図確認」をクリックし、「イ」の斜線計測線をクリックします。



「斜線図確認」ウィンドウが表示されます。「斜線」タブの「斜線計算表」をクリックして計算式を確認します。ここで確認した斜線図と計算式は、後で断面図上に表記します。

「イ：斜線計算式」ダイアログを「閉じる」で終了し、「斜線図確認」ウィンドウを「閉じる」で終了します。

説明は省略しますが、同様の操作で、「口」の斜線計測線についても斜線図と計算式をご確認ください。



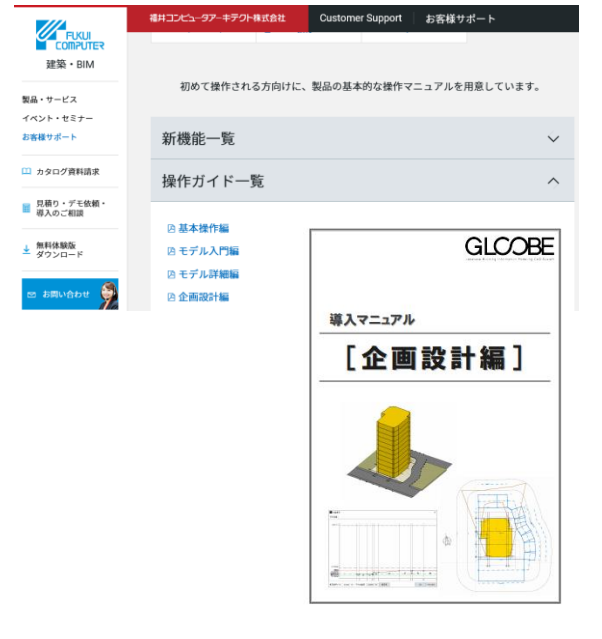
確認後、「ボリューム解析」ウィンドウを「閉じる」で終了します。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

GLOOBE の斜線制限の機能につきましては、操作ガイド「企画設計編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイトのお客さまサポート」に掲載のマニュアル「企画設計編」よりご確認ください。

▶GLOOBE の各種マニュアルはこちらから

<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/globe/manual.html>



2.3. 【設計モデル】 延焼部分

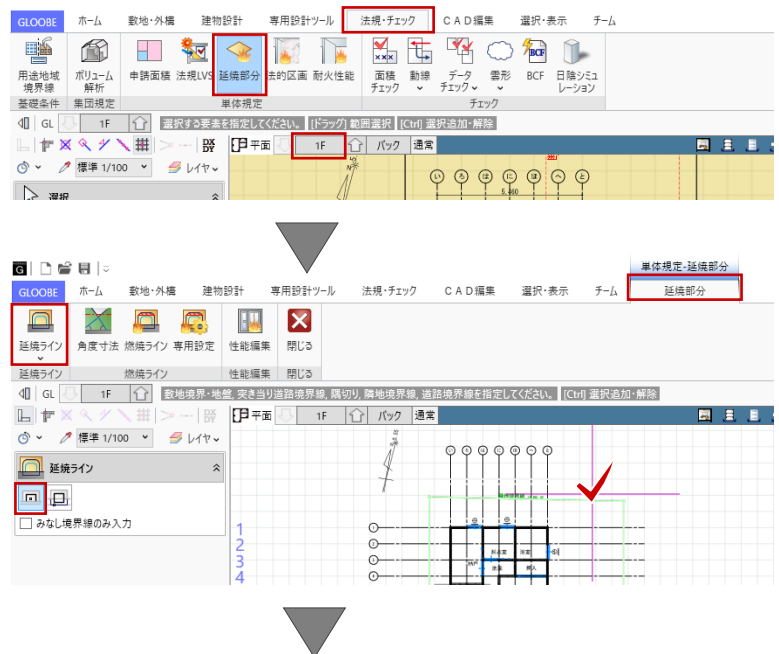
2.3.1. 延焼ラインを作成

平面ビューツールバーより 1F を表示し、「法規・チェック」タブから「延焼部分」をクリックします。

「延焼部分」タブが開きます。

「延焼部分」タブより「延焼ライン」をクリックし、

入力モード：一括 で、敷地境界線上をクリックします。

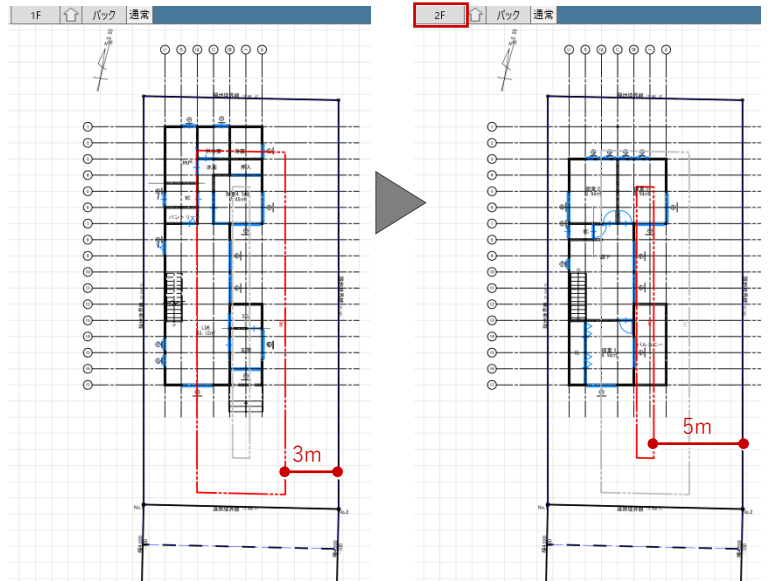


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

©2021 建築確認における BIM 活用推進協議会 ©2021 公益社団法人日本建築士会連合会

道路幅員中心線、隣地境界線から 3m の位置に延焼ラインが作成されます。

表示階を 2F に切り替え、道路幅員中心線、隣地境界線から 5m の位置に延焼ラインが作成されていることを確認します。



確認後、「閉じる」で「延焼部分」タブを終了します。



GLOOBE の延焼ラインの機能につきましては、目的別操作ガイド「延焼部分編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「延焼部分編」よりご確認ください。

▶ GLOOBE の各種マニュアルはこちらから

<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/gloobe/manual.html>



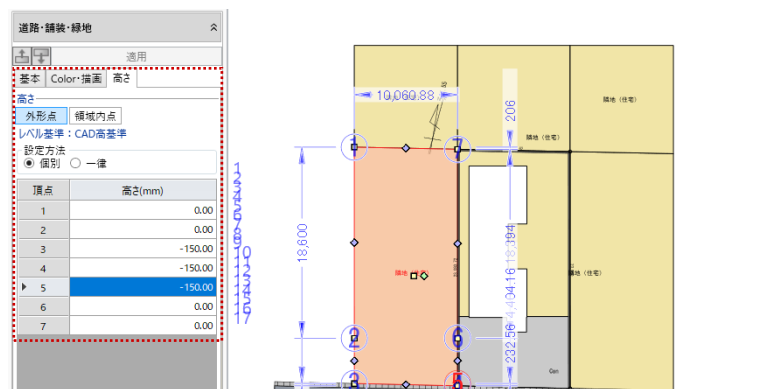
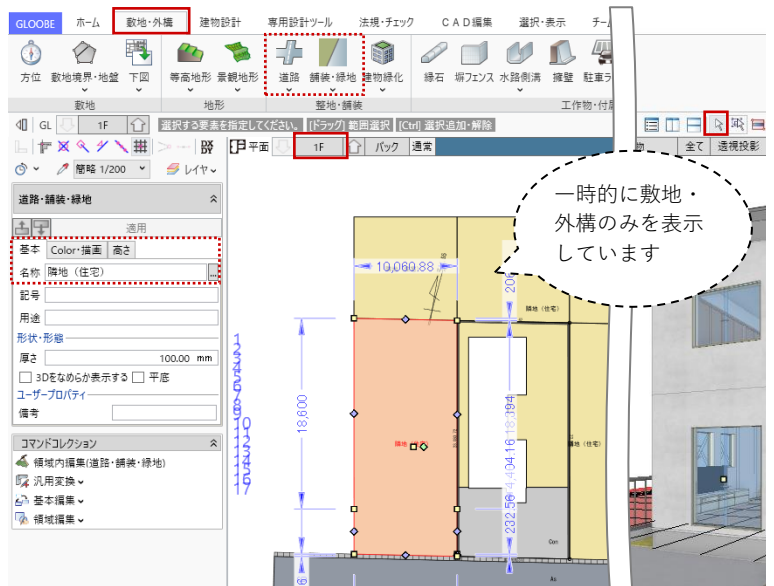
2.4. 【設計モデル】隣地・側溝・塀フェンス

2.4.1. 道路・舗装・緑地

平面ビューツールバーより 1F を表示し、「敷地・外構」タブをクリックします。

ここでは既に、「道路」「舗装・緑地」のオブジェクトで、隣地 5ヶ所、道路 1ヶ所が入力済みとなっています。

ツールバーの「選択」より、いずれかの「道路・舗装・緑地」を選択して「基本」タブより「名称」、「高さ」タブより各点の「高さ」を確認します。ここで確認した情報は、後で配置図上の「引出線」や「高さ記号」として利用します。



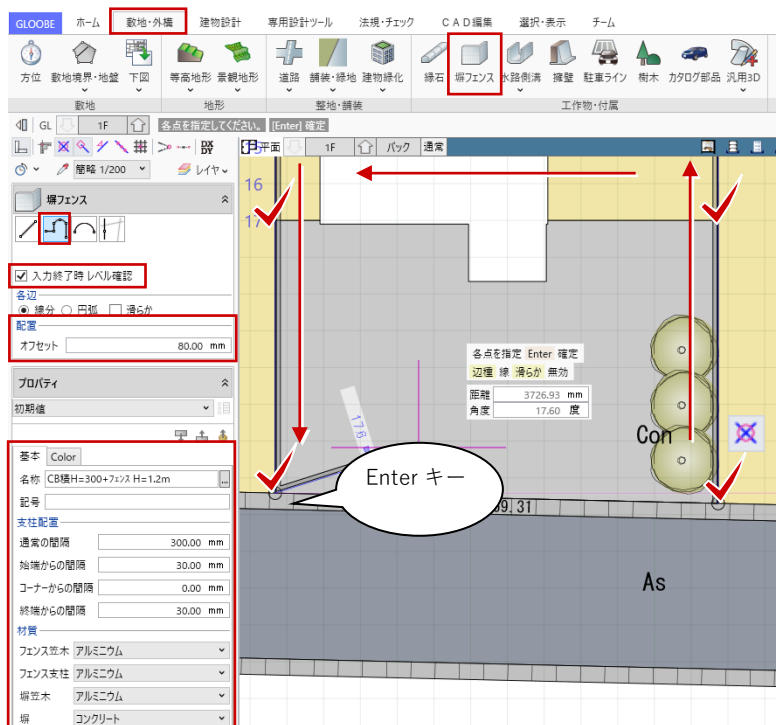
2.4.2. 塀フェンス

「敷地・外構」タブから「塀フェンス」をクリックします。このデータではすでに入力済みですが、入力する場合は次のような手順で行います。

入力モード：連続線（円弧可）
 入力終了時 レベル確認：ON
 オフセット：80

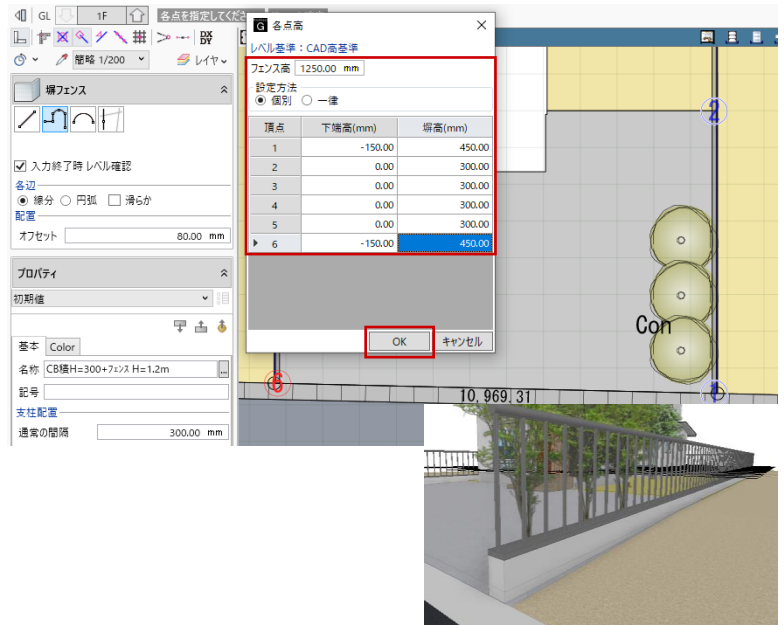
「基本」タブより、名称、支柱配置間隔、材質等を適宜設定します。

スナップモード：交点
 敷地に沿って反時計回りに入力し、最後に「Enter」キーを押します。



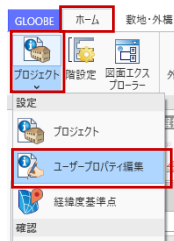
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「各点高」ダイアログで、
 フェンス高：1250
 設定方法：個別
 頂点 1、6（南面道路と接する点）
 下端高：-150
 塀高：450
 その他の頂点
 下端高：0
 塀高：300 と設定して「OK」し
 ます。



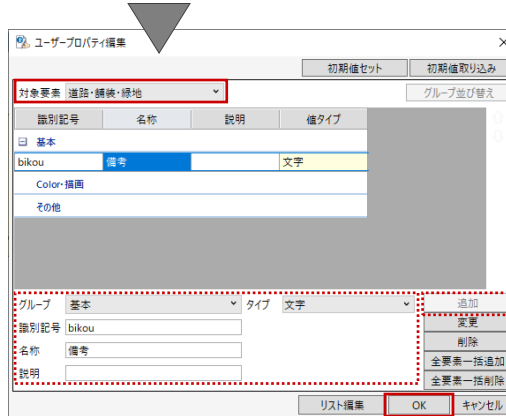
2.4.3. ユーザープロパティ編集

各オブジェクトに対して、プロパティ項目が足りない、オリジナルの情報を付加したいといった場合には、プロパティのカスタマイズが可能です。

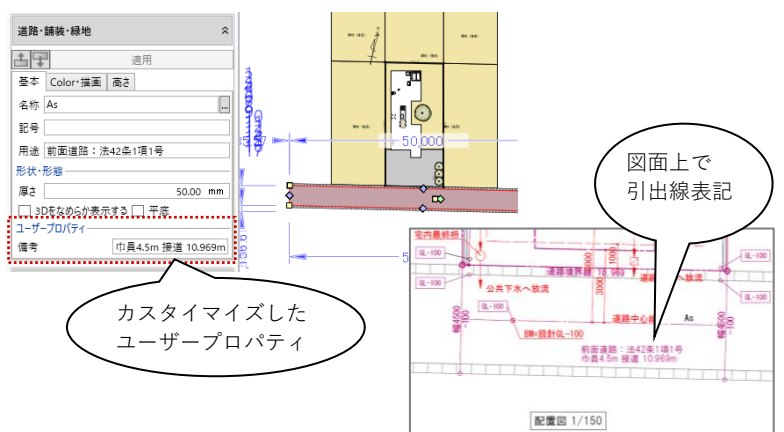


「ホーム」タブの「プロジェクト」メニューから「ユーザープロパティ編集」をクリックします。

「対象要素」をリストボックスから選択して、「グループ」「識別記号」「名称」「タイプ」等を設定し、「追加」ボタンをクリックすることで、プロパティ項目を追加できます。



ここでは、あらかじめ道路・舗装・緑地や塀・フェンス、建具や仕上、カタログ部品等のオブジェクトに「備考」や「番号」「その他」のプロパティ項目を設け、任意のテキスト情報を入力しています。これらの情報は、後で図面上の「凡例」や「引出線」として利用します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.5. 【設計モデル】 2D CAD 編集

2.5.1. 表示設定

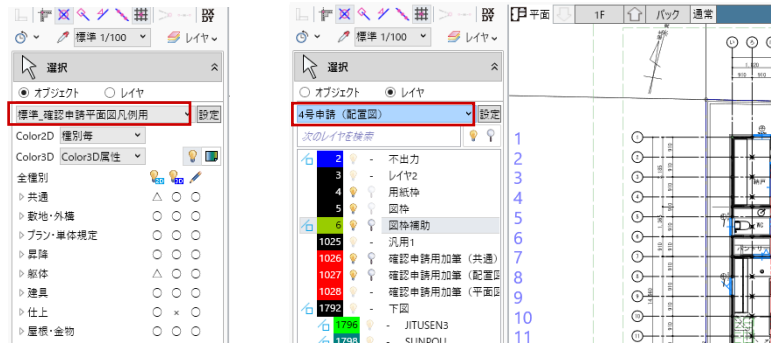
「CAD 編集」タブの各種機能を利用して図面に加筆します。

「コマンドサポートウィンドウ」より作業がしやすい表示設定を選びます。

ここでは、

オブジェクト：標準_確認申請平面図凡例用

レイヤ：4号申請（配置図） と
します。

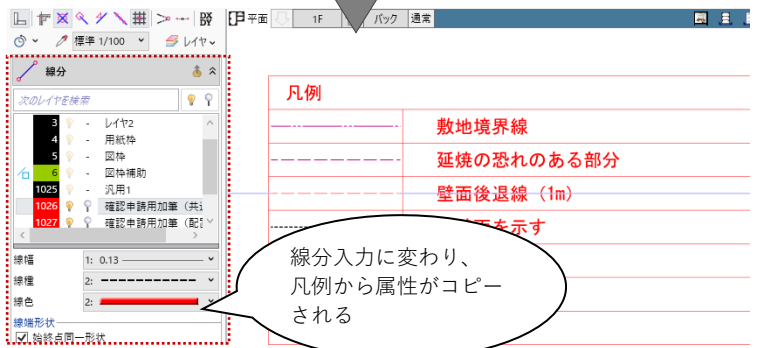
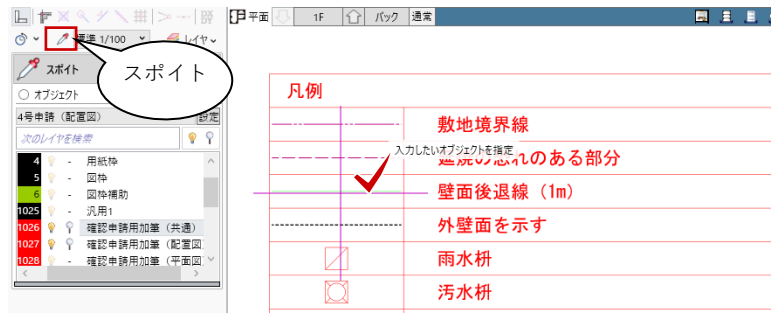


レイヤの表示設定については、第1章の「1.3 加筆用レイヤの設定」でご確認ください。

2.5.2. 壁面後退線

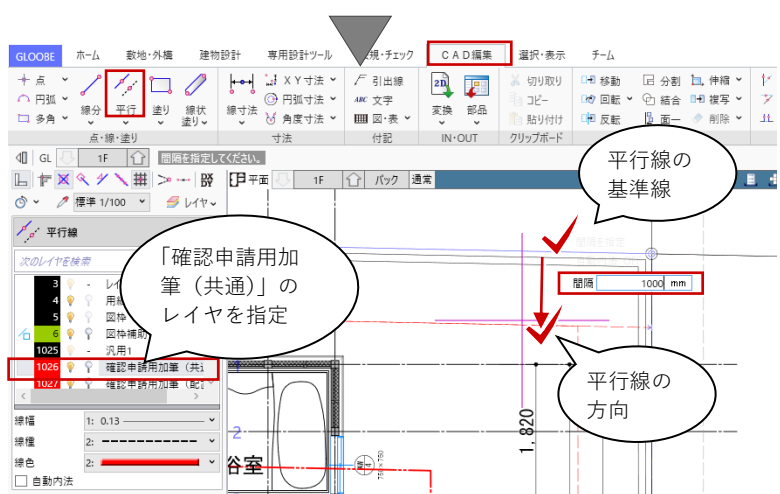
平面ビュー内に配置されている凡例表を利用して、壁面後退線を作図します。

「スポイト」をクリックして、凡例内の壁面後退線の線分をクリックします。コマンドが「線分」に変わり、線幅・線種・線色といった情報がコピーされます。



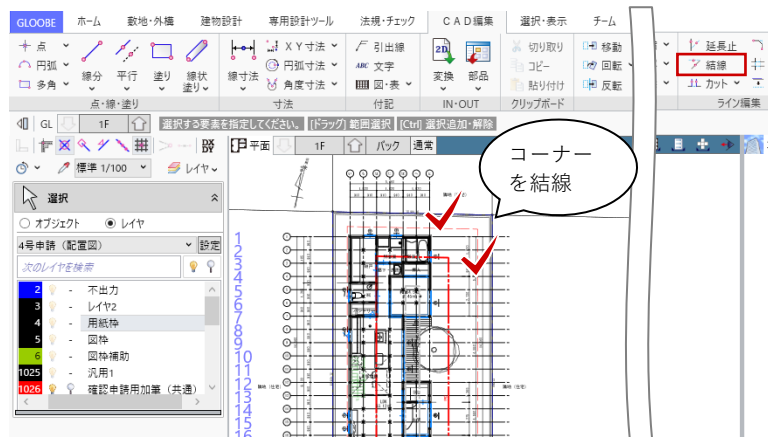
「CAD 編集」タブから「平行」メニューの「平行線」をクリックします。
レイヤ：1026 確認申請用加筆（共通）

敷地境界線を基準線としてクリックし、内側方向に間隔 1000 の平行線を入力します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

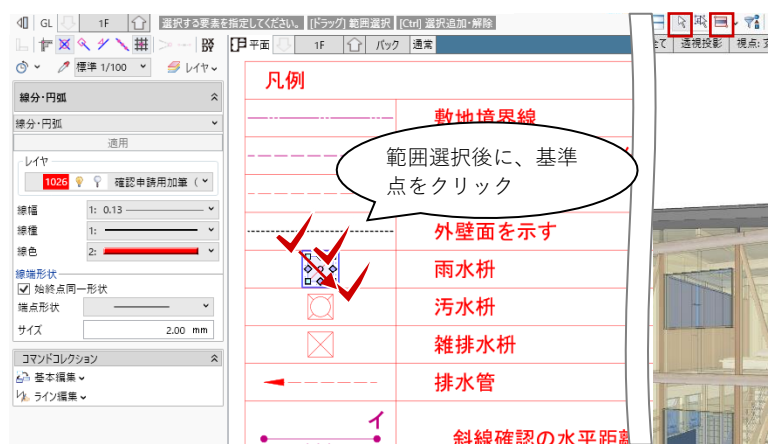
4周とも同様に入力して、コーナー部は「CAD 編集」タブから「結線」をクリックして処理します。



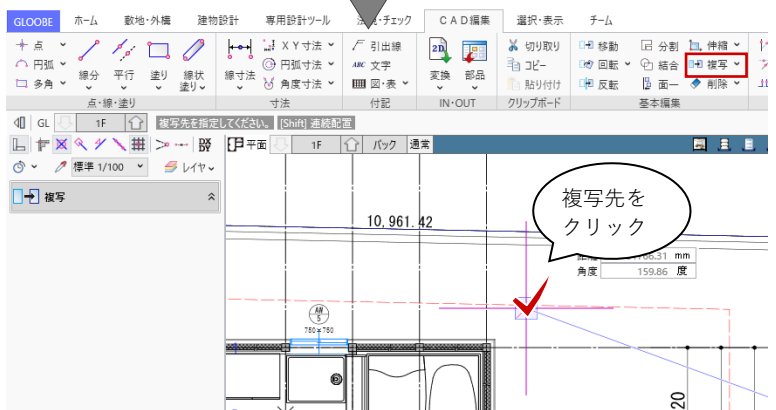
2.5.3. 柵・排水管

平面ビュー内に配置されている凡例表を利用して、雨水柵や污水柵、排水管を作図します。

ツールバーの「選択」より、凡例内の雨水柵の凡例記号を矩形範囲で選択します。

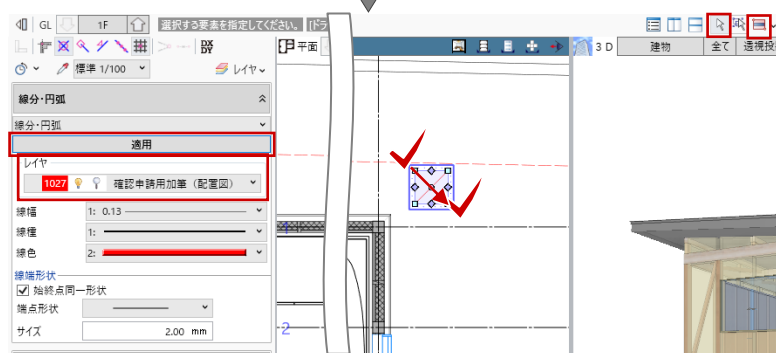


「CAD 編集」タブから「複写」をクリックします。複写の基準点を指定して、次に複写先をクリックで指定します。



ツールバーの「選択」より、複写した雨水柵の凡例記号を矩形範囲で選択します。

コマンドサポートウィンドウより、レイヤ：1026 確認申請用加筆（配置図）に変更して、「適用」をクリックします。



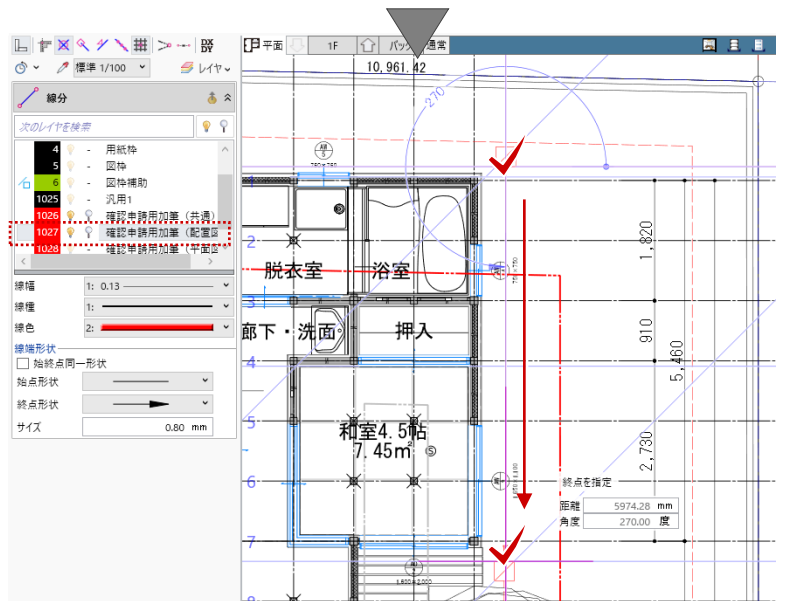
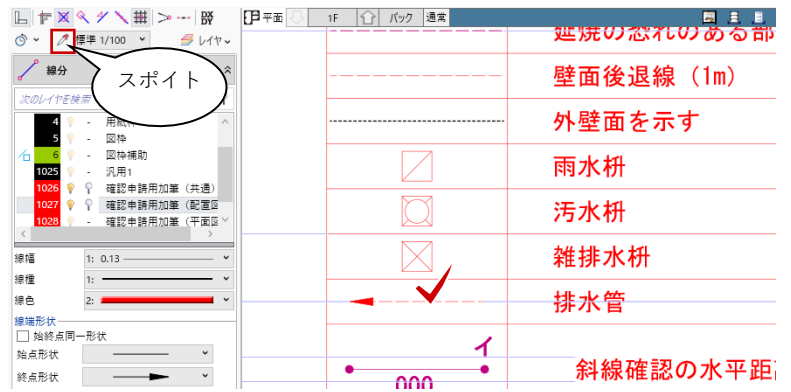
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

排水管は「スポイト」機能を利用します。

「スポイト」をクリックして、凡例内の排水管の線分をクリックします。

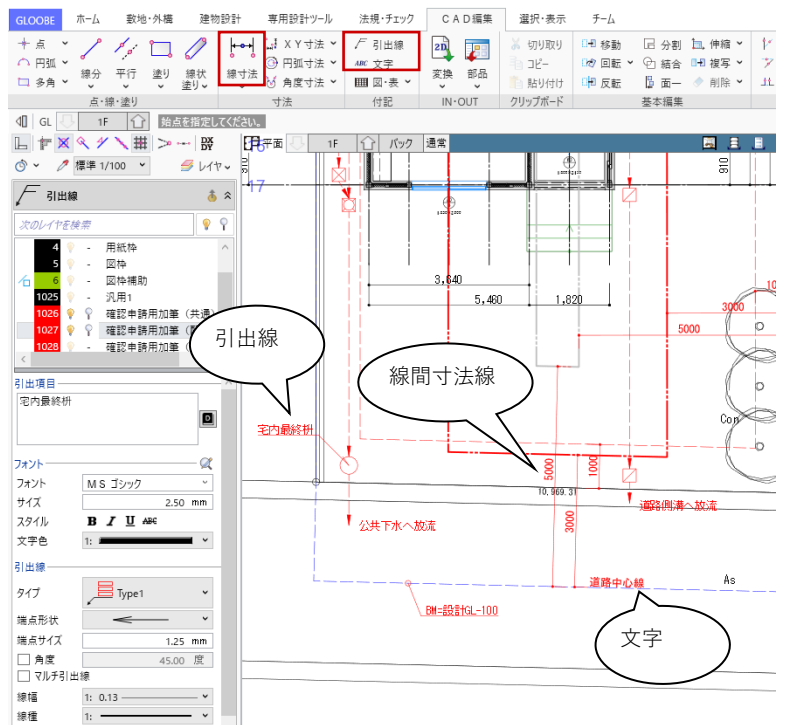
レイヤ：1026 確認申請用加筆（配置図）

そのまま「線分」で入力します。



2.5.4. 寸法線・文字・引出線

その他にも「線間寸法線」や「引出線」「文字」といった機能を利用して必要な内容を加筆します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.6. 【図面作成】配置図

2.6.1. 用紙枠

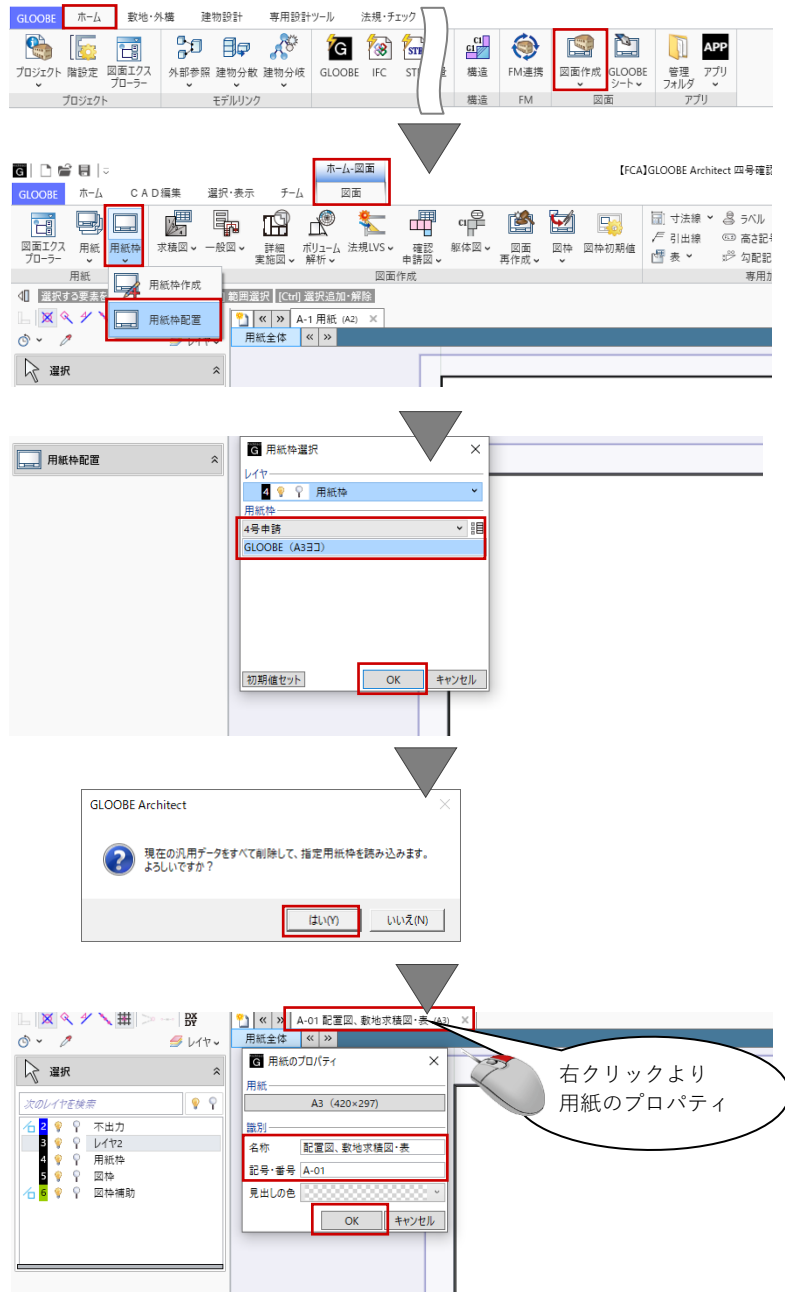
「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「図面作成」の専用画面に切り替わり「図面」タブが表示されます。

「図面」タブから「用紙枠」メニューの「用紙枠配置」をクリックして、用紙枠：4号申請 GLOOBE (A3ヨコ) を選択して「OK」します。

メッセージが表示された場合は確認して「はい」とします。

用紙のタブの上で右クリックして、「用紙のプロパティ」より名称を「配置図、敷地求積図・表」、記号・番号を「A-01」とします。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.6.2. 平面図（屋根伏図）

「図面」タブの「一般図」メニューから「平面図」をクリックします。

「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」－「屋根伏図（バルコニー有）」を選びます。

名称：屋根伏図

縮尺：1/150

「詳細指定」をクリックします。

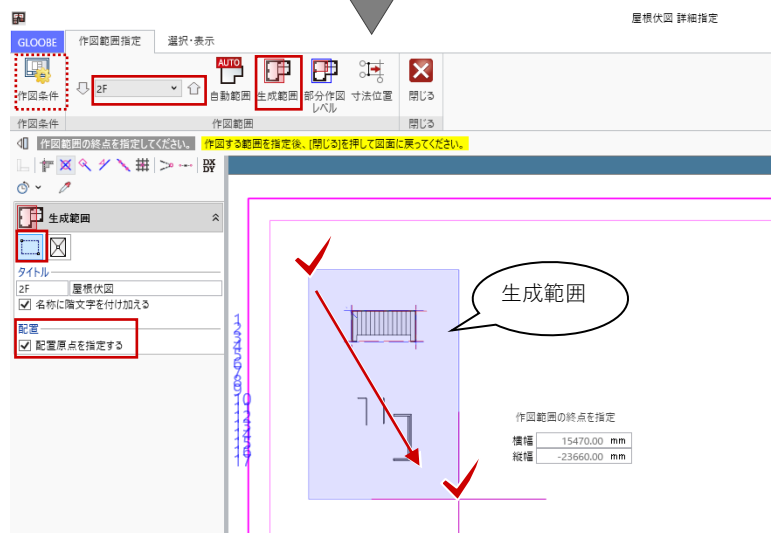
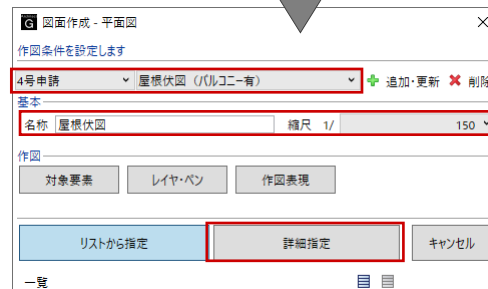
「屋根伏図 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

「2F」を表示します。

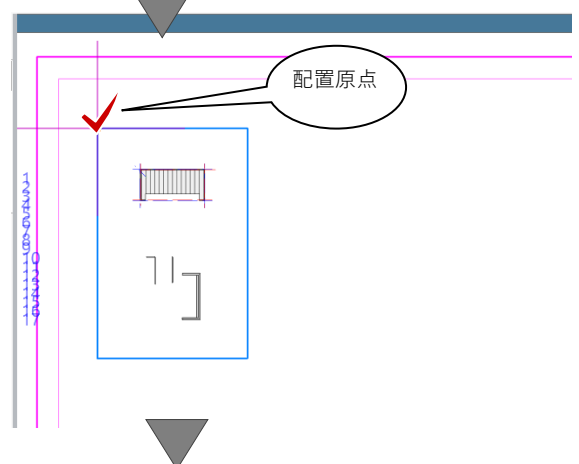
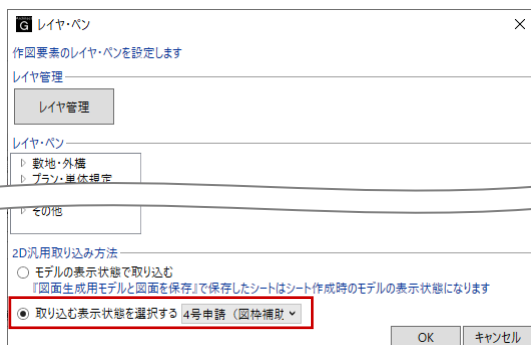
「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

配置原点を指定する：ON にします。表示されている図枠補助線の範囲に合わせて生成範囲を指定します。範囲指定後、原点（ここでは生成範囲の左上）をクリックで指定します。



今回配布された平面図の作図条件テンプレート「4号申請－屋根伏図（バルコニー有）」では、第1章「1.3 加筆用レイヤの設定」でご紹介した2Dレイヤの表示設定「名称：4号申請（図枠補助）」を作図条件として利用しています。

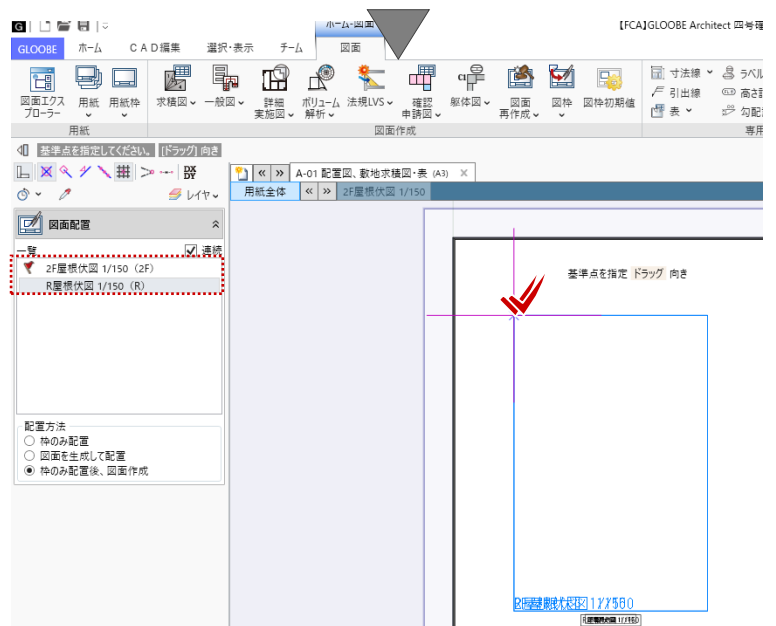
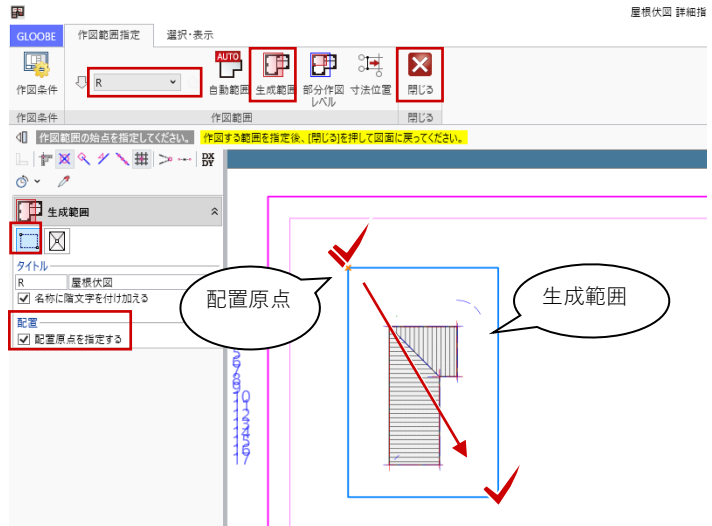


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

階を「R」に切り替えて、同様に生成範囲と原点を指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「2F 屋根伏図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続けて、「R 階屋根伏図」も同じ原点に図面が重なるように配置します。

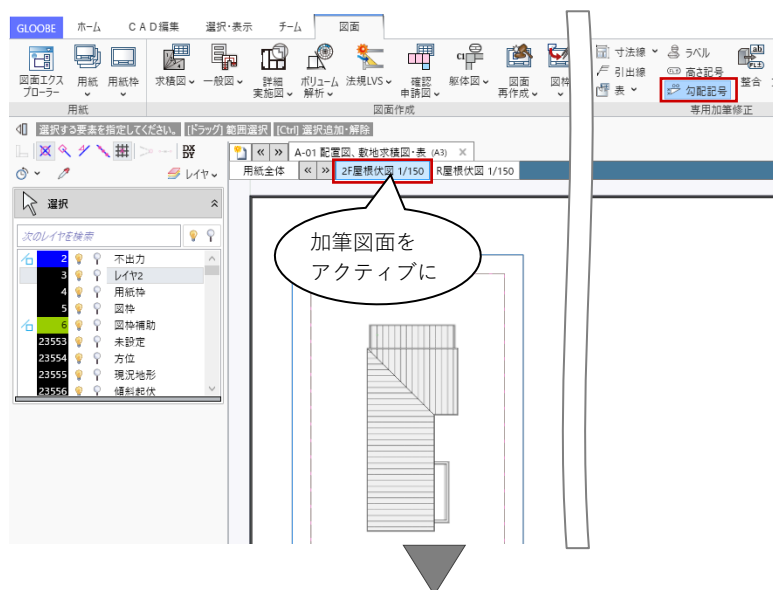


2.7. 【図面作成】専用加筆

2.7.1. 勾配記号

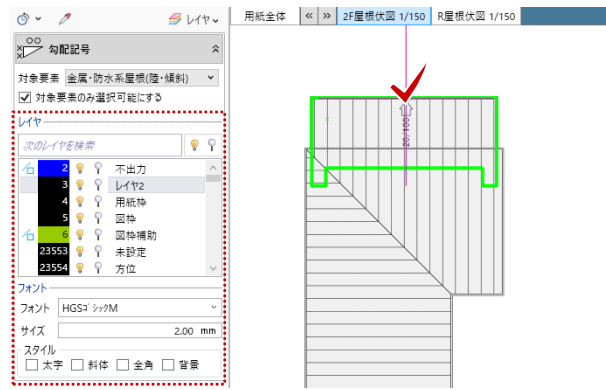
加筆したい図面（ここでは2F 屋根伏図）をアクティブにします。

「図面」タブの「勾配記号」をクリックします。

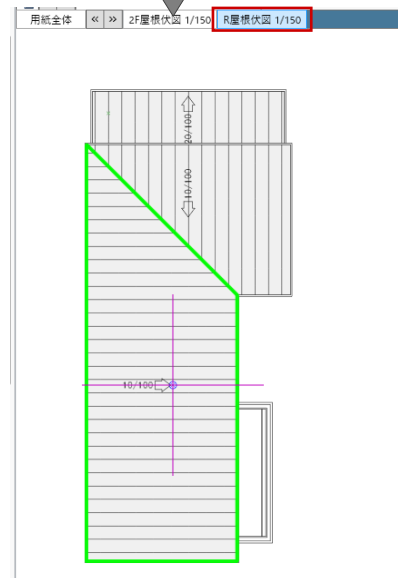


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2F 屋根をクリックします。
レイヤやフォント、サイズ等を指定して勾配記号を配置します。



「R 屋根伏図」をアクティブにして、同様に勾配記号を配置します。



2.7.2. 配置図

「図面」タブの「一般図」メニューから「配置図」をクリックします。



「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」-「配置図」を選びます。

名称：配置図
縮尺：1/150



「詳細指定」をクリックします。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「配置図 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

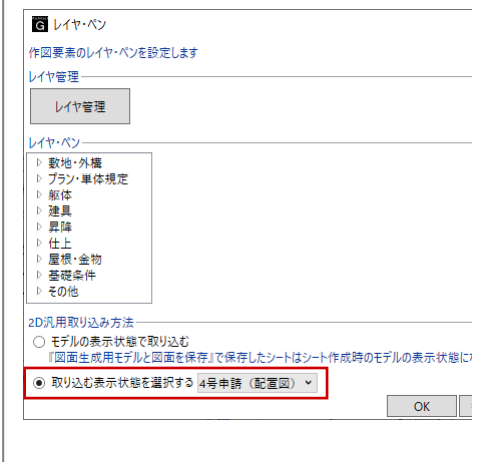
「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

配置原点を指定する：ON にします。表示されている図枠補助線（配置図）の範囲に合わせて生成範囲を指定します。

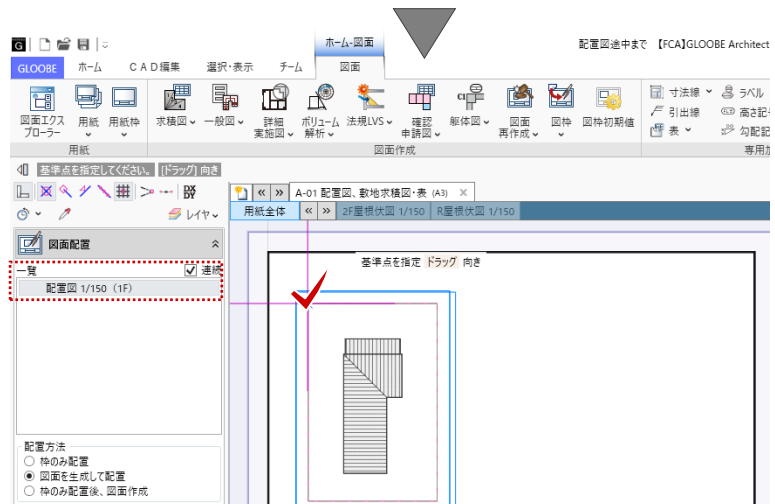
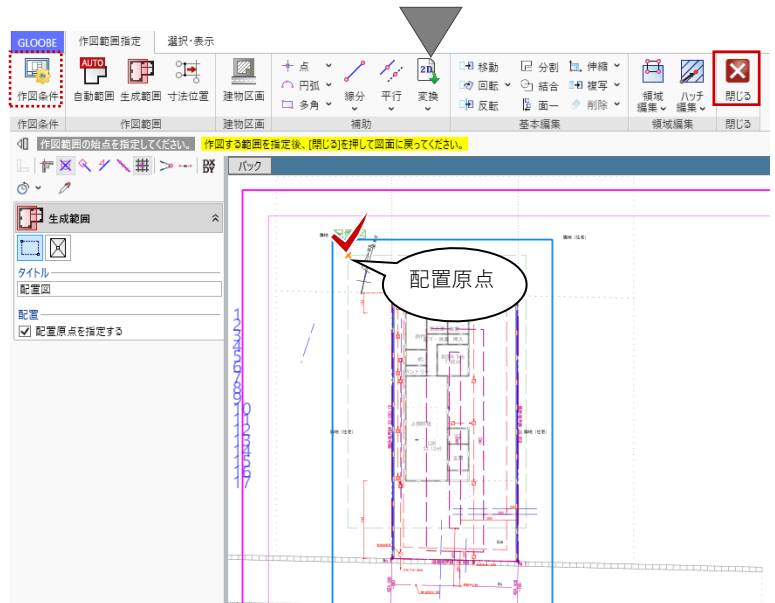
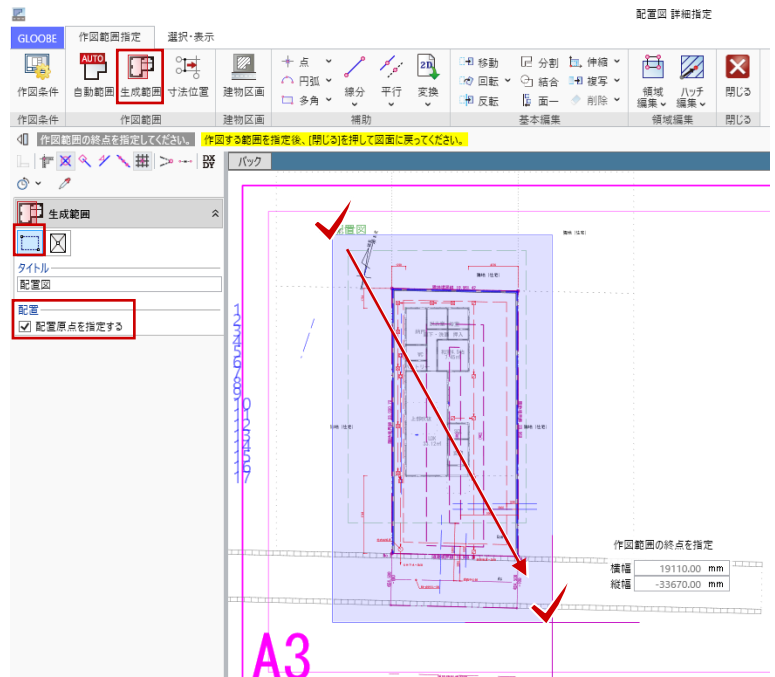
範囲指定後、原点（屋根伏図と同じ内側の図枠補助線の左上）をクリックで指定します。

作図条件テンプレート「4号申請-配置図」では、第1章「1.3 加筆用レイヤの設定」でご紹介した2Dレイヤの表示設定「名称：4号申請（配置図）」を作図条件として利用しています。



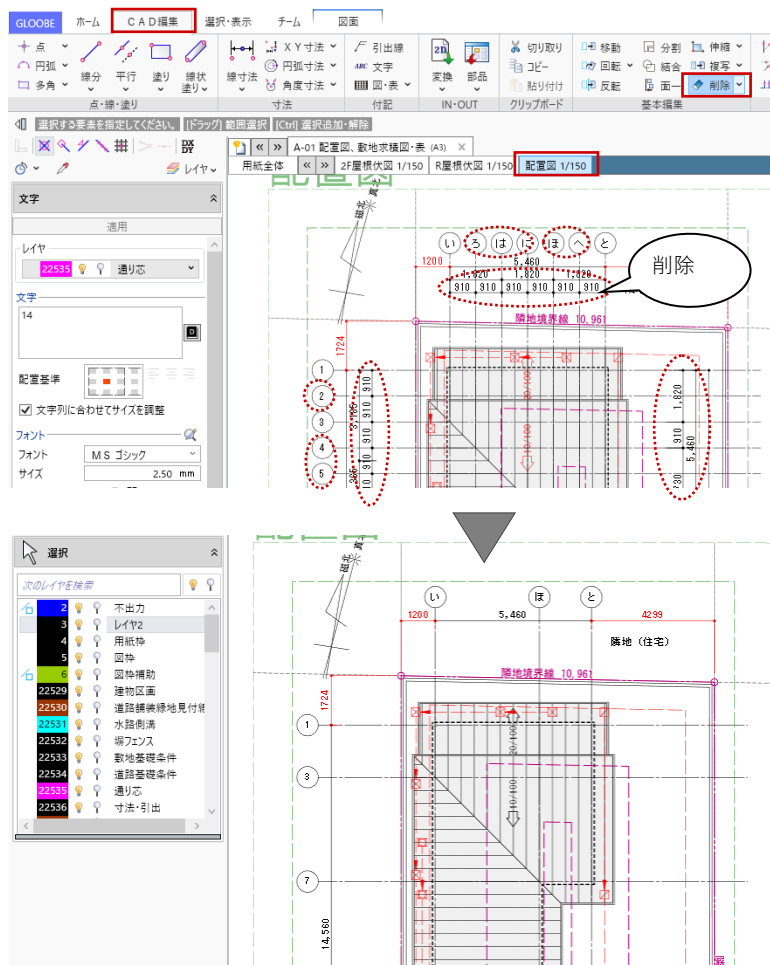
「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「配置図」が選択されていることを確認し、先に配置した「屋根伏図」と同じ原点をクリックして、図面が重なるように配置します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

編集したい図面（ここでは配置図）をアクティブにします。
 最外周部の外形寸法だけを残して、不要な通り芯と芯間寸法線を削除します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.8. 【図面作成】専用加筆

2.8.1. 高さ記号

「専用加筆修正」の各機能を利用し、BIM データが持つプロパティ情報を取得して図面上に配置します。
加筆したい図面（ここでは配置図）をアクティブにします。

「図面」タブの「高さ記号」をクリックし、「対象要素」を指定します。

入力モード：1点方向

対象要素：道路・舗装・緑地

高さ記号テンプレートから、

グループ：一般

名称：高さ_1 を選びます。

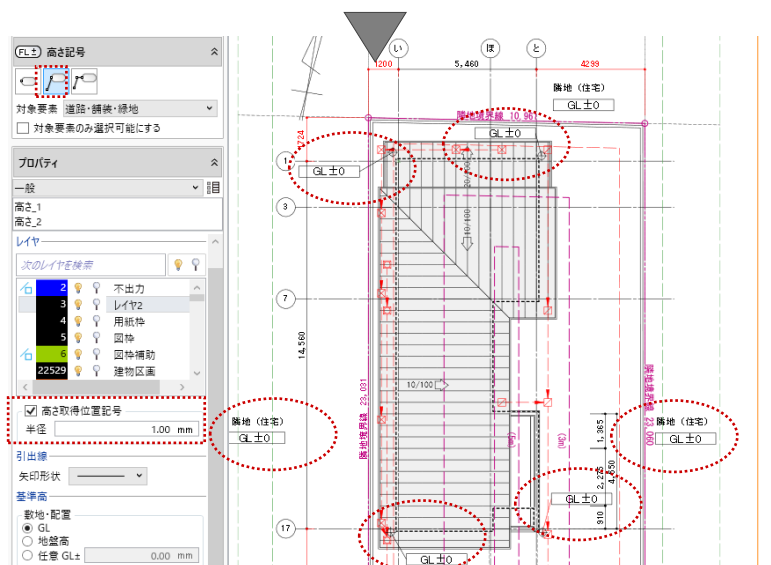
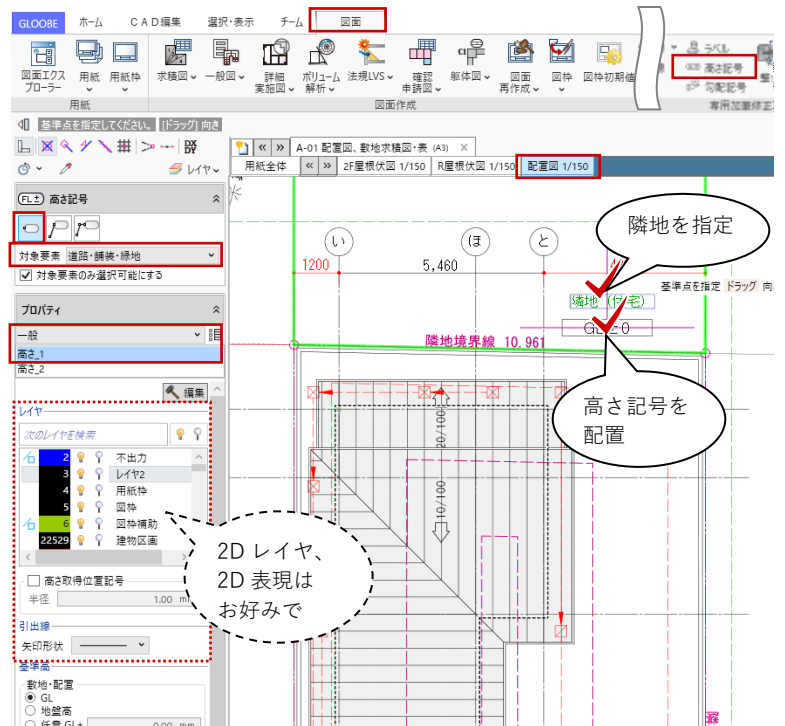
レイヤや引出線の矢印形状、基準高等は任意に設定します。

対象（ここでは隣地）をクリックします。高さ情報が取得され記号化されますので、図面上にクリックで配置します。

同様にして、必要な高さ記号を加筆します。

入力モード：引出線付き

高さ取得位置記号：ON で、引出線付きも配置できます。



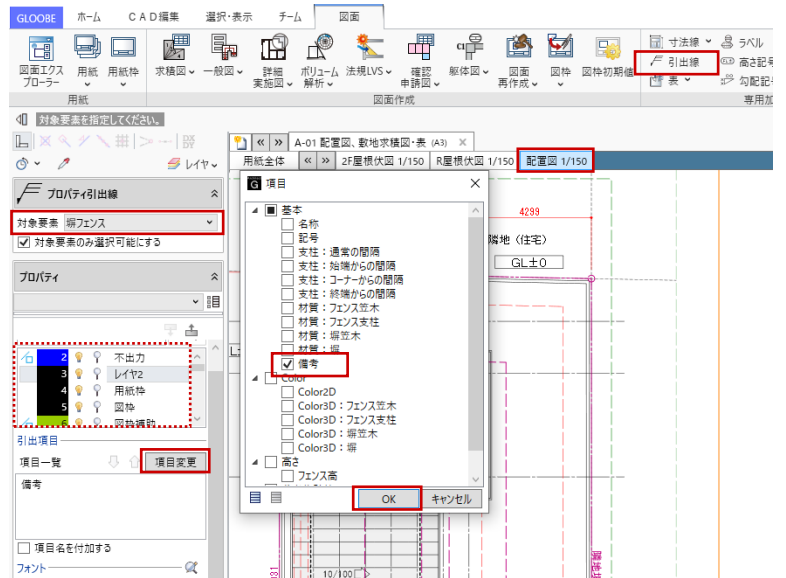
2.8.2. 引出線

加筆したい図面（ここでは配置図）をアクティブにして、「図面」タブの「引出線」をクリックします。

対象要素：塀フェンス

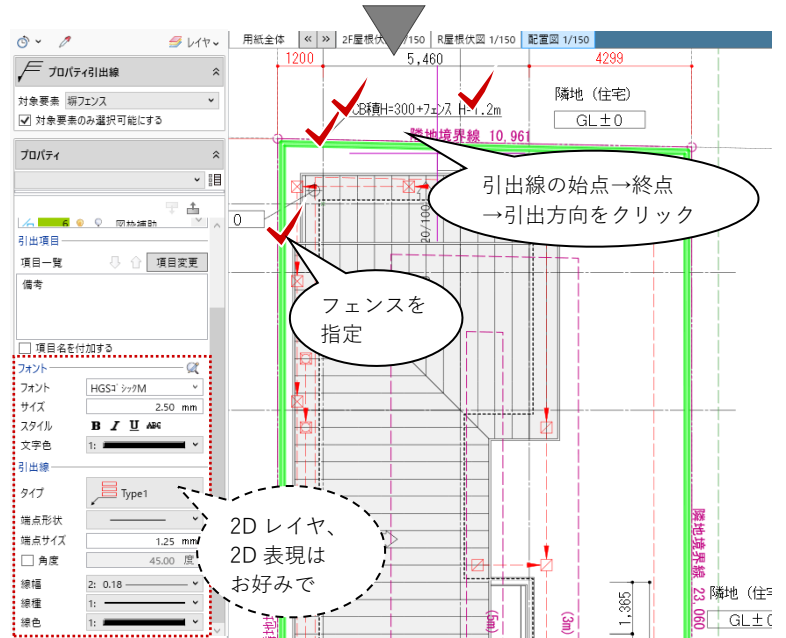
「項目変更」をクリックし、「備考」をONにして「OK」します。

レイヤやフォント、引出線のタイプなどは任意に設定します。

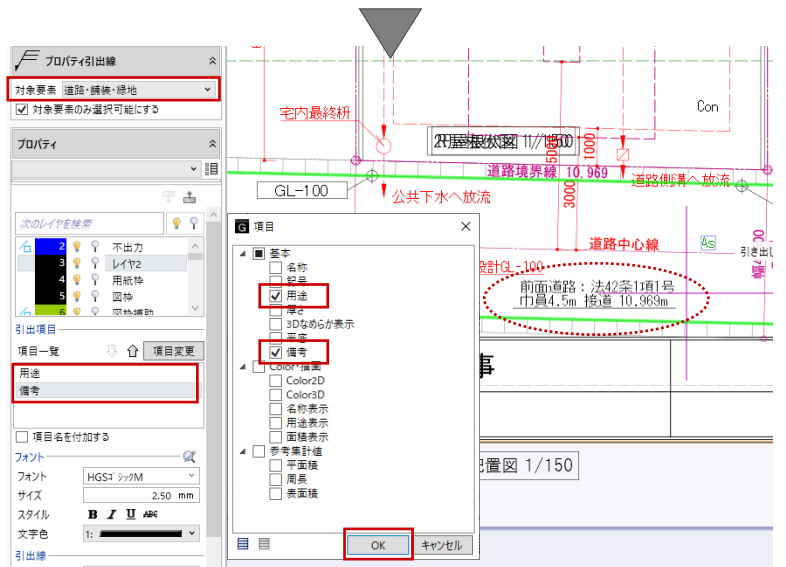


対象（ここでは敷地外周部のフェンス）をクリックします。備考のテキスト情報が取得されますので、図面上にクリックして引出線を配置します。

塀フェンスの「備考」は、「2.4.3.ユーザープロパティ編集」でご紹介した「ユーザープロパティ編集」で追加したオリジナルの項目です。



同様にして、必要な引出線を加筆します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.9. 【図面作成】2D CAD 編集

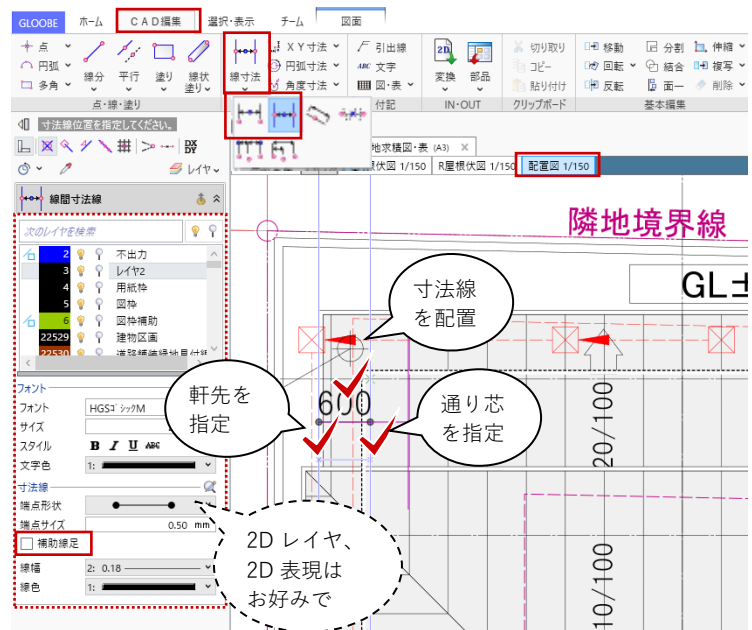
2.9.1. 寸法線

2D 汎用 CAD 機能を利用して加筆します。

加筆したい図面（ここでは配置図）をアクティブにします。

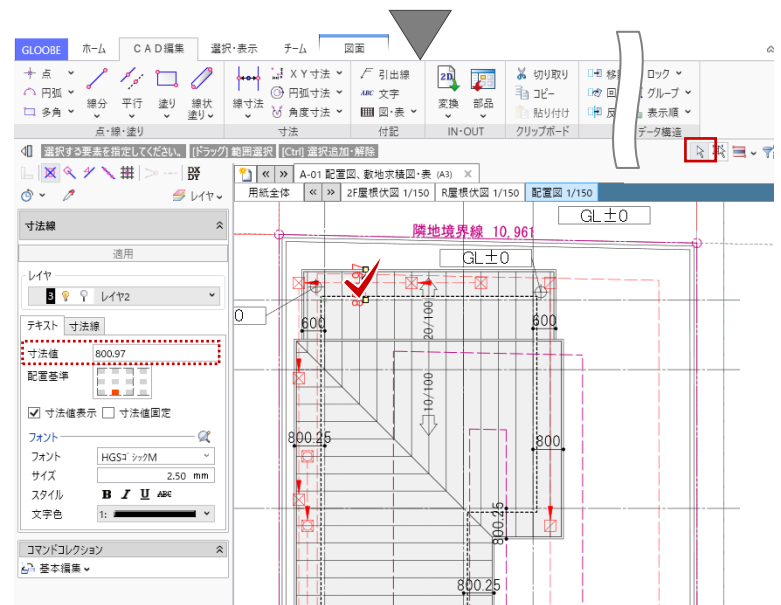
「CAD 編集」タブの「2点間寸法線」または「線間寸法線」で、軒の出寸法を入力します。

補助線足：OFF



同様にして、必要な軒の出寸法を加筆します。

軒形状と屋根勾配の関係で、小数点以下の数値が表示される場合があります。ツールバーの「選択」で寸法を選択して、必要に応じて数値を修正します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

©2021 建築確認における BIM 活用推進協議会 ©2021 公益社団法人日本建築士会連合会

2.10. 【図面作成】ポリウム解析配置図

2.10.1. ポリウム解析配置図

「図面」タブの「ポリウム解析」メニューから「配置図」をクリックします。

「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」－「ポリウム解析配置図」を選びます。

名称：ポリウム解析配置図

縮尺：1/150

「詳細指定」をクリックします。

「ポリウム解析配置図 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

「生成範囲」をクリックし、

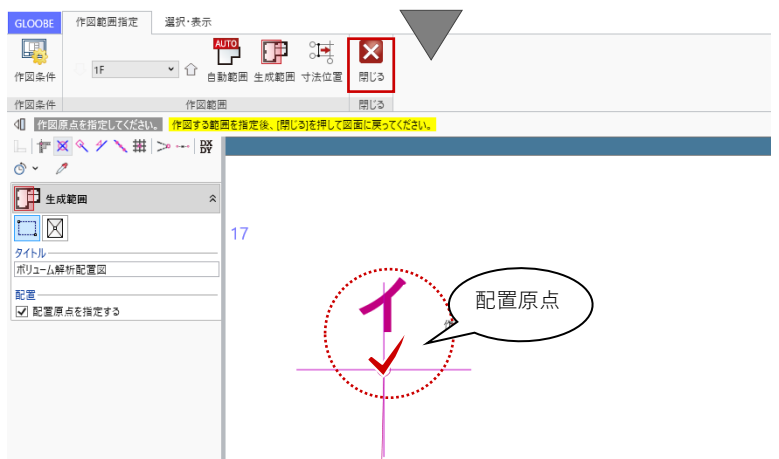
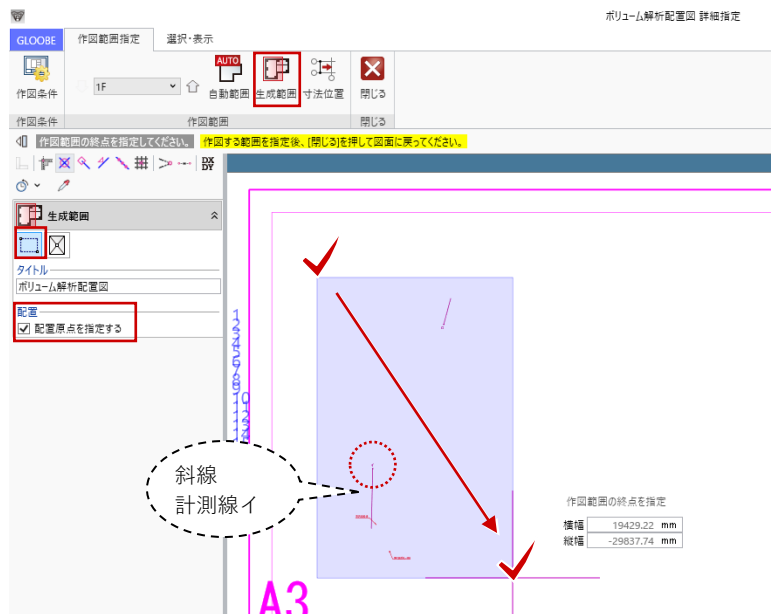
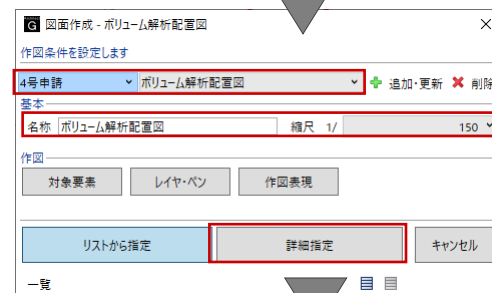
入力モード：矩形

配置原点を指定する：ON にします。

生成範囲を矩形指定します。

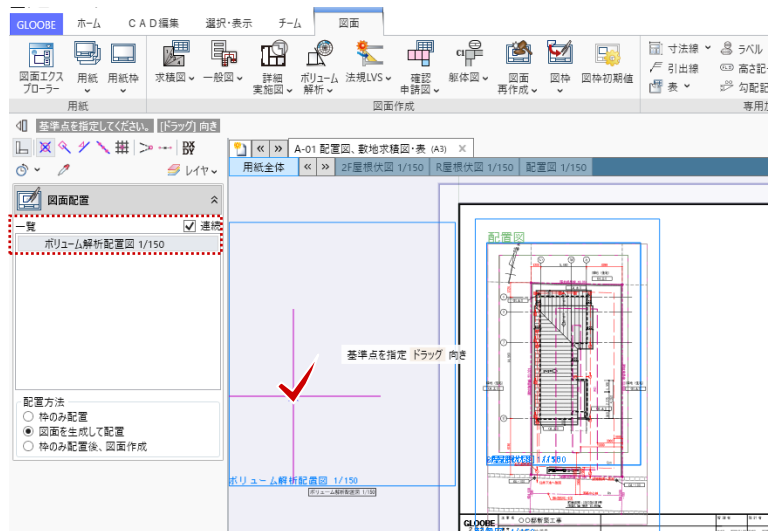
範囲指定後、原点として斜線計測線イまたは口のポイントをクリックで指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

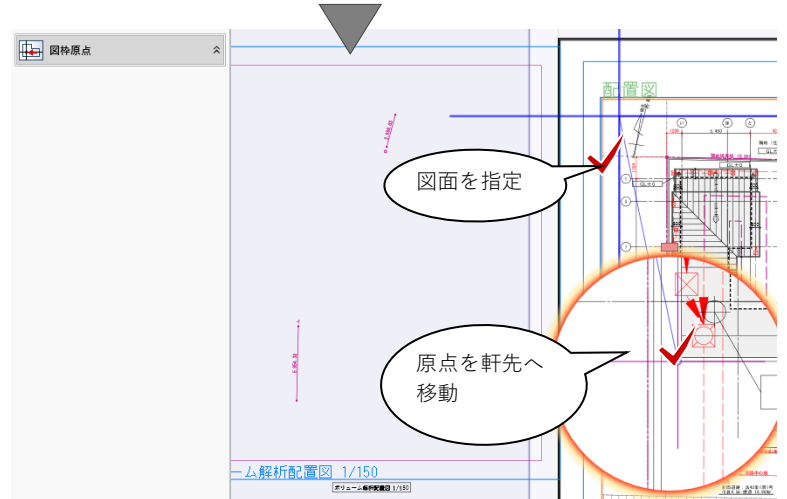
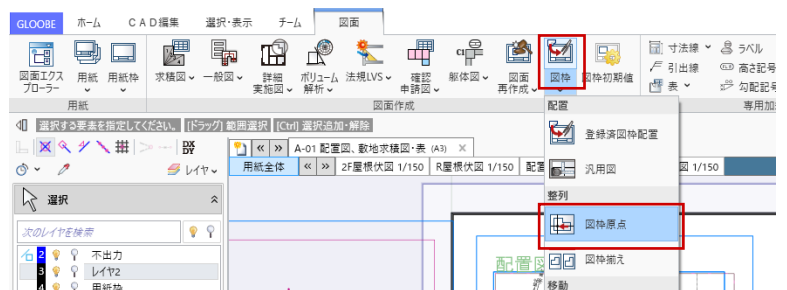
コマンドサポートウィンドウで「ボリューム解析配置図」が選択されていることを確認し、いったん用紙枠外をクリックして配置します。



2.10.2. 図枠原点・図枠揃え

「図面」タブの「図枠」メニューから「図枠原点」をクリックします。

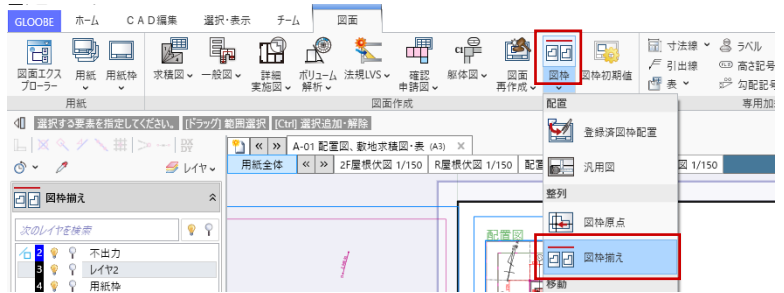
先に配置した屋根伏図または配置図の図枠をクリックで指定します。図枠原点を斜線計測線のポイントになる屋根の軒先をクリックして、原点を移動します。



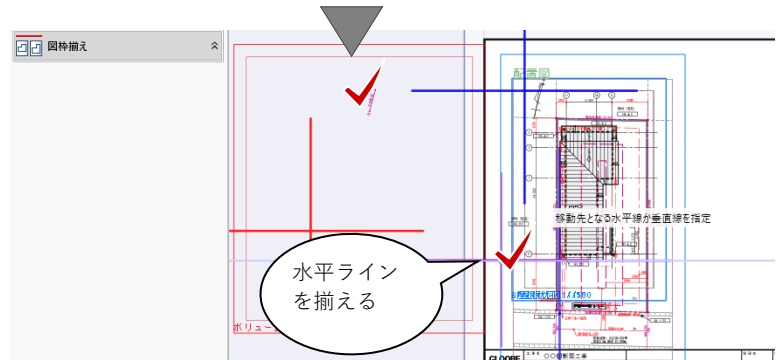
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

©2021 建築確認における BIM 活用推進協議会 ©2021 公益社団法人日本建築士会連合会

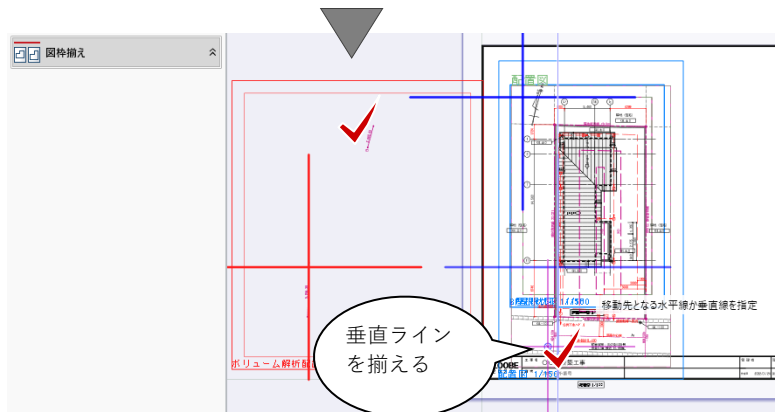
「図面」タブの「図枠」メニューから「図枠揃え」をクリックします。



配置した「ボリューム解析配置図」をクリックで選択して、先ほど原点を移動した屋根伏図または配置図の水平ラインをクリックして、原点の水平ラインを揃えます。



同様にして、垂直ラインもクリックして図面を重ねます。



2.11. 【図面作成】配置図（凡例）

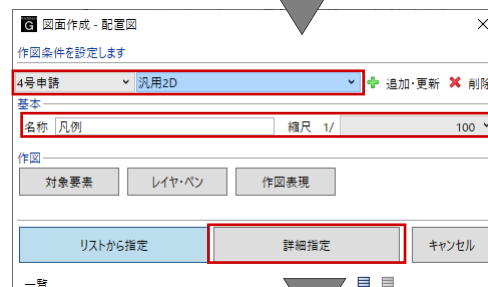
2.11.1. 配置図

「図面」タブの「一般図」メニューから「配置図」をクリックします。



「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「汎用2D」を選びます。

名称：凡例
縮尺：1/100



「詳細指定」をクリックします。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「凡例 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

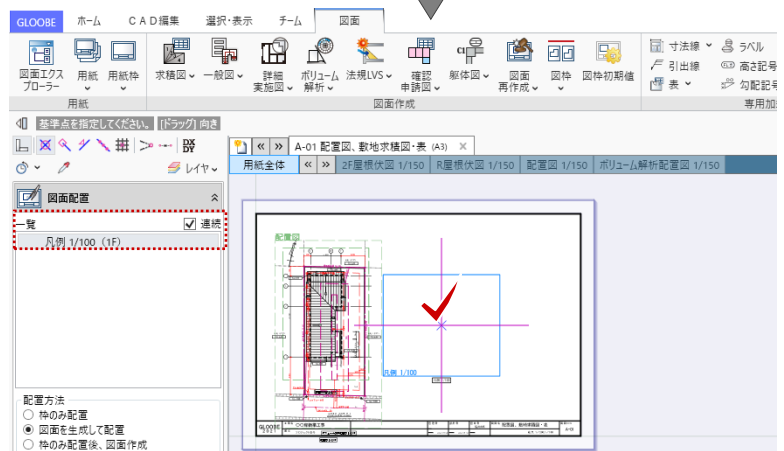
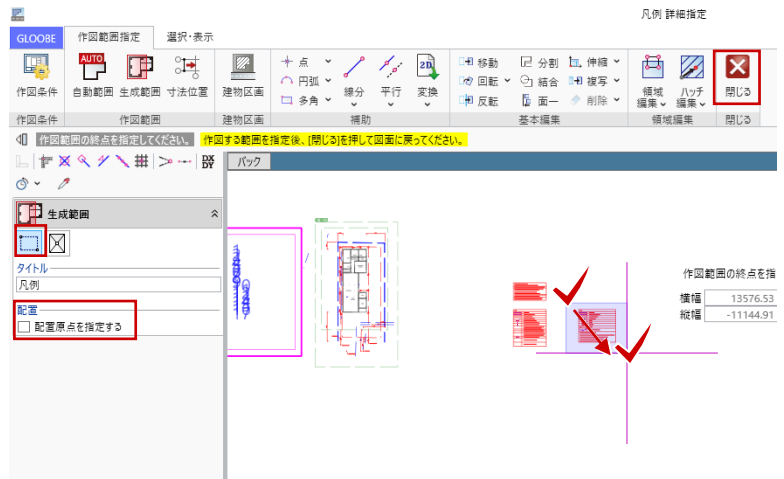
配置原点を指定する：OFF にし

ます。

生成範囲を矩形指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「凡例」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。



2.12. 【図面作成】レイアウト調整

2.12.1. 表示切替

「図面」タブの表示から、

要素：全図面

色：ペン色

図枠：なし

線幅：印刷用

線種：印刷用

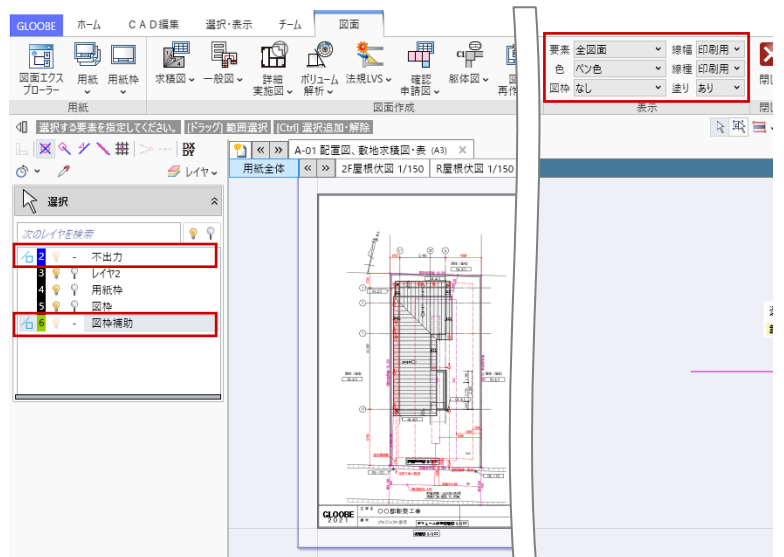
塗り：あり とします。

また選択状態のコマンドサポートウィンドウより、

レイヤ 不出力：表示 OFF

レイヤ 図枠補助：表示 OFF に

します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

2.12.2. タイトル移動

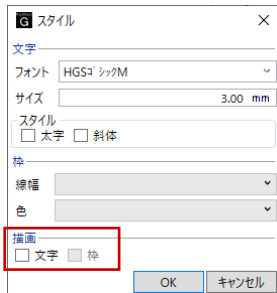
「用紙全体」をアクティブにして、全体のレイアウトを調整します。

任意の図面を選択します。

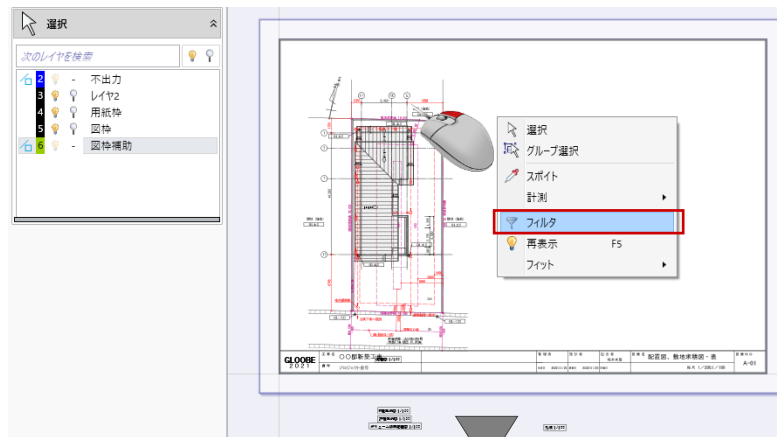
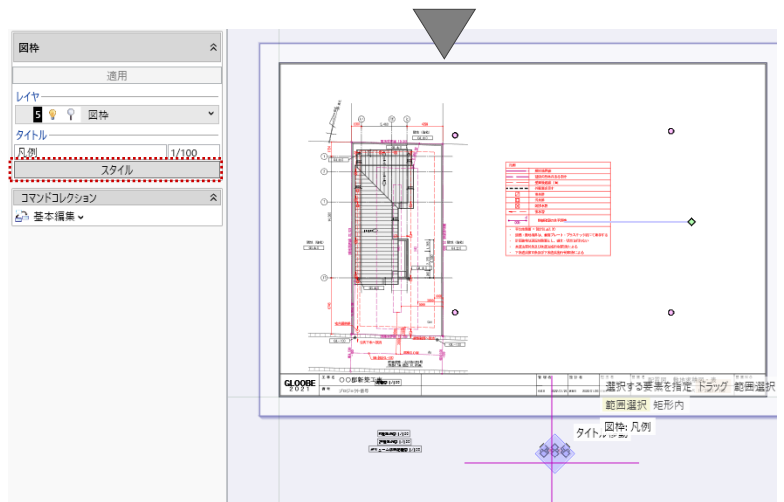
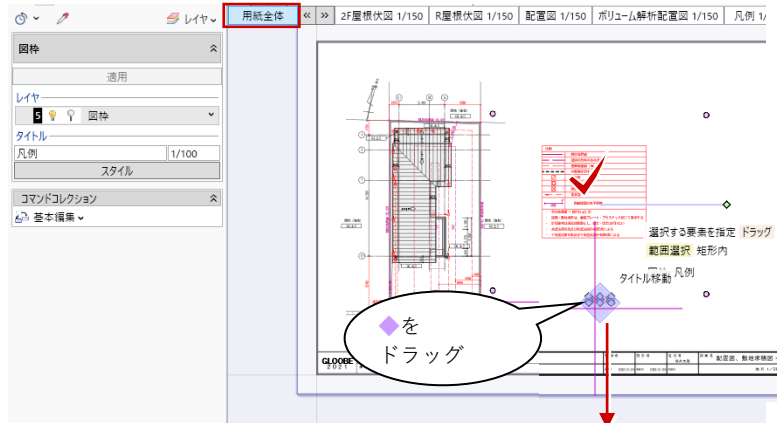
図面が重なって選択しづらい場合は、「Tab キー」を何度か押して「Enter キー」で選択対象を切り替えます。

「◆タイトル移動」のトラッカーをドラッグして、用紙枠外に不要な図面タイトルを移動します。
 ツールチップに「タイトル移動」ではなく「移動」と表示された状態でドラッグすると、図面全体が移動してしまいますので、ご注意ください。

「タイトル移動」でなく、コマンドサポートウィンドウの「スタイル」をクリックして描画を OFF にすることで、図面タイトルを非表示にできます。

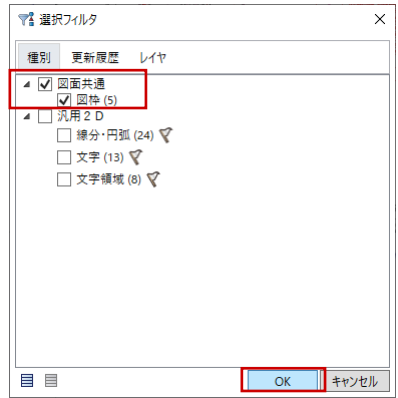


何も選択されていない状態で、右クリックのポップアップメニューより「フィルタ」をクリックします。

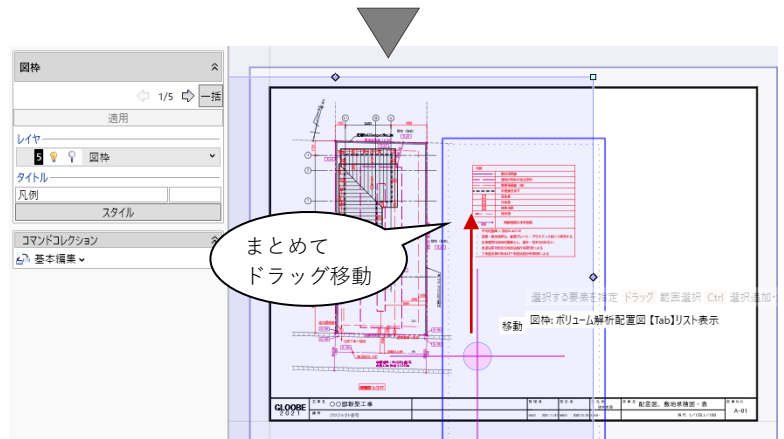


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「図枠 (5)」のみを ON にして、「OK」します。



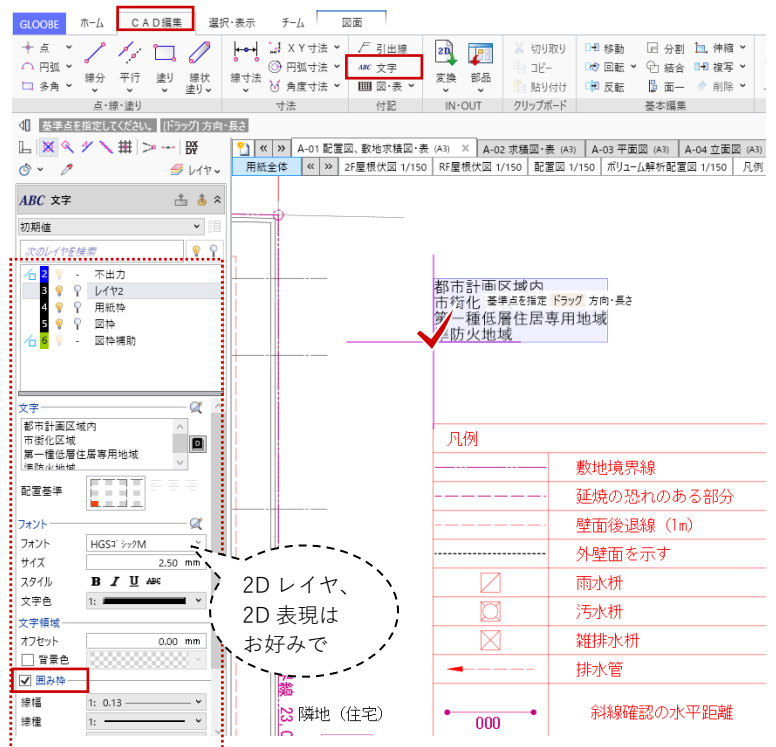
図枠全体が選択状態になりますので、そのままドラッグで移動して図面のレイアウトを調整します。
凡例など個別に移動する場合は、個別選択してドラッグで移動します。



2.13. 【図面作成】2D CAD 編集

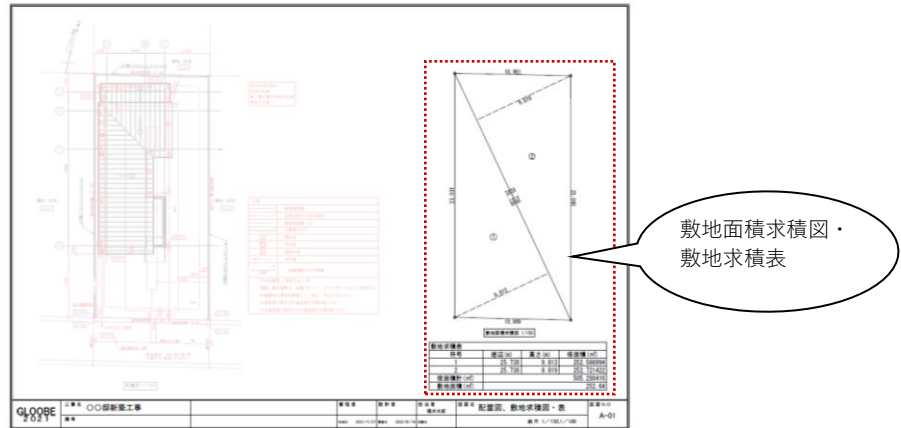
2.13.1. 文字

「CAD 編集」タブの「文字」で、法的要件を加筆します。テキストボックス内に記載事項を入力し、
囲み枠：ON にして、図面上に配置します。

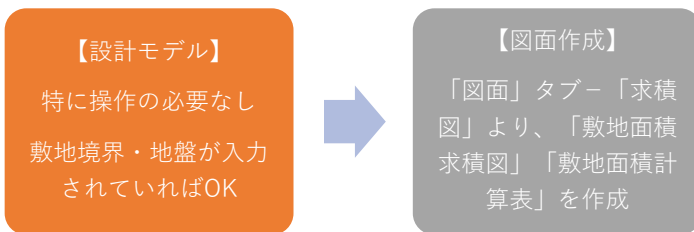


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

3. 敷地求積図・表



3.1. 作成フロー



3.2. 【図面作成】敷地面積求積図・表

3.2.1. 敷地面積求積図

「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

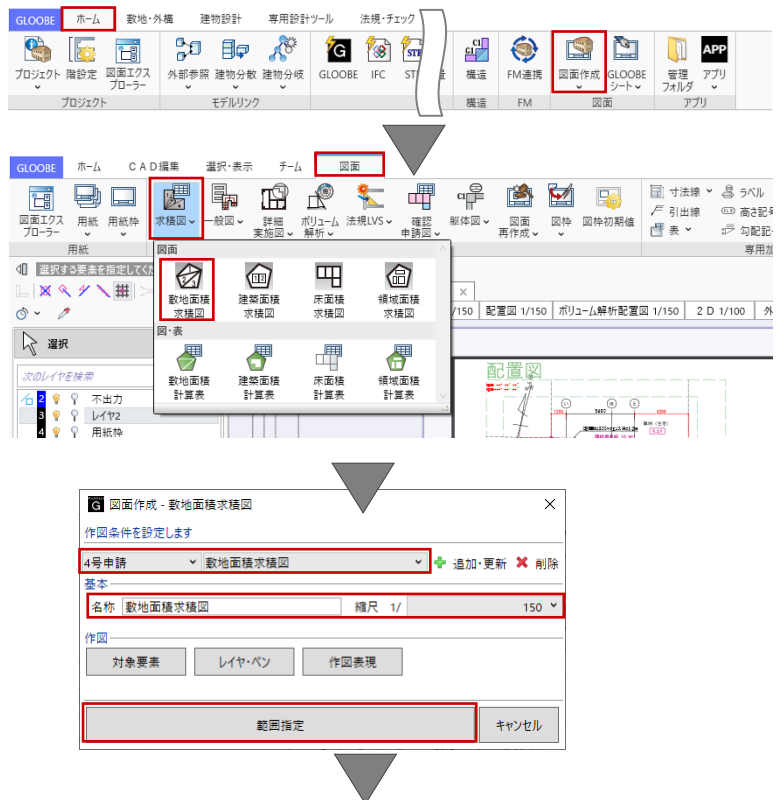
1 ページ目の右側余白部分に、敷地面積求積図をレイアウトします。

「図面」タブの「求積図」メニューから「敷地面積求積図」をクリックします。

「図面作成 - 敷地面積求積図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「敷地面積求積図」を選びます。

名称：敷地面積求積図
縮尺：1/150

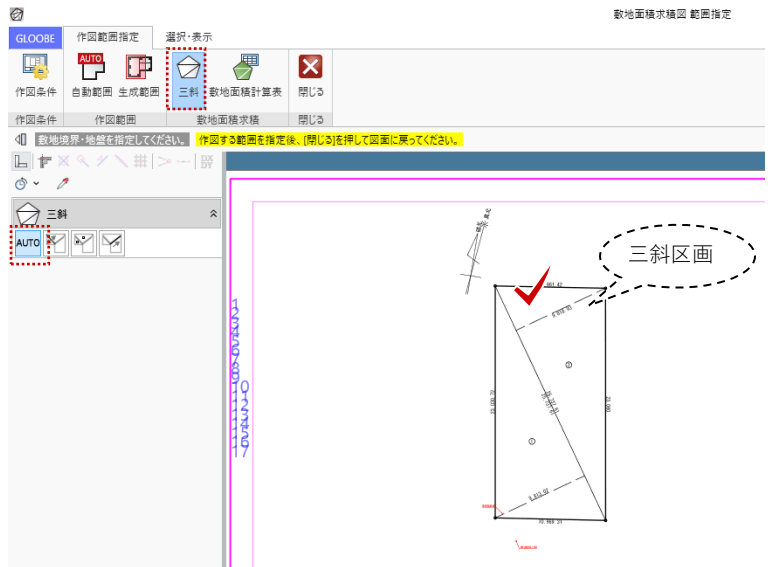
「範囲指定」をクリックします。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「敷地面積求積図 範囲指定」のウィンドウが表示されます。

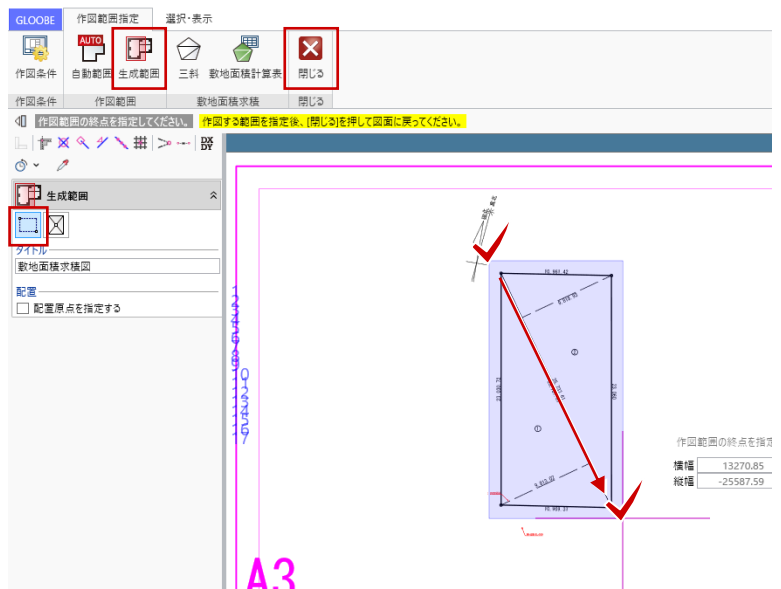
このデータではすでに三斜が入力されていますが、入力されていない場合は「作図範囲指定」タブの「三斜」をクリックして、
 入力モード：AUTO で、敷地領域内をクリックすることで三斜区画を入力します。



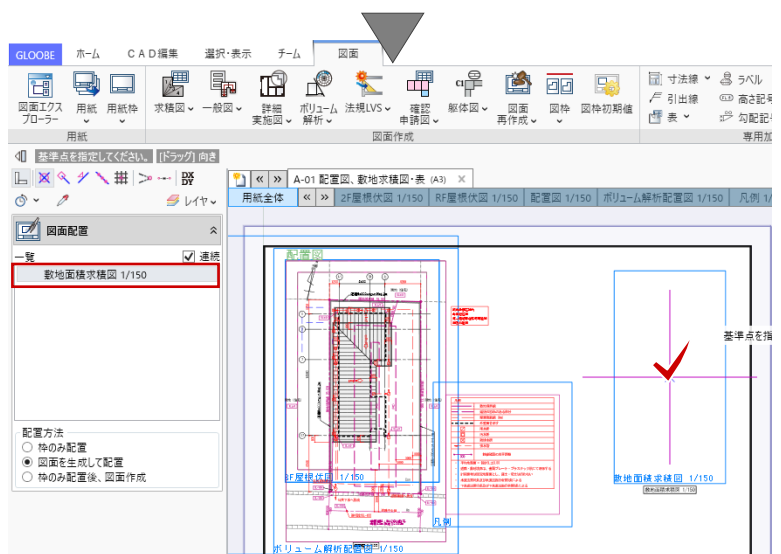
「生成範囲」をクリックして、作図範囲を指定します。

入力モード：矩形
 ここでは、方位マークを範囲に含めません。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。



コマンドサポートウィンドウで「敷地面積求積図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。



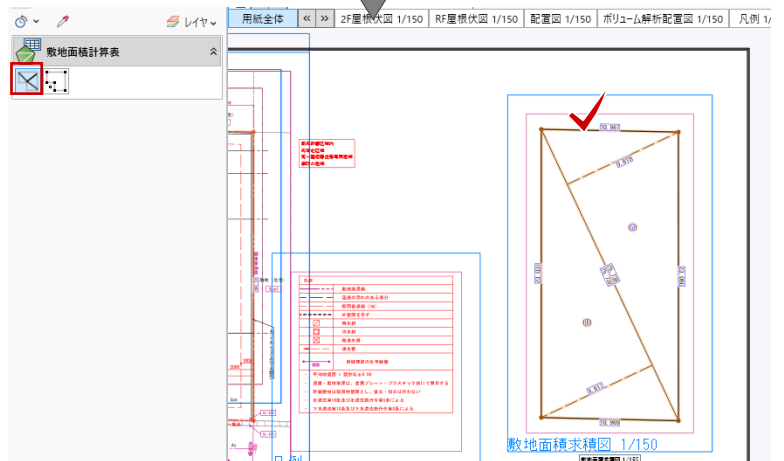
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

3.2.2. 敷地面積計算表

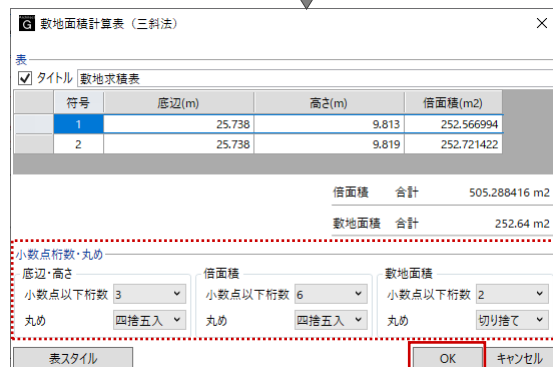
「図面」タブの「求積図」メニューから「敷地面積計算表」を開きます。



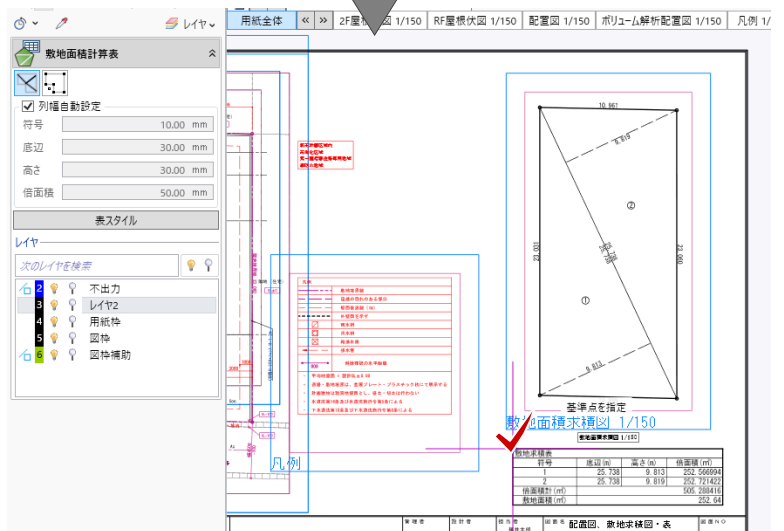
入力モード：三斜法 が選択されていることを確認して、敷地境界・地盤をクリックで指定します。



「敷地面積計算表（三斜法）」ダイアログが表示されます。小数点桁数・丸めを確認して「OK」します。

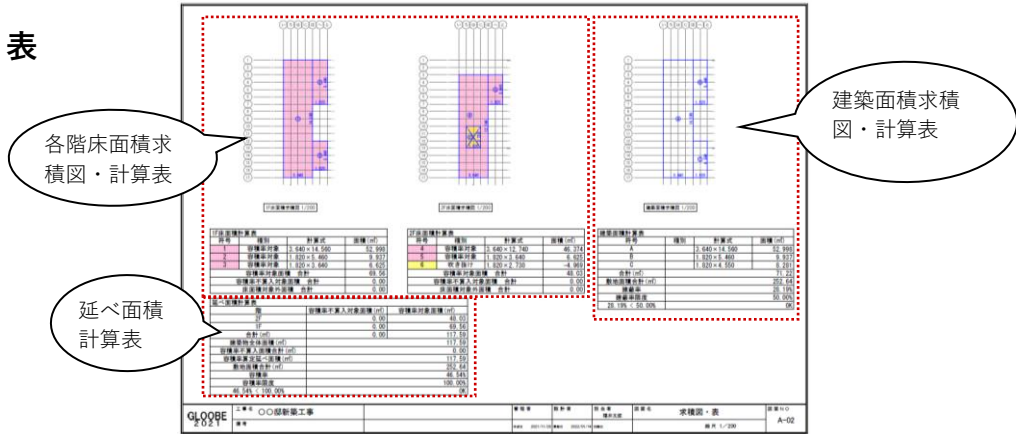


用紙上にクリックで配置します。

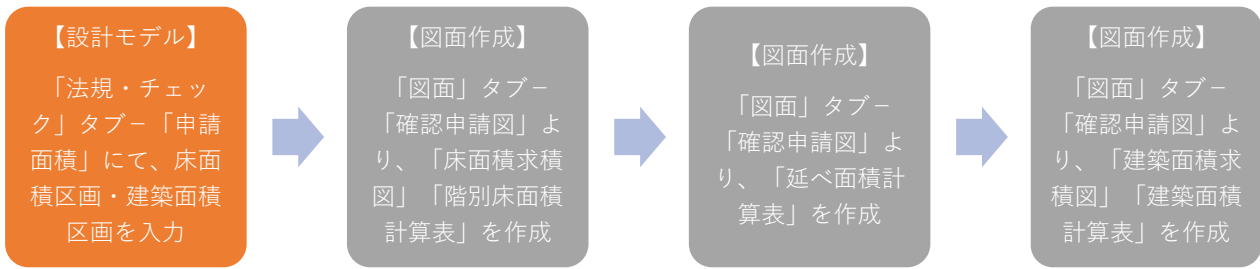


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

4. 建物求積図・表



4.1. 作成フロー

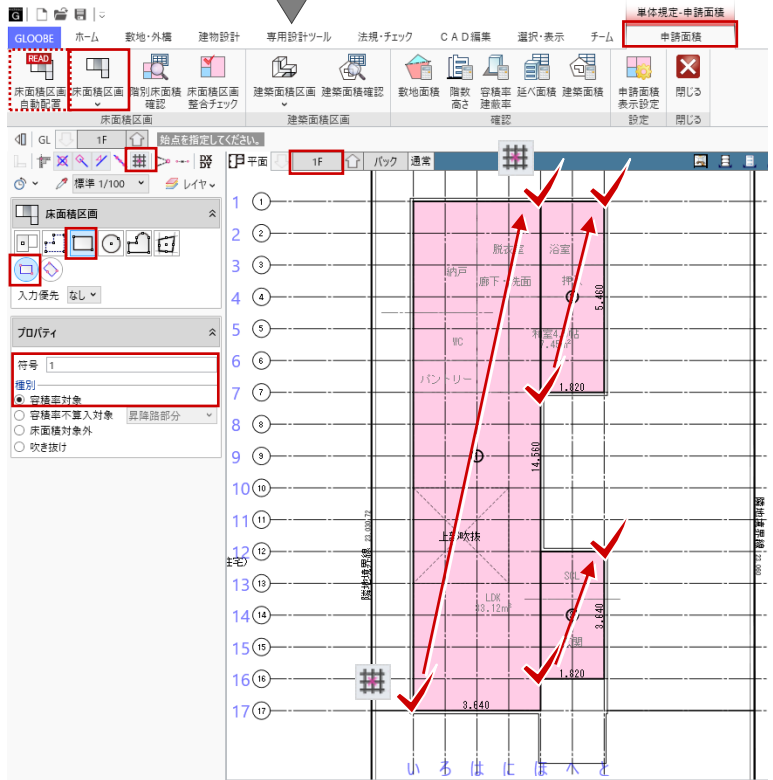


4.2. 【設計モデル】床面積区画の入力

「法規・チェック」タブから「申請面積」をクリックします。



「申請面積」タブが開きます。
表示階を 1F にします。



「床面積区画自動配置」または「床面積区画」をクリックして、床面積区画を入力します。

「床面積区画自動配置」では 1・2 階全ての階の床面積区画が自動作成できますが、ここでは「床面積区画」で個別に入力します。

入力モード：矩形－矩形
符号：1 ～3 まで
種別：容積率対象

スナップモード：グリッド

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

表示階を 2F に切り替えて、1 階同様に「床面積区画」で符号や種別を整えながら個別に入力します。

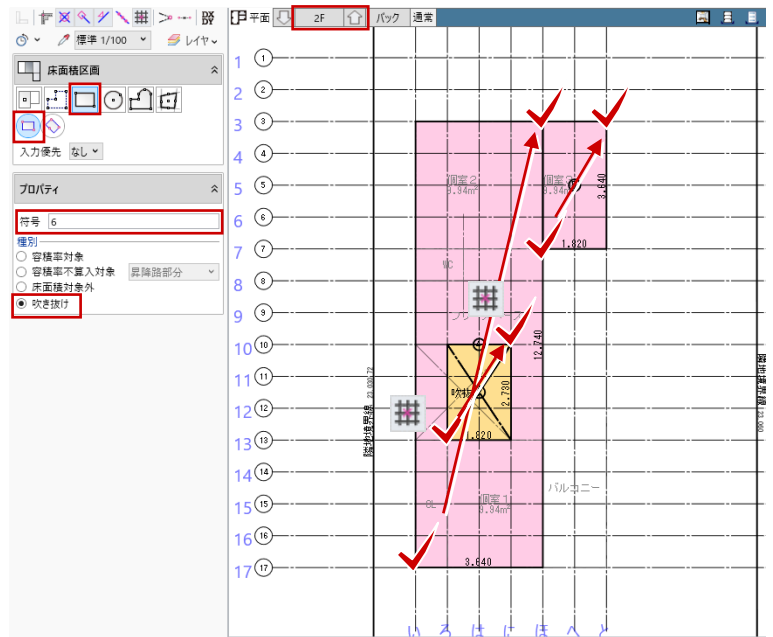
符号：4 ～5 まで

種別：容積率対象

符号：6

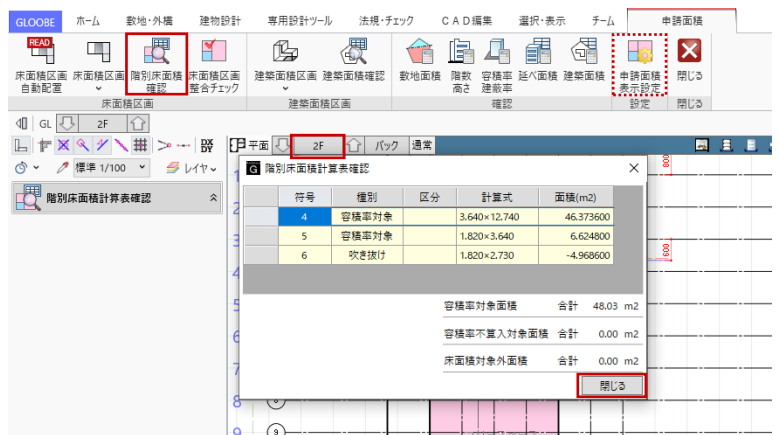
種別：吹き抜け

※区画 6 は区画 4 に重ねて入力します。

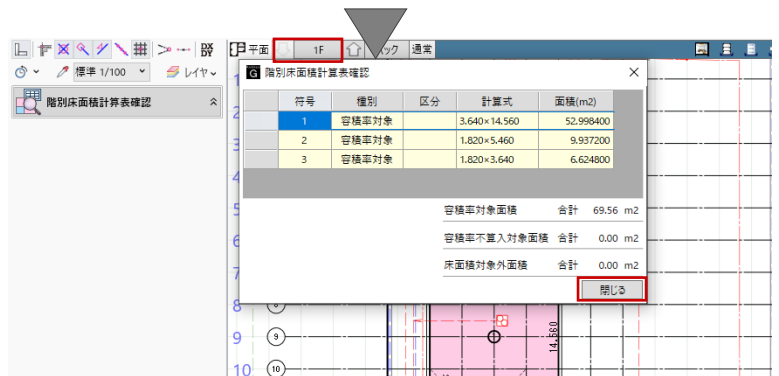
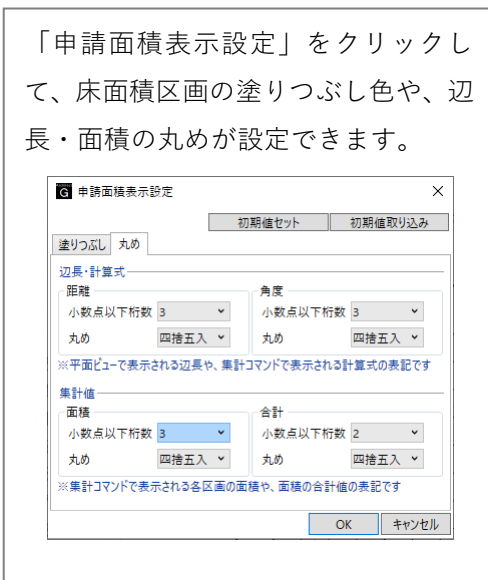


「階別床面積確認」をクリックして 2 階の床面積計算表を確認し、「閉じる」でダイアログを終了します。

表示階を 1F に切り替えて、2 階同様に床面積計算表を確認します。



「申請面積表示設定」をクリックして、床面積区画の塗りつぶし色や、辺長・面積の丸めが設定できます。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

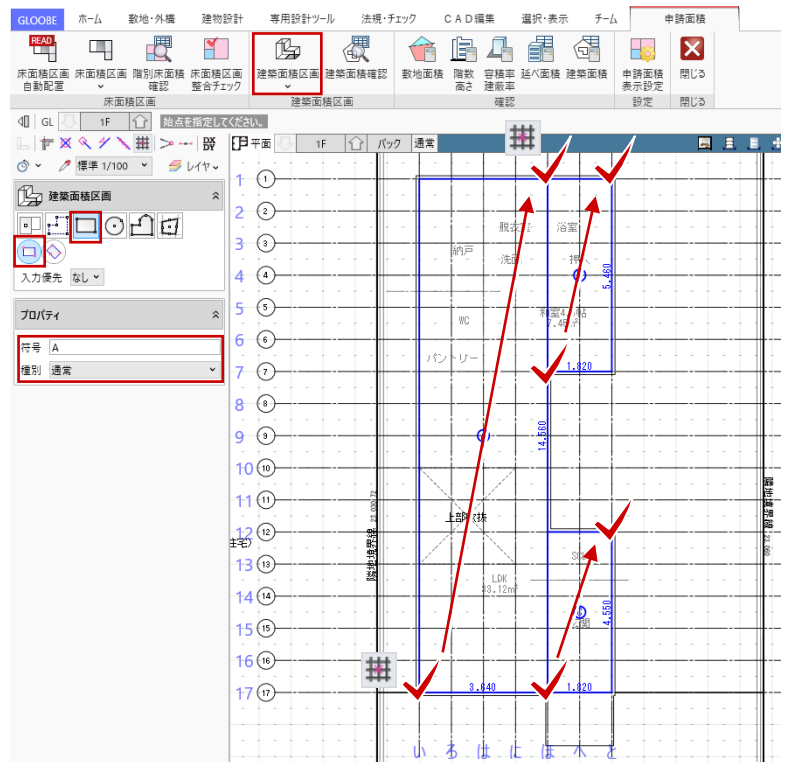
4.3. 【設計モデル】 建築面積区画の入力

「建築面積区画」をクリックして、建築面積区画を入力します。

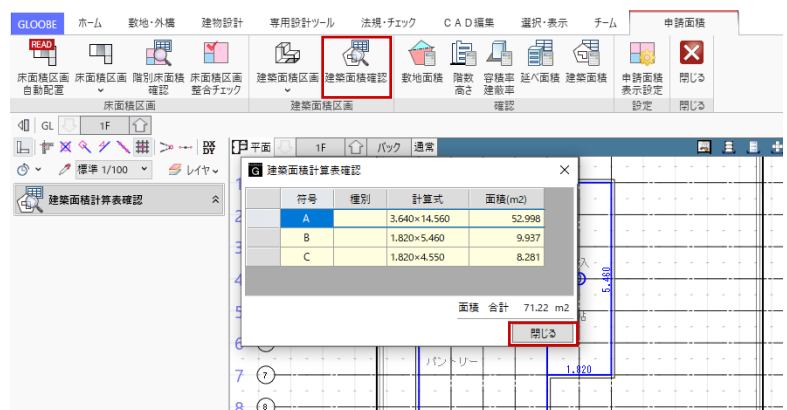
入力モード：矩形－矩形

符号：A ～C まで

種別：通常

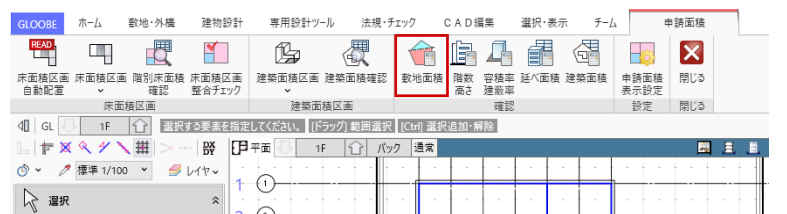


「建築面積確認」をクリックして建築面積計算表を確認し、「閉じる」でダイアログを終了します。



4.4. 【設計モデル】 敷地面積の確認

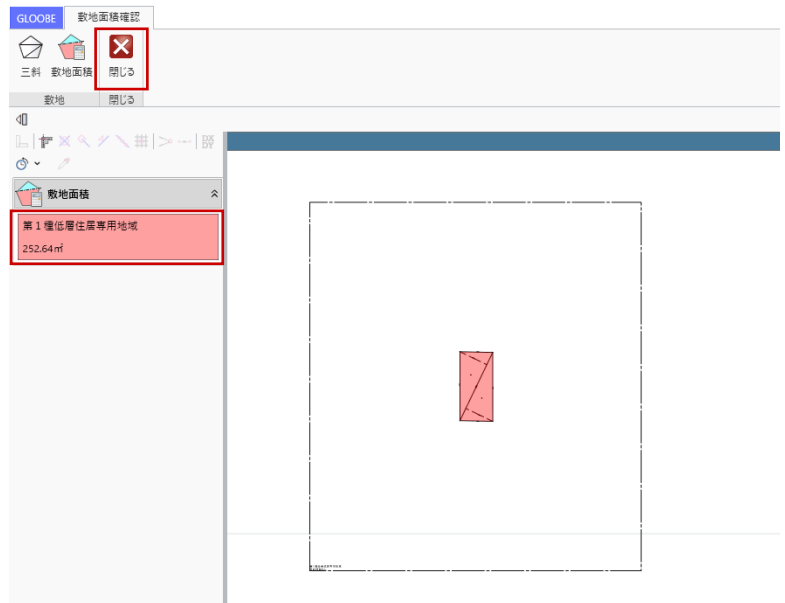
「敷地面積」をクリックします。



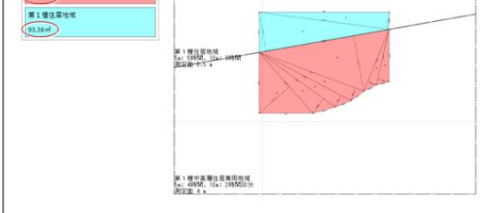
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「敷地面積確認」ウィンドウが開きます。

用途地域ごとの敷地面積を確認し、「閉じる」でウィンドウを終了します。



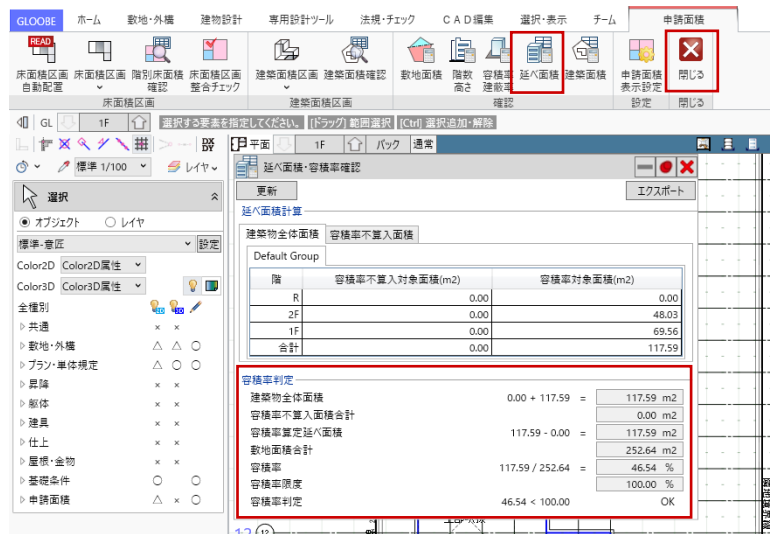
敷地が複数の用途地域にまたがっている場合は、用途地域ごとの敷地面積が表示されます。



4.5. 【設計モデル】 延べ面積の確認

「延べ面積」をクリックして、延べ面積・容積率等を確認します。

確認後、「申請面積」タブを「閉じる」で終了します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

4.6. 【図面作成】床面積求積図・表

4.6.1. 各階床面積求積図

「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「用紙の追加」で2ページ目を追加します。

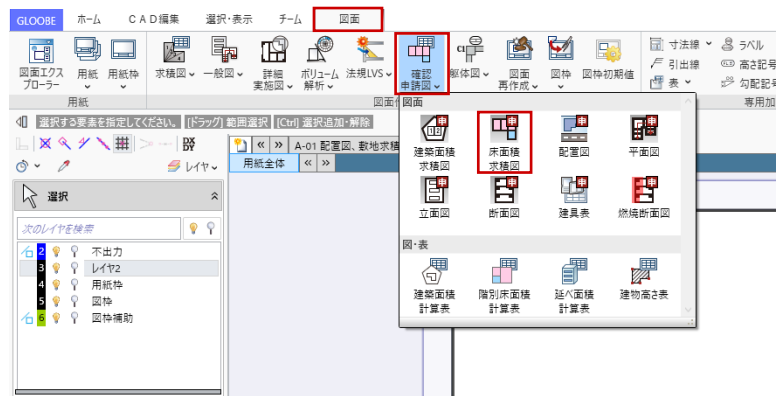
1ページ目と同様に「用紙枠配置」でA3横の図枠を用意し、「用紙のプロパティ」で名称を「求積図・表」、記号・番号を「A-02」とします。



「図面」タブの「確認申請図」メニューから「床面積求積図」をクリックします。

「図面作成 - 確認申請床面積求積図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「床面積求積図」を選びます。

名称：床面積求積図
縮尺：1/200

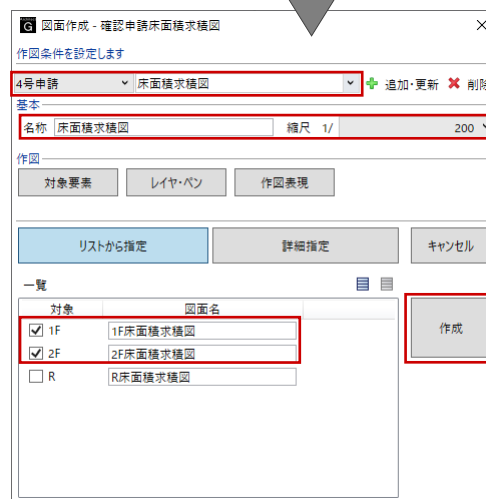


一覧より対象を

1F : ON 2F : ON

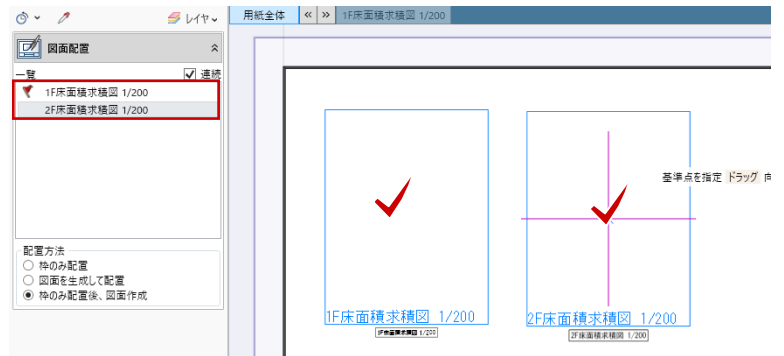
にします。

「作成」をクリックします。

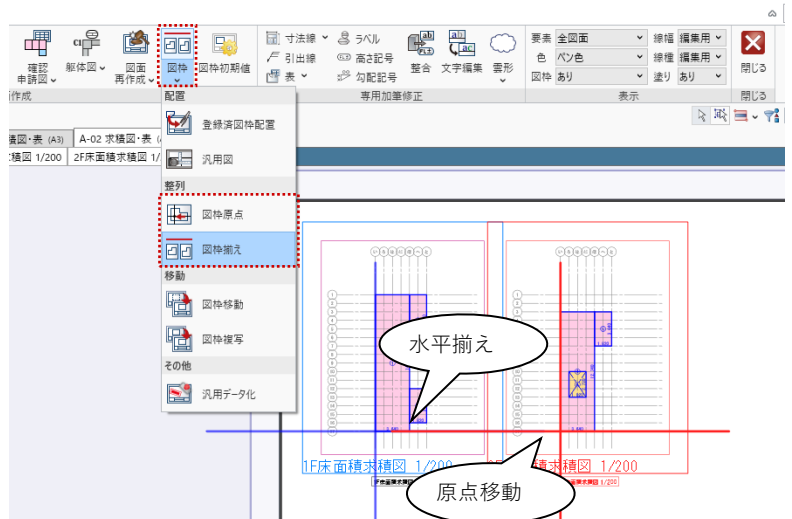


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

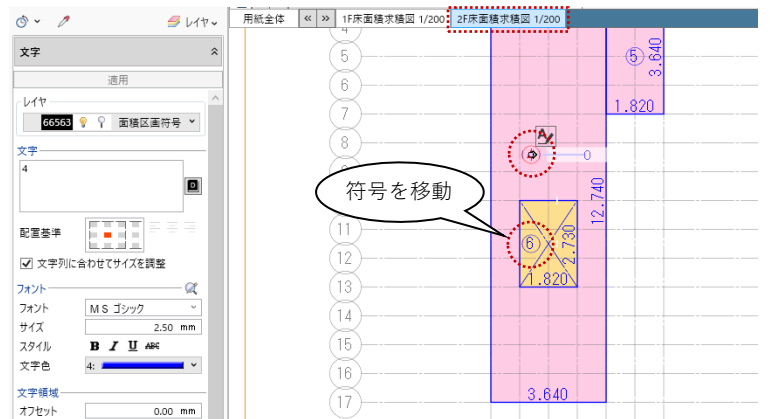
コマンドサポートウィンドウで「1F 床面積求積図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続いて「2F 床面積求積図」もクリックで配置します。



ここでの説明は省略しますが、「図枠原点」「図枠揃え」等を使って図面のレイアウトを整えます。



また、「2F 床面積求積図」をアクティブにして、線と文字の重なりを「移動」等で編集します。



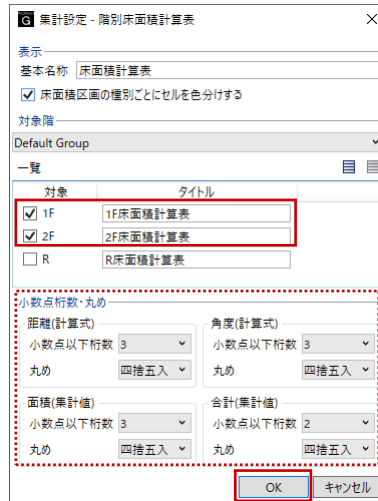
4.6.2. 階別床面積計算表

「図面」タブの「確認申請図」メニューから「階別床面積計算表」をクリックします。

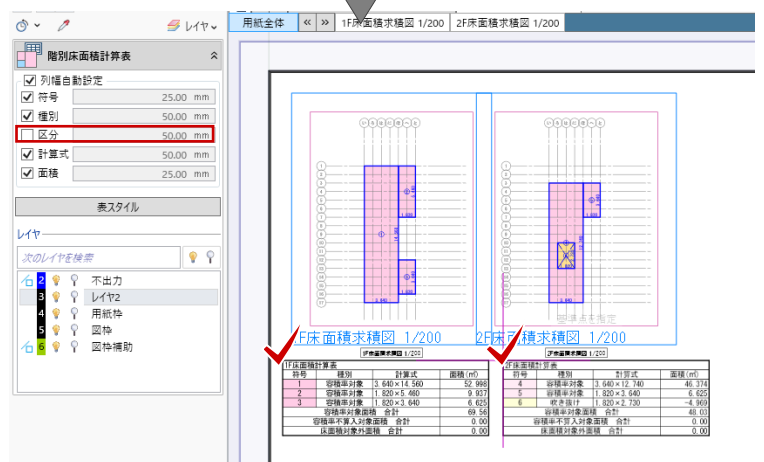


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「集計設定 - 階別床面積計算表」ダイアログで、一覧より対象を 1F:ON 2F:ON にして、小数点桁数・丸めを確認して「OK」します。



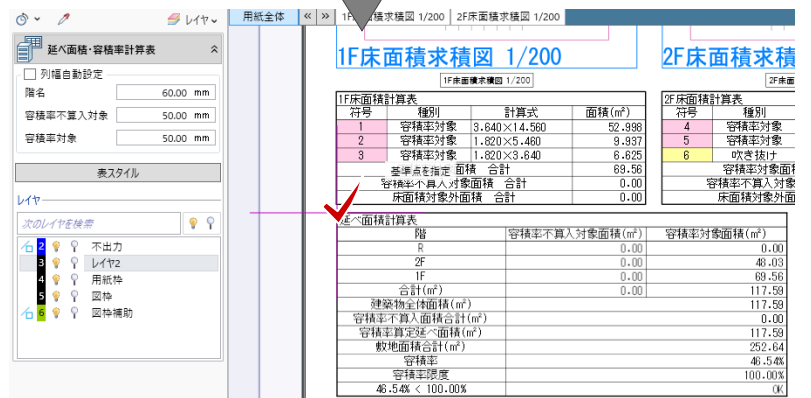
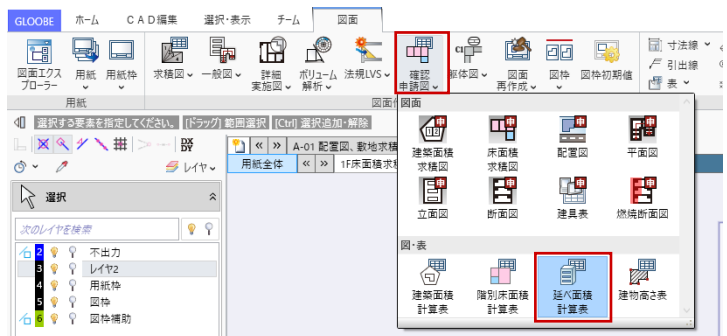
コマンドサポートウィンドウで「区分」の列を OFF にして、用紙上にクリックで配置します。



4.7. 【図面作成】延べ面積計算表

「図面」タブの「確認申請図」メニューから「延べ面積計算表」をクリックします。

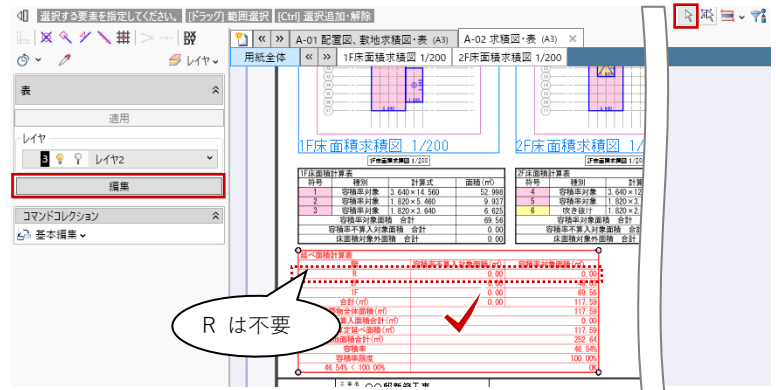
用紙上にクリックで配置します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

配置した「延べ面積計算表」から、不要なR階部分を削除します。

ツールバーの「選択」より、配置した延べ面積計算表をクリックで選択します。

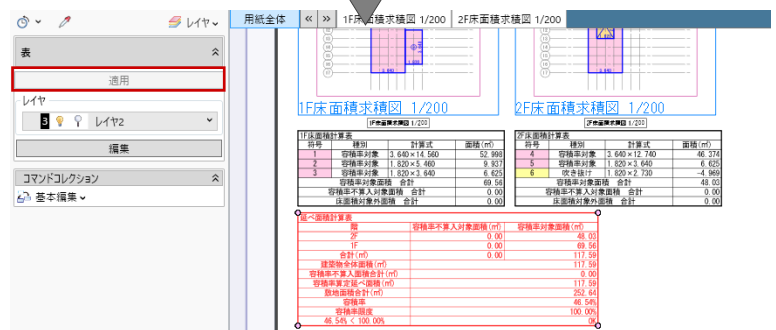


コマンドサポートウィンドウの「編集」をクリックして、「表編集」ダイアログを表示します。

「削除」メニューの「行削除」で、「R」の行をクリックして削除し、「OK」で終了します。



コマンドサポートウィンドウの「適用」をクリックして、編集を完了します。

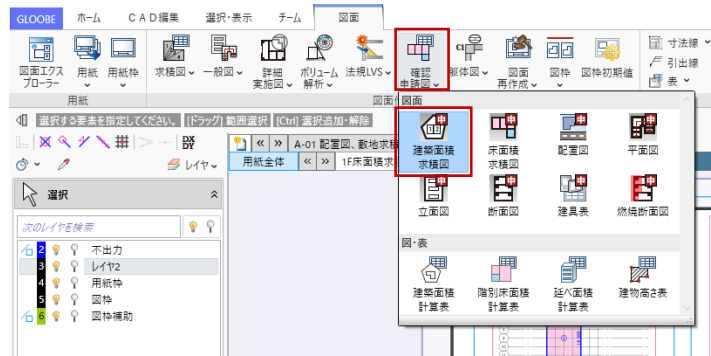


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

4.8. 【図面作成】建築面積求積図・表

4.8.1. 建築面積求積図

「図面」タブの「確認申請図」メニューから「建築面積求積図」をクリックします。



「図面作成 - 確認申請建築面積求積図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「建築面積求積図」を選びます。

名称：建築面積求積図

縮尺：1/200

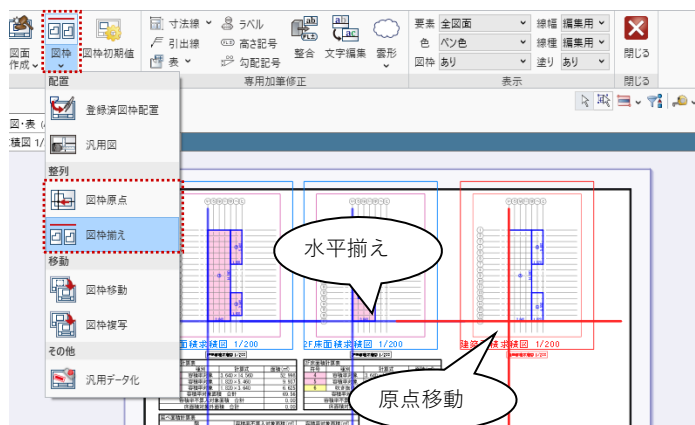


「クイック配置」をクリックします。

コマンドサポートウィンドウで「建築面積求積図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。



ここでの説明は省略しますが、「図枠原点」「図枠揃え」等を使って図面のレイアウトを整えます。

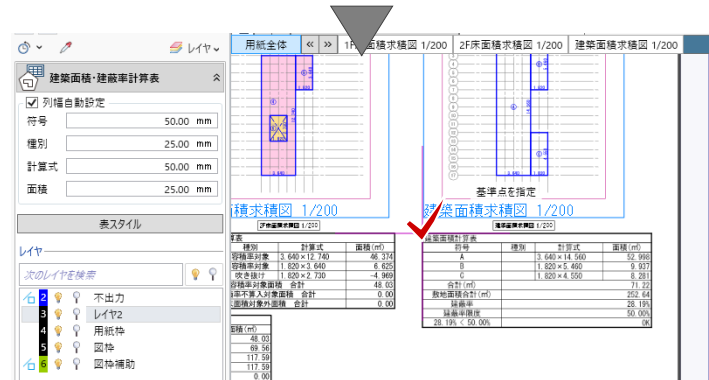
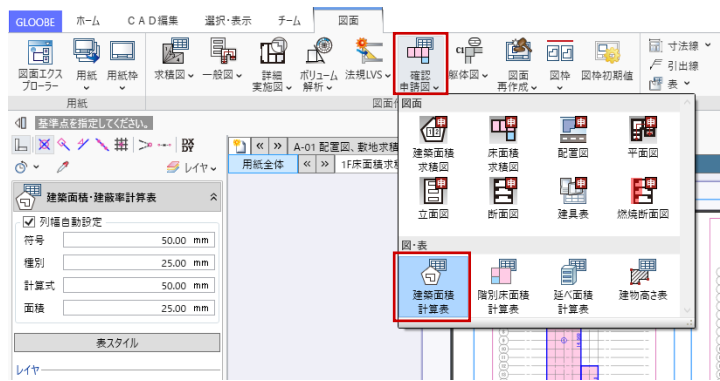


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

4.8.2. 建築面積計算表

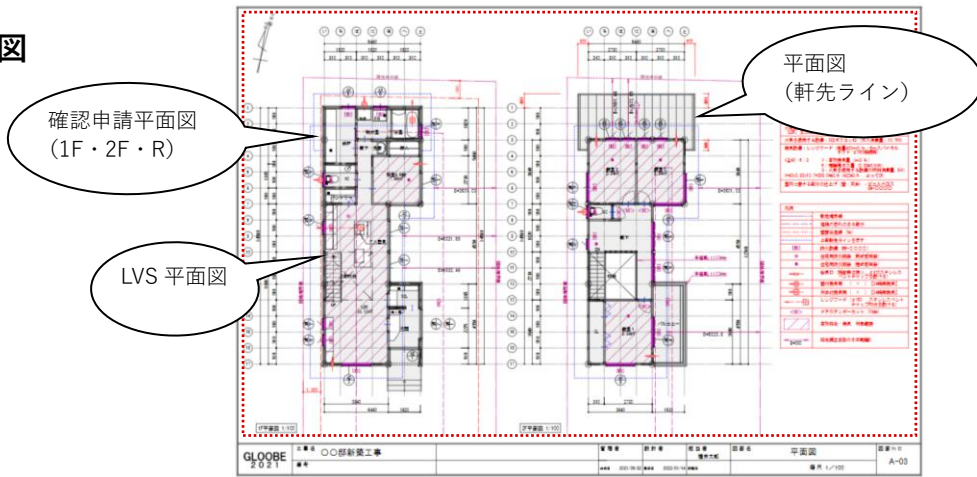
「図面」タブの「確認申請図」メニューから「建築面積計算表」をクリックします。

用紙上にクリックで配置します。

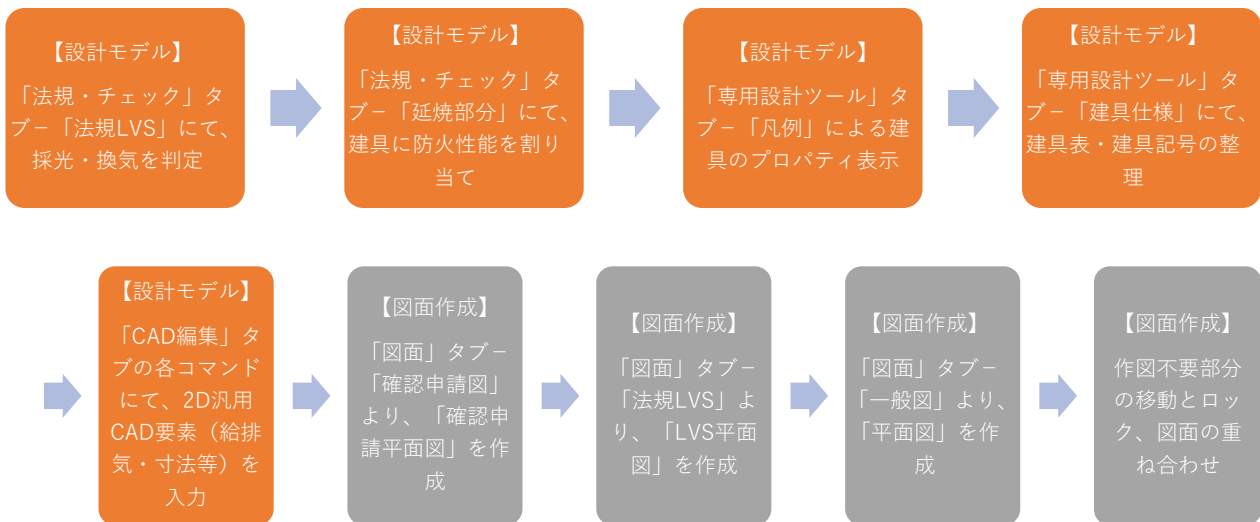


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5. 各階平面図



5.1. 作成フロー

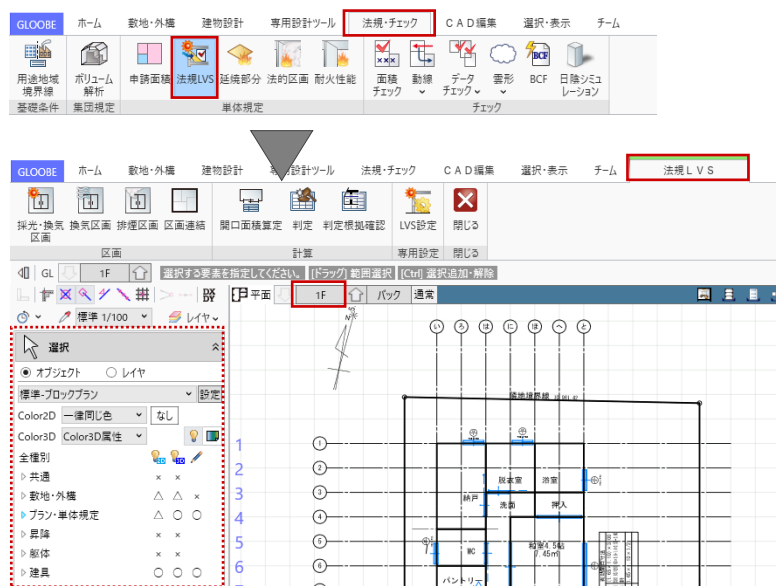


5.2. 【設計モデル】法規 LVS

5.2.1. 法規 LVS を開く

「法規・チェック」タブから「法規 LVS」をクリックします。

「法規 LVS」タブが開きます。
平面ビューツールバーより 1F を表示し、「コマンドサポートウィンドウ」より表示を整えます。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.2.2. 採光・換気区画

ここではすでに入力済みですが、LDKと和室に「採光・換気区画」を設定します。

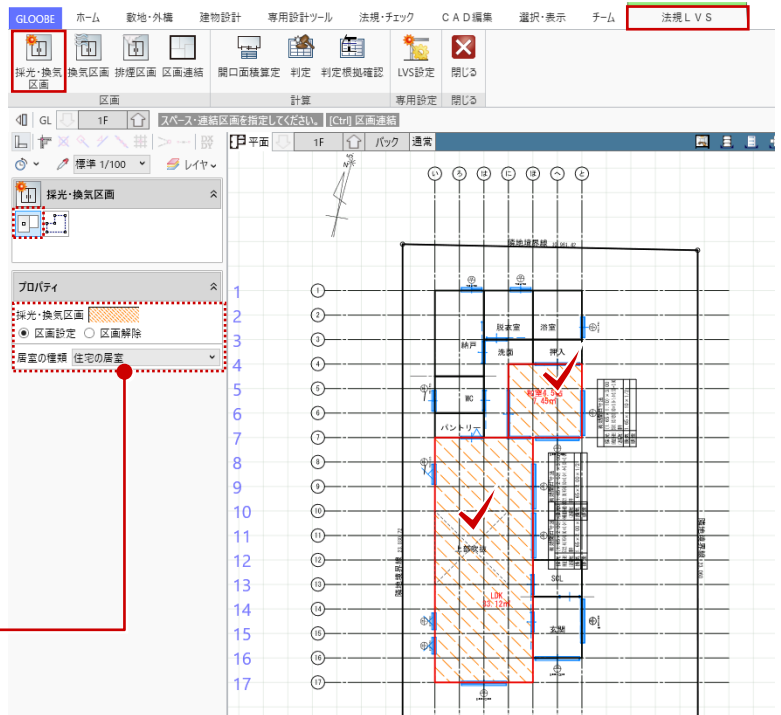
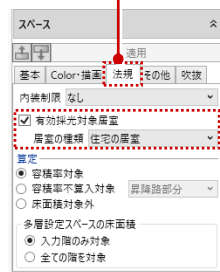
「法規 LVS」タブから「採光・換気区画」をクリックします。

入力モード：スペース参照

区画設定：ON

居室の種類：住宅の居室

LDK と和室をクリックして、区画情報を設定します。この情報は、「スペース」オブジェクトの「法規」タブに保持されます。



5.2.3. 開口面積算定

ここではすでに算定済みですが、LDK東側の建具2か所と和室東側の建具1か所の開口面積を計算します。

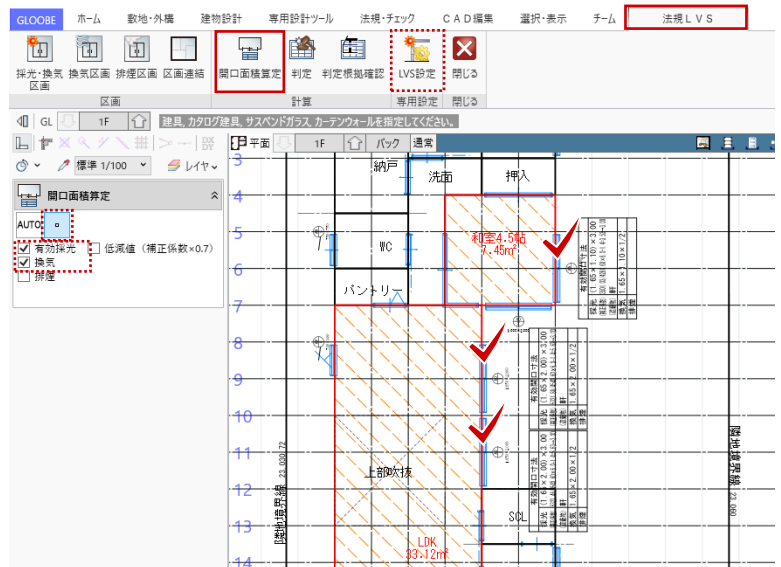
「法規 LVS」タブから「開口面積算定」をクリックします。

入力モード：個別

有効採光：ON 換気：ON

LDK 東側の建具 2 か所と和室東側の建具 1 か所をそれぞれクリックで指定します。

入力された BIM モデルの情報（用途地域、敷地境界線、スペース、建具、屋根等の遮蔽物など）をもとに採光補正係数等が自動計算されます。



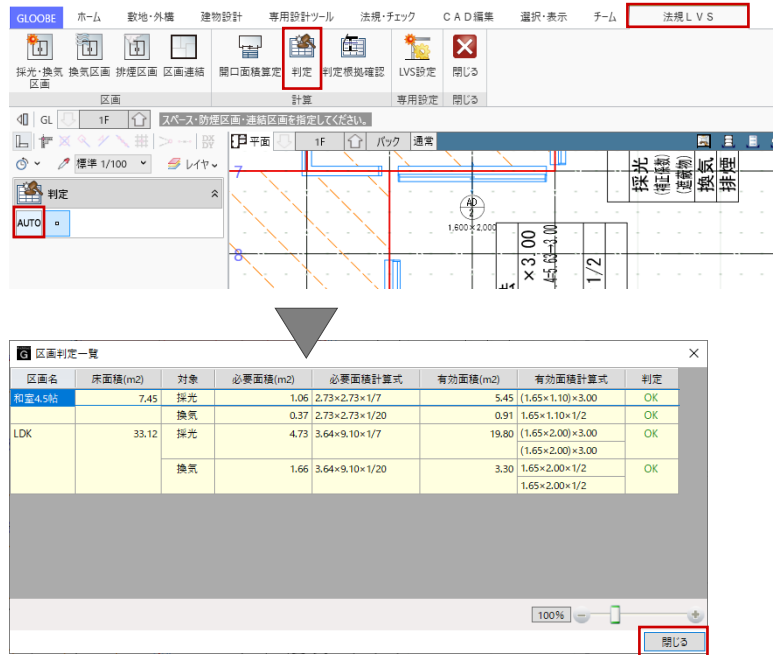
「採光補正係数」や「必要面積係数」、換気・排煙計算の「建具種別ごとの開口率」に関する設定は、「LVS 設定」より確認できます。

5.2.4. 判定

「法規 LVS」タブから「判定」をクリックします。

入力モード：一括

採光、換気の計算結果と判定が確認できます。すべての判定がOKとなっていることを確認して、「閉じる」でダイアログを終了します。



5.2.5. 判定根拠確認

「法規 LVS」タブから「判定根拠確認」をクリックします。

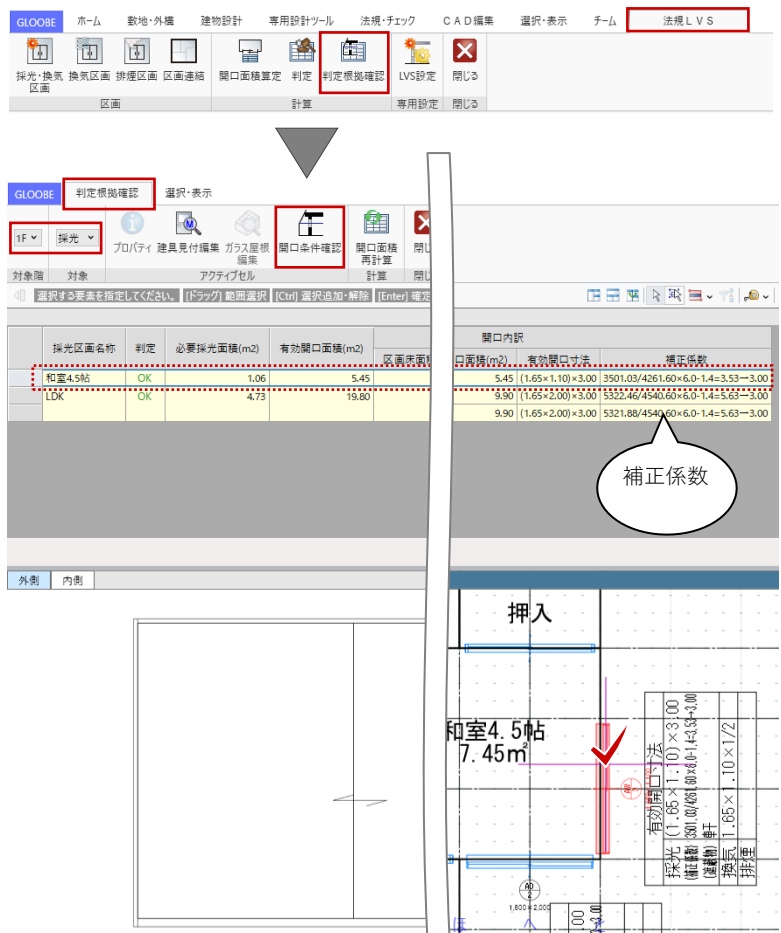
「法規 LVS - 判定根拠確認」ウィンドウが開きます。

「判定根拠確認」タブより、

対象階：1F

対象：採光 を確認し、表または平面ビューから和室の建具を選択します。

「判定根拠確認」タブから「開口条件確認」をクリックします。



「法規 LVS - 開口条件確認」ウィンドウが開きます。

「コマンドサポートウィンドウ」より、「屋根・金物」の3D表示がONであることを確認します。

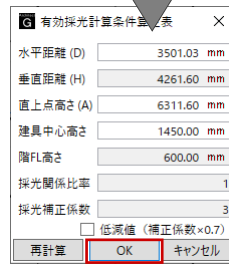
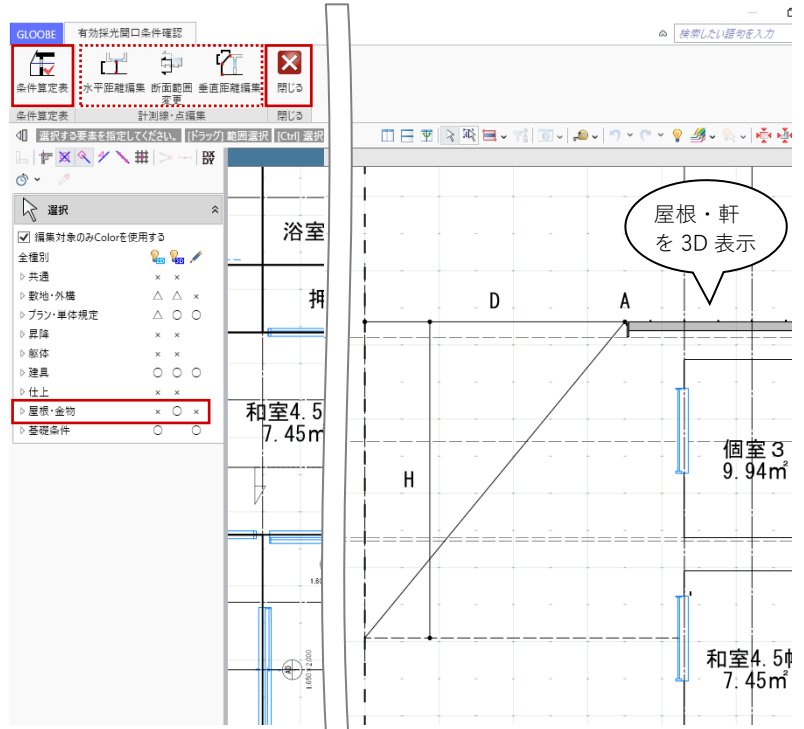
「条件算定表」をクリックして、計算条件を確認します。安全率を考慮する場合など、必要に応じて数値が変更できます。ここでは確認だけとして「OK」します。

ここでは行いませんが、「水平距離編集」や「垂直距離編集」をクリックして、平面ビューや断面ビュー上で水平距離 (D) や垂直距離 (H)・直上点 (A) を直接編集することもできます。

「閉じる」で「法規 LVS - 開口条件確認」を終了し、再び「閉じる」で「法規 LVS - 判定根拠確認」を終了します。

同様に、2階の採光・換気についても確認しましょう。

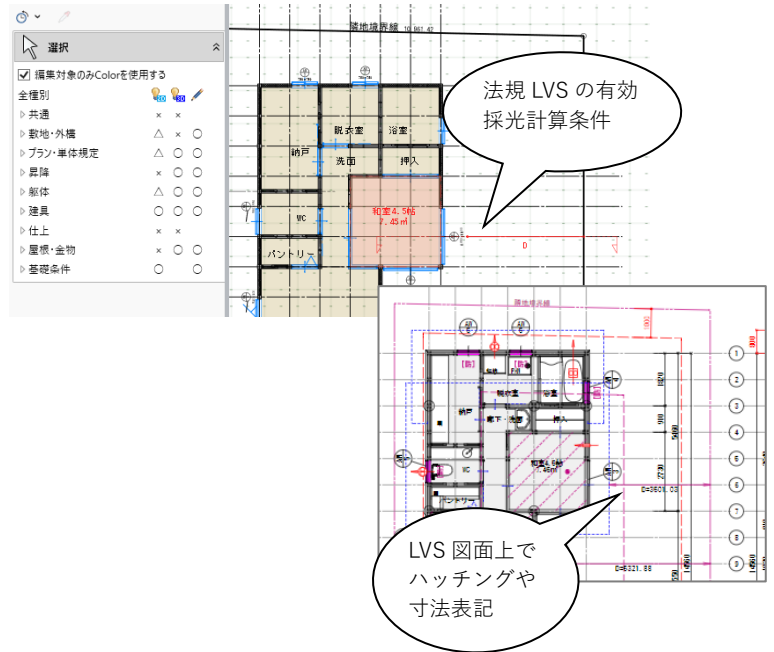
確認後、「閉じる」で「法規 LVS」を終了します。



区画名	床面積(m ²)	対象	必要面積(m ²)	必要面積計算式	有効面積(m ²)	有効面積計算式	判定
個室2	9.94	採光	1.42	2.73×3.64×1/7	2.98	(0.71×0.70)×3.00 (0.71×0.70)×3.00	OK
		換気	0.50	2.73×3.64×1/20	1.00	0.71×0.70 0.71×0.70	OK
個室3	9.94	採光	1.42	2.73×3.64×1/7	5.28	(1.60×1.10)×3.00	OK
		換気	0.50	2.73×3.64×1/20	0.88	1.60×1.10×1/2	OK
個室1	9.94	採光	1.42	2.73×3.64×1/7	8.40	(1.60×1.75)×3.00	OK
		換気	0.50	2.73×3.64×1/20	1.40	1.60×1.75×1/2	OK

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「法規 LVS」のチェックにより、図面上に居室区画のハッチングや水平距離 (D)・垂直距離 (H) の描画が行えます。図面作成については後ほどご紹介します。



GLOOBE の法規 LVS の機能につきましては、目的別操作ガイド「採光・換気・排煙計算編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「採光・換気・排煙計算編」よりご確認ください。

▶ GLOOBE の各種マニュアルはこちらから

<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/gloobe/manual.html>



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

©2021 建築確認における BIM 活用推進協議会 ©2021 公益社団法人日本建築士会連合会

5.3. 【設計モデル】 延焼部分

5.3.1. 性能編集

平面ビューツールバーより 1F を表示し、「法規・チェック」タブから「延焼部分」をクリックします。

「延焼ライン」については、「2章 配置図」でご紹介しましたので、そちらをご確認ください。

延焼ラインを参照して、延焼のおそれのある領域内の外部建具に対して防火性能を割り当てます。

「性能編集」をクリックして、

入力モード：一括

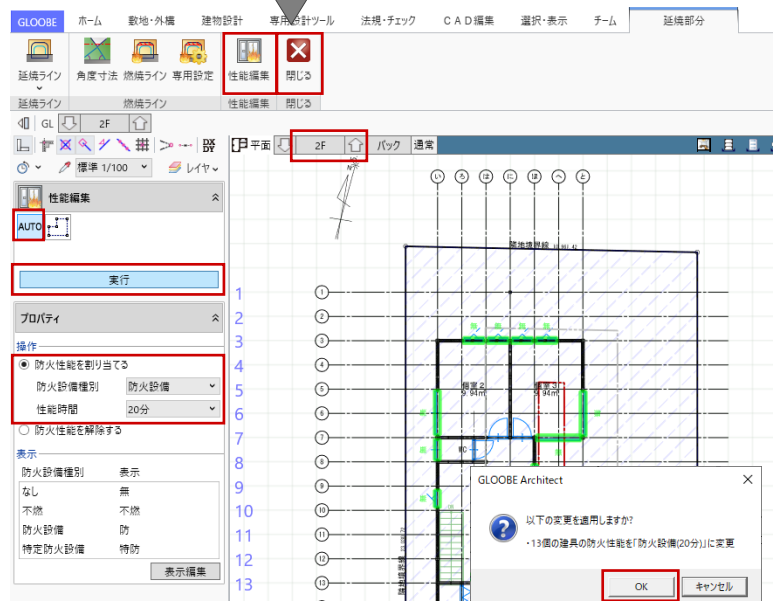
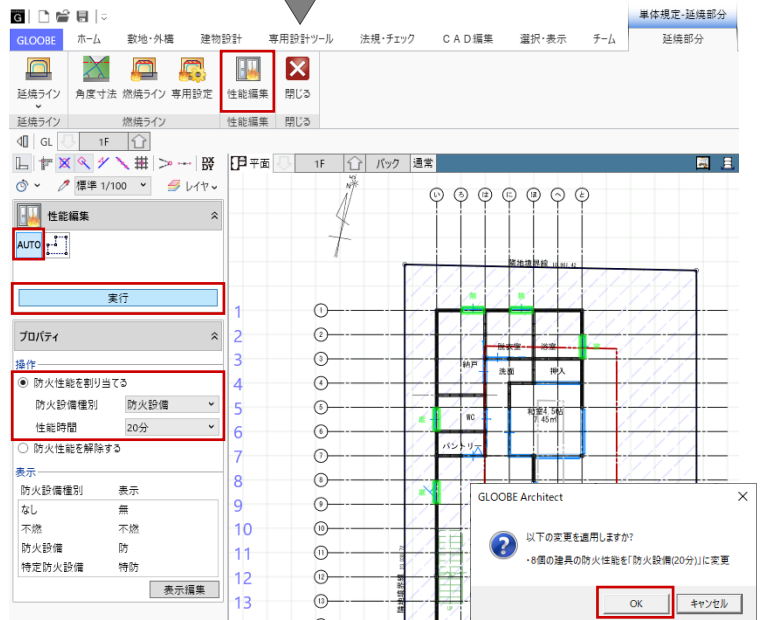
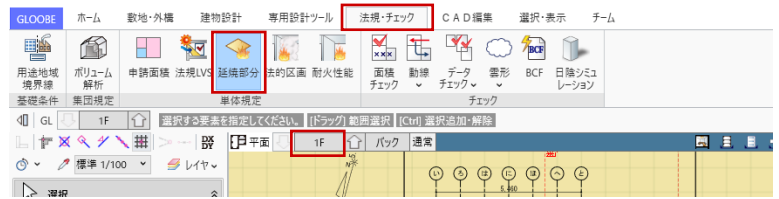
防火性能を割り当てる：ON

防火設備種別：防火設備

性能時間：20分

「実行」ボタンをクリックして、確認メッセージを「OK」することで、ハイライト表示されたすべての建具のプロパティに「防火設備」が設定されます。

同様に、2階の建具についても防火性能の割り当てを確認しましょう。確認後、「閉じる」で「延焼部分」を終了します。



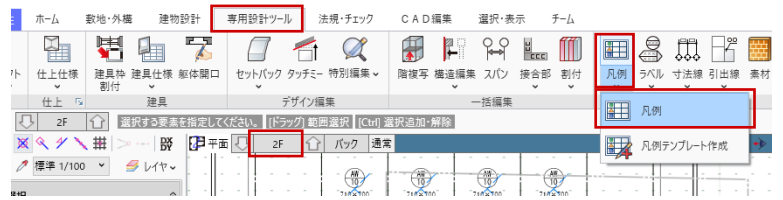
このデータではあらかじめ防火設備の割り当てを行った上で、建具表を作成しています。そのため、建具に対して「建具表登録済」のロックが設定されプロパティが「編集不可」の状態であるため、防火性能の割り当て・解除等の編集は行えません。編集を可能にするには、「専用設計ツール」タブの「建具仕様」より「建具表登録解除」が必要になります。「建具仕様」についてはこの後の「5.5. 【設計モデル】 建具仕様」で、建具表の図面作成については後ほど「9章 建具表」でご紹介します。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.4. 【設計モデル】 プロパティと凡例

5.4.1. 凡例

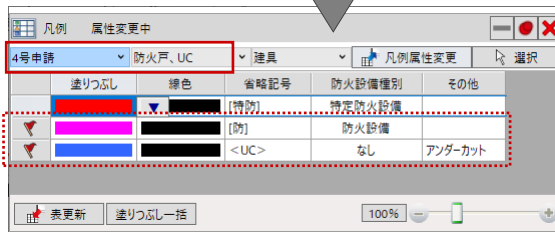
平面ビューツールバーより 2F を表示し、「専用設計ツール」タブから「凡例」をクリックします。



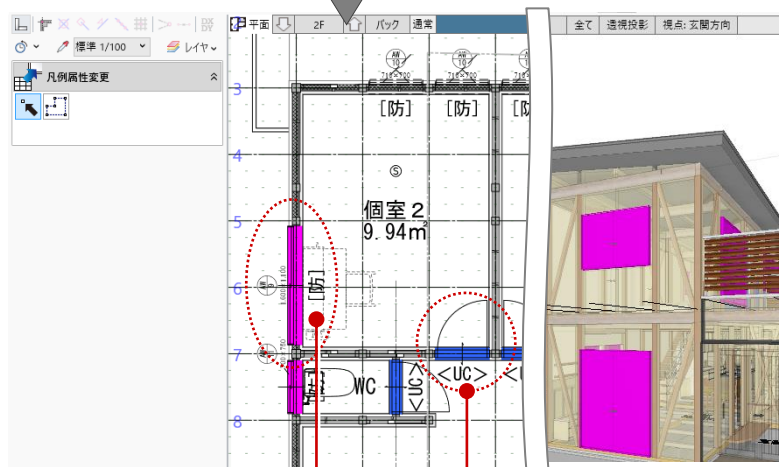
「凡例」のダイアログより、次の凡例テンプレートを選択します。

グループ：4号申請

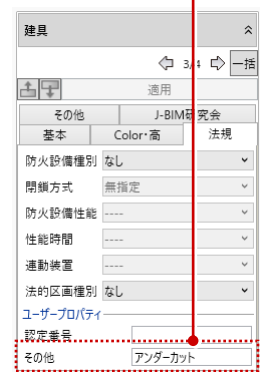
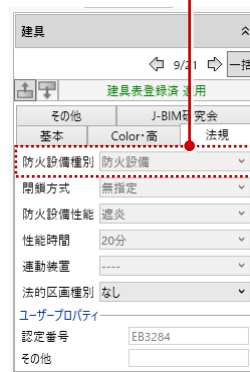
名称：防火戸、UC



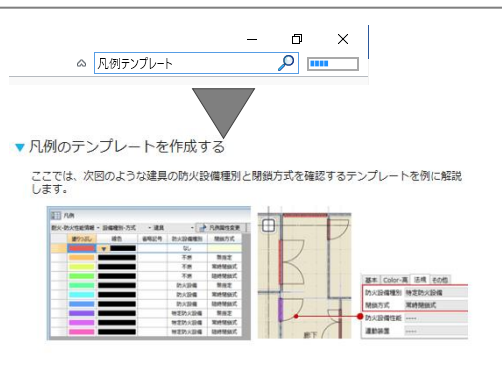
建具のプロパティ項目「防火設備種別」が「防火設備」となっている箇所が平面や3Dのビュー上でピンク色に塗りつぶされ、省略記号「防」と表示されます。また、プロパティ項目「その他」が「アンダーカット」となっている箇所は青色に塗りつぶされて省略記号「<UC>」と表示されます。



オブジェクトのプロパティが色やハッチングで表示され確認しやすいという操作性の利点だけでなく、塗りつぶしや省略記号を用いた図面表記の自動化が「凡例」を使って行えます。次の「6章 立面図」で凡列表の作成方法についてご紹介いたします。



「凡例テンプレート」の作成方法については、詳しくはヘルプをご参照ください。画面右上の「ヘルプを検索」でキーワードによる検索が便利です。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.5. 【設計モデル】 建具仕様

5.5.1. 建具仕様を開く

「専用設計ツール」タブから「建具仕様」をクリックします。

「リスト→建具仕様」ウィンドウが開きます。「建具一覧編集」タブにて、対象階：全階

オブジェクト：建具 を確認して、建具の一覧から建具の記号や番号、その他プロパティ情報を確認します。リスト内をクリック、またはビュー上で建具をクリックすることで、該当の建具が赤く選択状態になります。

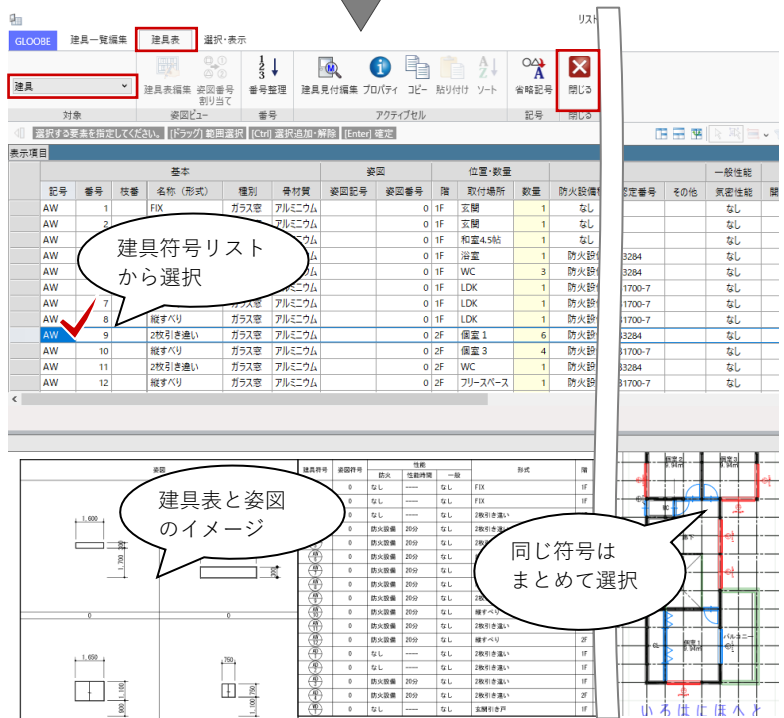
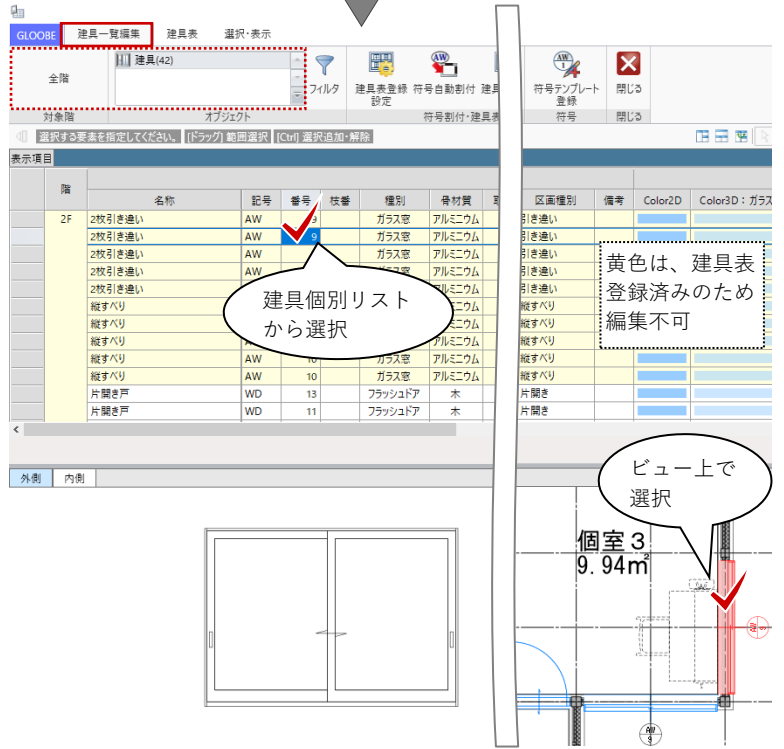
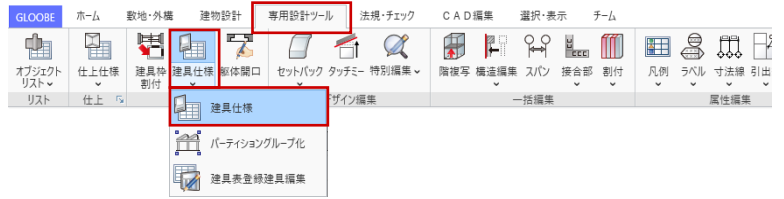
このデータでは、すでに建具キープランや建具表図面作成のための、建具のプロパティ情報の整理や建具符号の割当て、外部サッシの建具表登録が完了しています。建具表登録済みの建具はリスト上で黄色く表示されており、プロパティ編集は不可となっています。

「建具表」タブを開きます。

対象：建具

建具符号（記号・番号）ごとに一覧表示され、建具表や姿図のイメージが確認できます。リストやビュー上で建具をクリックすることで、建具が符号ごとにまとめて選択され、選択されたすべての建具に対して一括でプロパティの編集が行えます。

ここでは確認だけとして、「閉じる」で「建具仕様」ウィンドウを終了します。



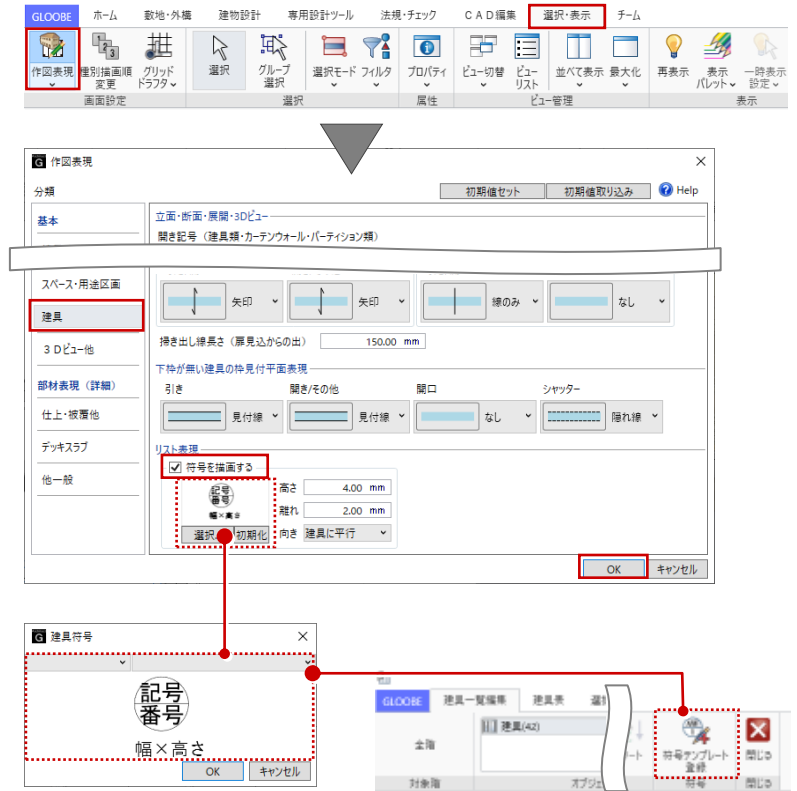
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.5.2. 建具符号を平面ビューに描画する

「選択・表示」タブから「作図表現」をクリックします。

「作図表現」ダイアログが開きます。分類より「建具」を選択して、符号を描画する：ON にして、「OK」することで、平面ビュー上で建具符号を描画します。

このデータでは、建具符号のテンプレートをカスタマイズして「記号」「番号」の他に「幅×高さ」を描画しています。建具符号のカスタマイズは「専用設計ツール」タブの「建具仕様」「符号テンプレート登録」から行えます。



ここではご紹介しませんが、初めて建具表を作成する場合は、「建具一覧編集」タブの「建具表登録設定」で建具の取付高を考慮するかどうか、「符号自動割付」で建具の種別・材質ごとの記号と判定条件による符号割り当て、「建具表登録」で建具表として作図する対象の指定を順に行います。

建具表の作成方法につきましては、操作ガイド「モデル詳細編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「モデル詳細編」よりご確認ください。

▶GLOOBE の各種マニュアルはこちらから
<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/gloobe/manual.html>



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

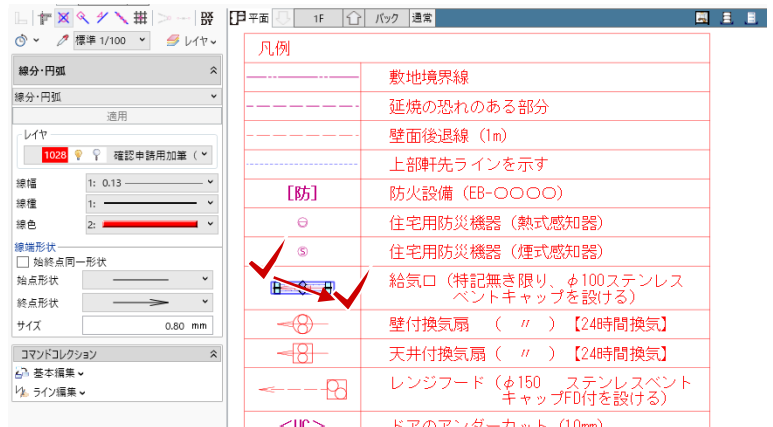
5.6. 【設計モデル】 2D CAD 編集

5.6.1. 凡例表の利用

5.6.2. 給気口・換気扇・防災機器

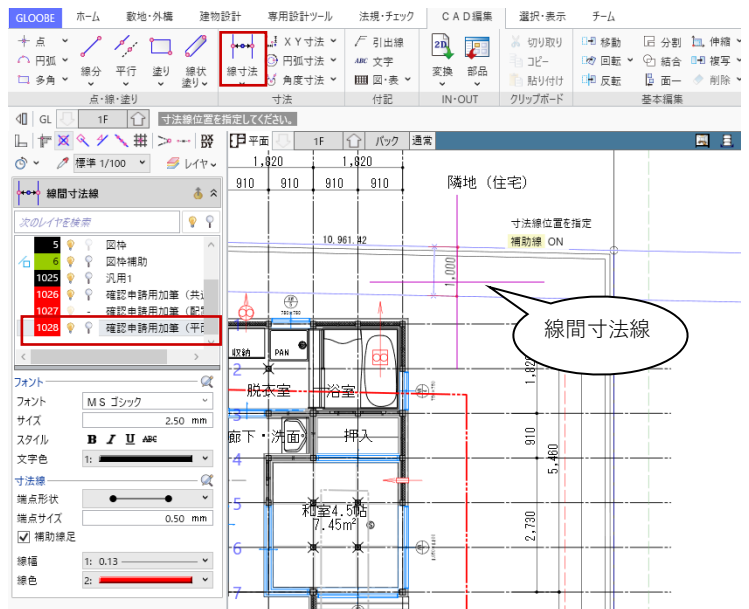
平面ビュー内に配置されている凡例表を利用して、給気口や換気扇、住宅用防災機器等を作図します。

凡例表の利用方法については、「2章 配置図」の「桝・排水管」と同様ですので、そちらをご確認ください。



5.6.3. 寸法線

「線間寸法線」を利用して壁面後退の寸法線を加筆します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

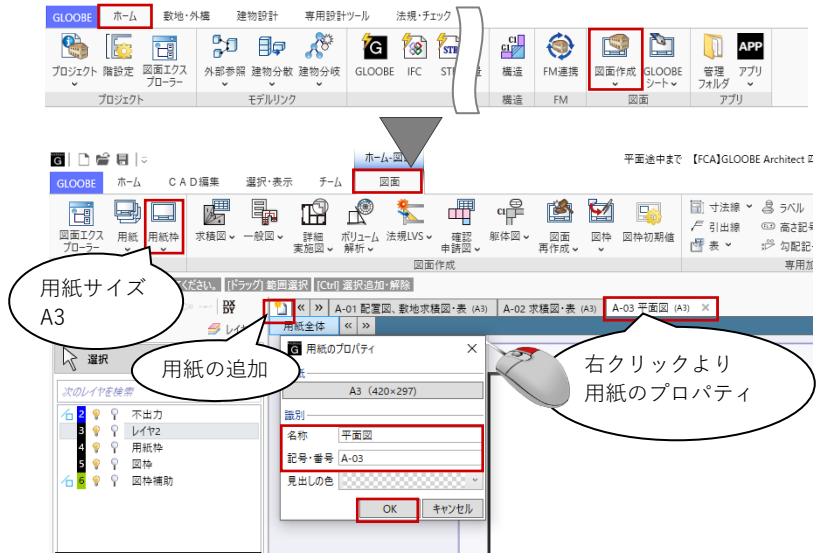
5.7. 【図面作成】平面図

5.7.1. 確認申請平面図

「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「用紙の追加」で3ページ目を追加します。

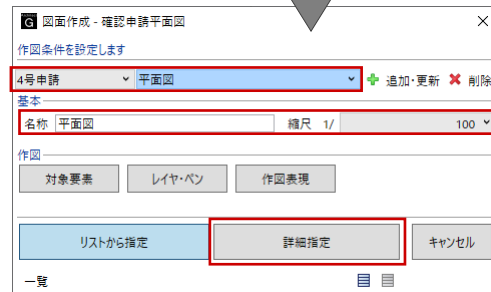
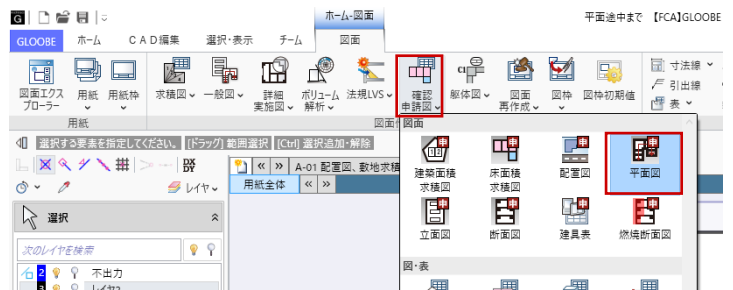
1ページ目と同様に「用紙枠配置」でA3横の図枠を用意し、「用紙のプロパティ」で名称を「平面図」、記号・番号を「A-03」とします。



「図面」タブの「確認申請図」メニューから「平面図」をクリックします。「図面作成-確認申請平面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」-「平面図」を選びます。

名称：平面図
縮尺：1/100

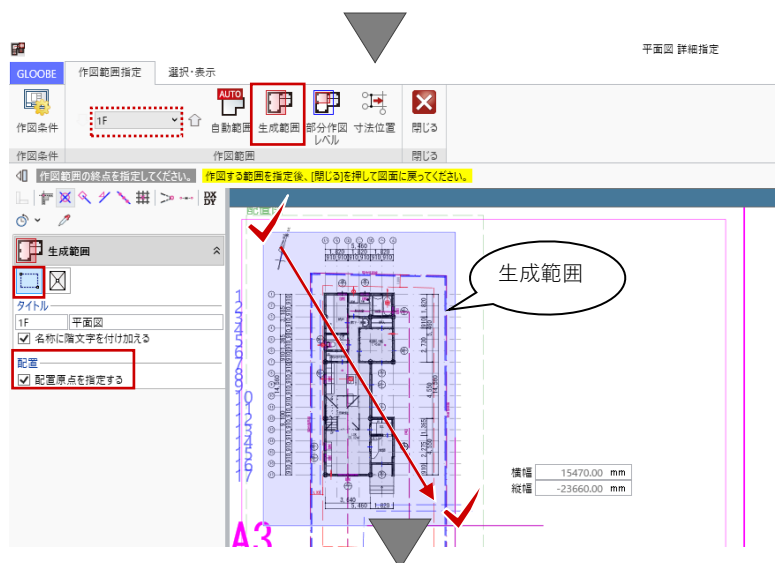
「詳細指定」をクリックします。



「平面図 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

「生成範囲」をクリックし、
入力モード：矩形

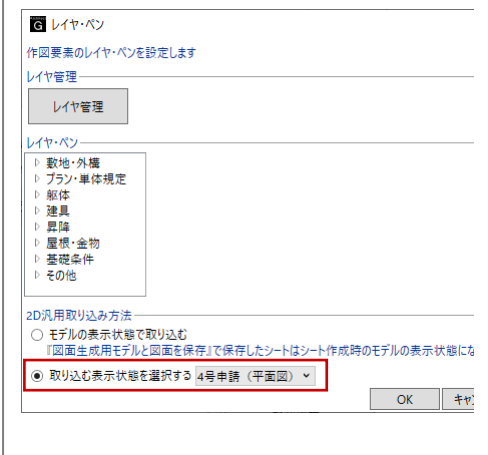
配置原点を指定する：ON にします。表示されている図枠補助線の範囲に合わせて生成範囲を指定します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

範囲指定後、原点（ここでは生成範囲の左上）をクリックで指定します。

作図条件テンプレート「4号申請-平面図」では、第1章「1.3 加筆用レイヤの設定」でご紹介した2Dレイヤの表示設定「名称：4号申請（平面図）」を作図条件として利用しています。

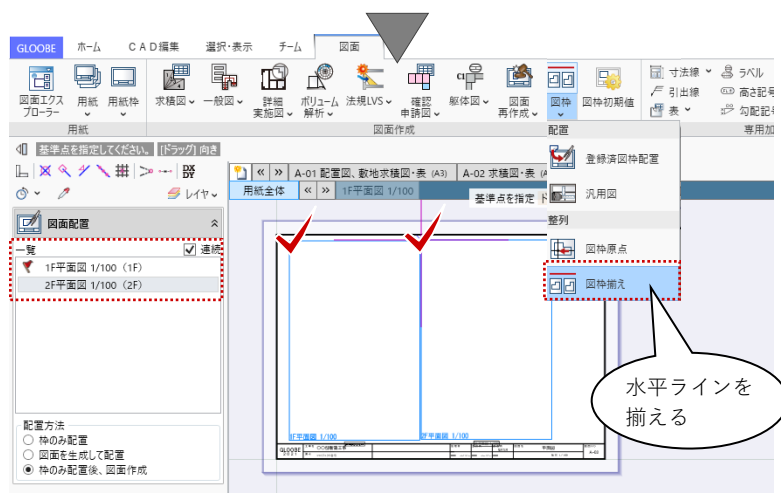
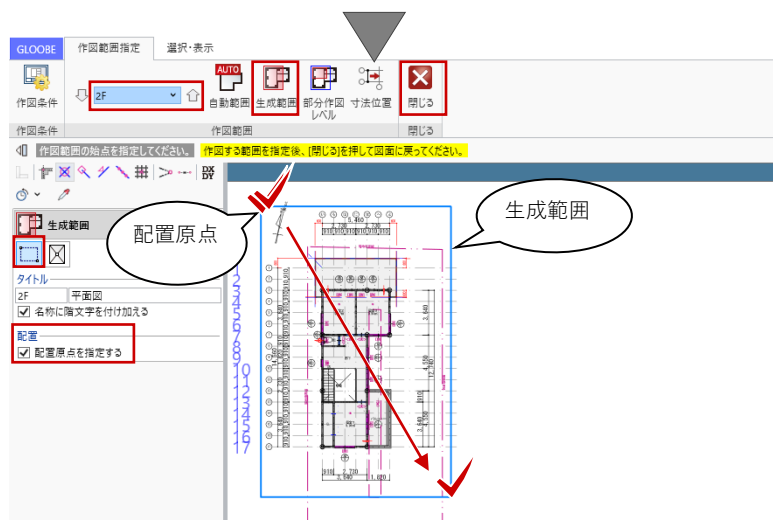
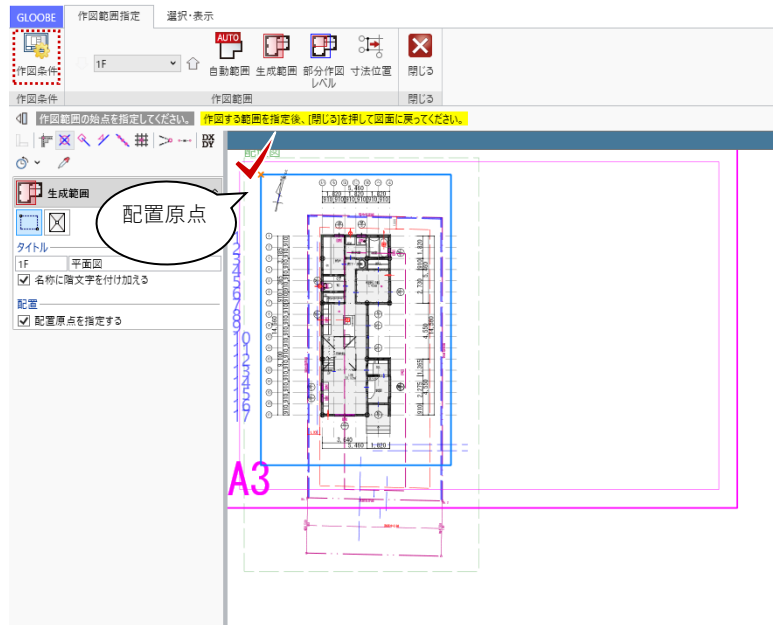


階を「2F」に切り替えて、同様に生成範囲と原点を指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

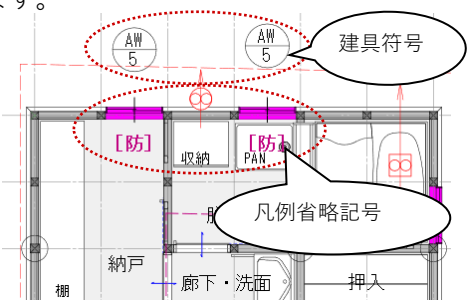
コマンドサポートウィンドウで「1F 平面図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続けて、「2F 平面伏図」も配置します。

図面配置後、「図枠」メニューから「図枠揃え」で図面の水平ラインを揃えておくとよいでしょう。

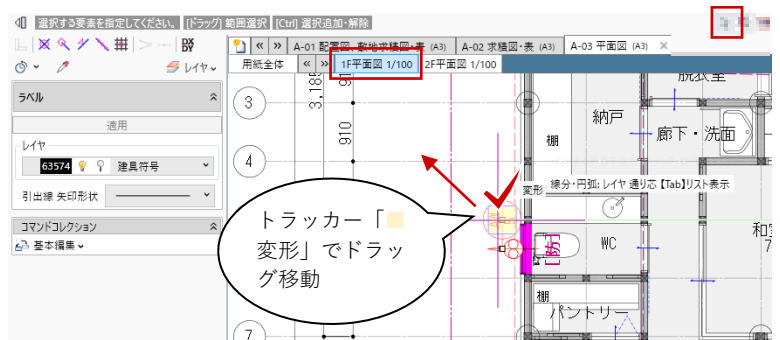


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

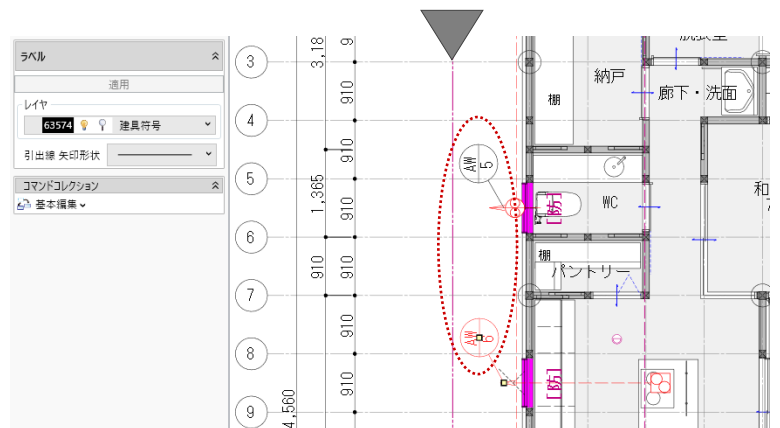
作図条件テンプレート「4号申請-平面図」では、レイヤの他にもさまざまな作図条件がカスタマイズされています。その中で「建具符号」や「凡例省略記号」に関する条件は、「作図表現」に保存されています。



建具符号の一部が図面に重なっているため、見やすい位置に移動します。編集する図面（ここでは1F平面図）をアクティブにします。ツールバーの「選択」より、移動したい建具符号を指定します。「変形」で建具符号をドラッグで移動します。



同様にして、2F平面図も文字の重なりを解消します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.8. 【図面作成】専用加筆

5.8.1. 引出線

手摺の高さ等のプロパティ情報を加筆します。加筆したい図面（ここでは2F平面図）をアクティブにして、「図面」タブの「引出線」をクリックします。

対象要素：手摺、腰壁手摺

「項目変更」をクリックし、「手摺高」をONにして「OK」します。

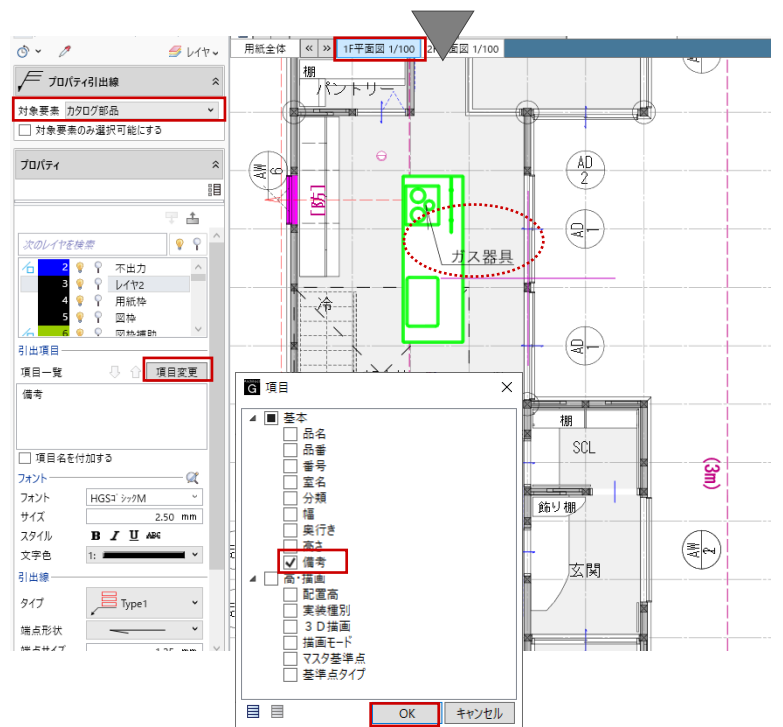
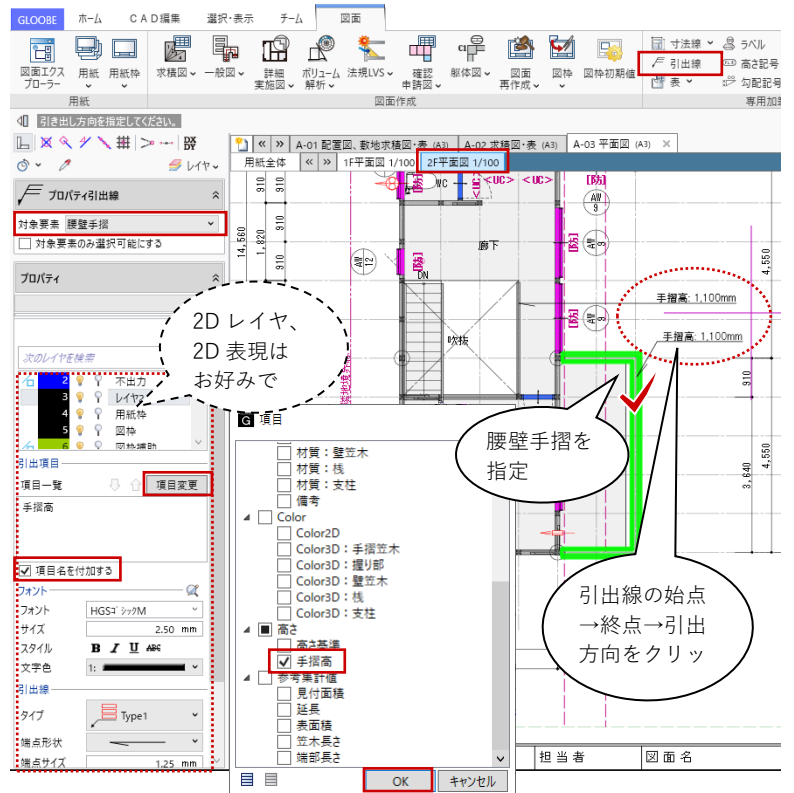
項目名を付加する：ON

レイヤやフォント、引出線のタイプなどは任意に設定します。

対象（ここではバルコニーの腰壁手摺）をクリックします。手摺高の情報が取得されますので、図面上にクリックして引出線を配置します。

同様にして、必要な引出線を加筆します。

カタログ部品の「備考」は、「2.4.3.ユーザープロパティ編集」でご紹介した「ユーザープロパティ編集」で追加したオリジナルの項目です。



5.9. 【図面作成】法規 LVS 平面図

5.9.1. 法規 LVS 平面図の作成

「図面」タブの「法規 LVS」メニューから「平面図」をクリックします。

「図面作成 - LVS 平面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「LVS 平面図」を選びます。

名称：LVS

縮尺：1/100

「詳細指定」をクリックします。

「LVS 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

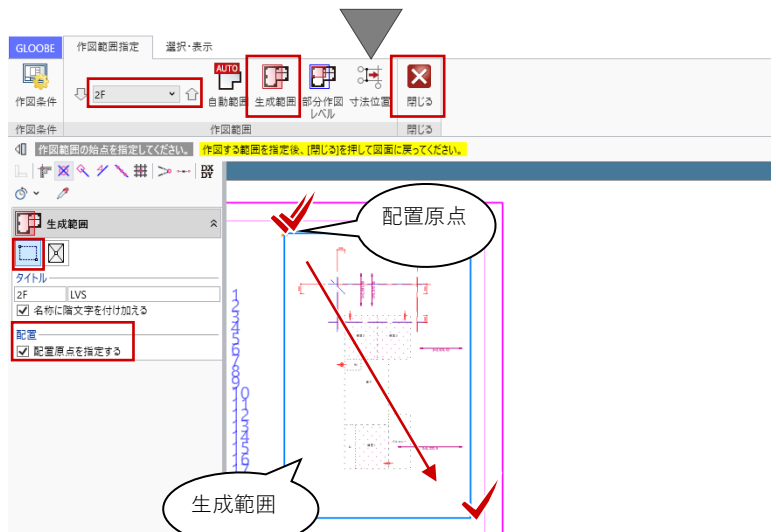
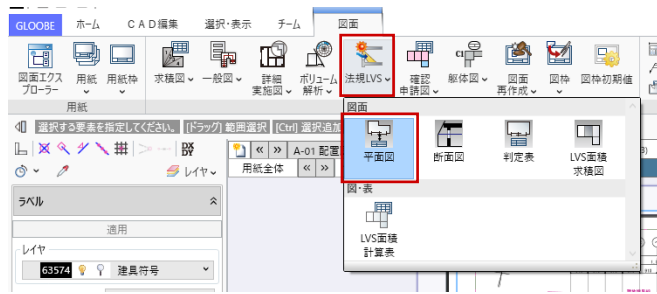
「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

配置原点を指定する：ON にします。表示されている図枠補助線の範囲に合わせて生成範囲を指定します。範囲指定後、原点（平面図と同じ生成範囲の左上）をクリックで指定します。

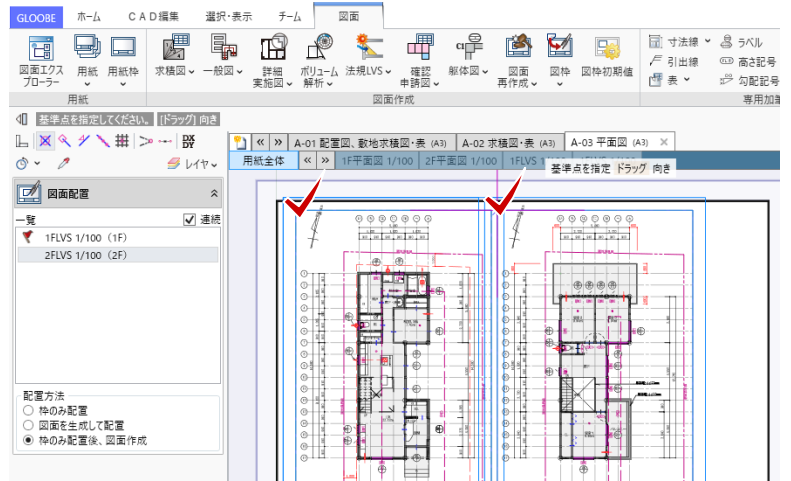
階を「2F」に切り替えて、同様に生成範囲と原点を指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

コマンドサポートウィンドウで「1FLVS」が選択されていることを確認し、先に配置した1F平面図の原点をクリックして図面が重なるように配置します。続けて、「2FLVS」も2F平面図と同じ原点に図面が重なるように配置します。



5.10. 【図面作成】平面図（軒先ライン）

5.10.1. 平面図の作成

「図面」タブの「一般図」メニューから「平面図」をクリックします。



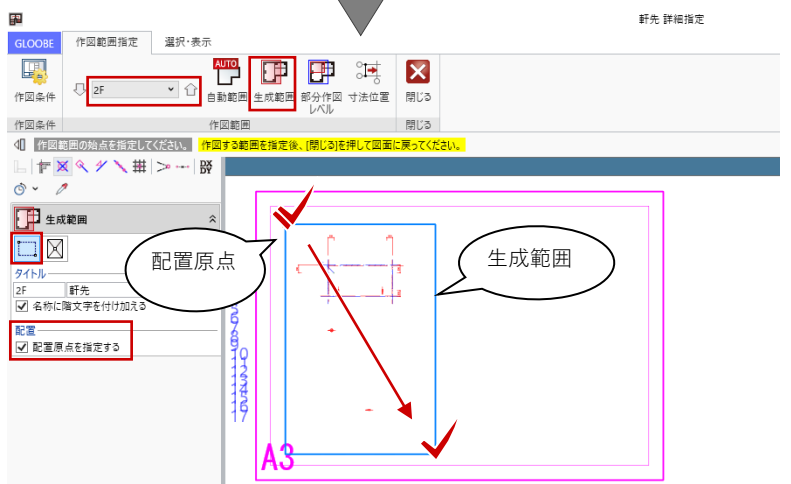
「図面作成-平面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」-「軒先ライン」を選びます。



名称：軒先
縮尺：1/100

「詳細指定」をクリックします。

「軒先 詳細指定」のウィンドウが表示されます。



「2F」を表示します。

「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

配置原点を指定する：ON にし

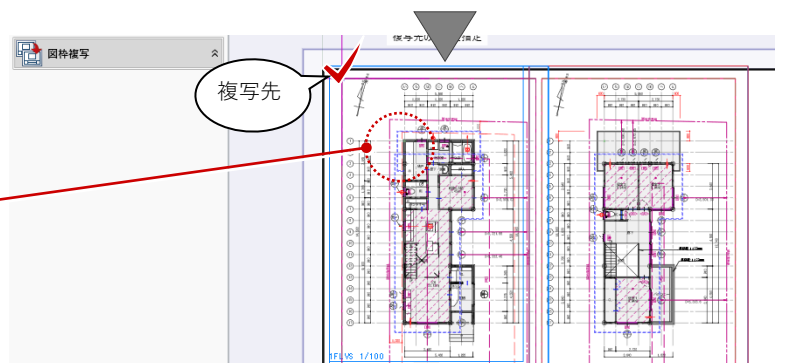
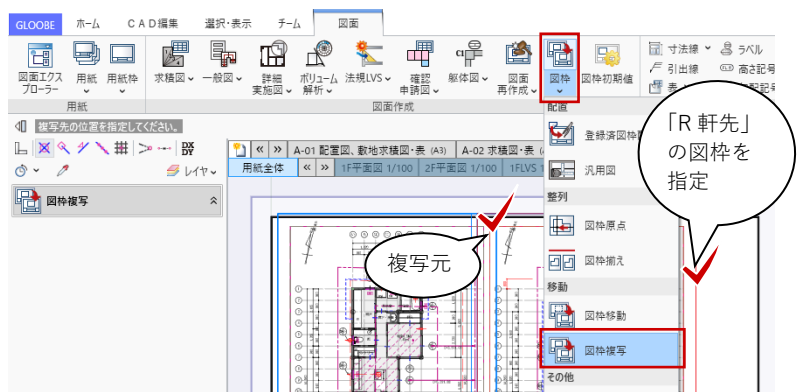
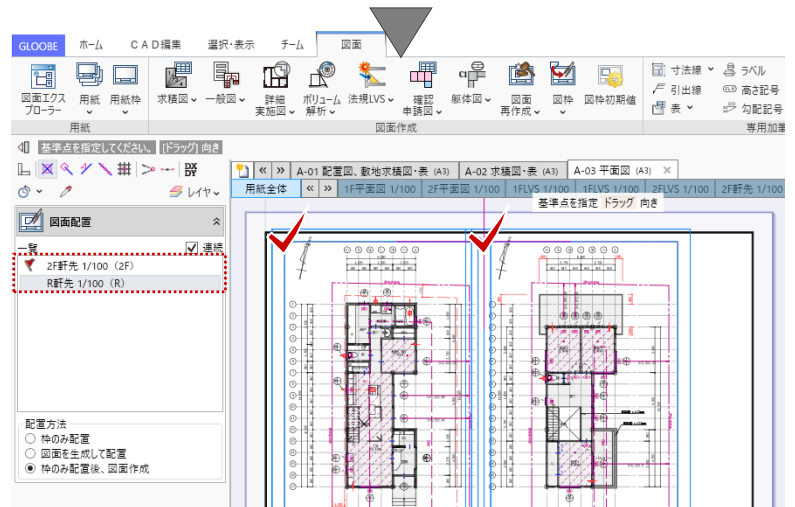
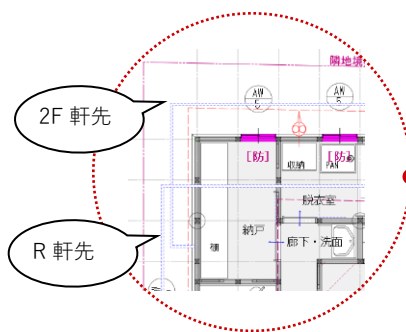
ます。表示されている図枠補助線の範囲に合わせて生成範囲を指定します。範囲指定後、原点（ここでは生成範囲の左上）をクリックで指定します。

階を「R」に切り替えて、同様に生成範囲と原点を指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「2F 軒先」が選択されていることを確認し、1階平面図の配置原点と重なるようにクリックで配置します。続けて、「R 軒先」も2階平面図の配置原点で図面が重なるように配置します。

「図面」タブの「図枠」メニューから「図枠複写」をクリックします。配置した「R 軒先」の図枠をクリックで指定します。配置原点を複写の基準としてクリックして、1階平面図の同じ原点に複写します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

5.10.2. ロック

図面内の不要な部分を枠外へ移動して、ロックを設定します。ロックを設定することで、「図面再作成」を行った際に編集状態がクリアされず、そのまま残しておくことができます。

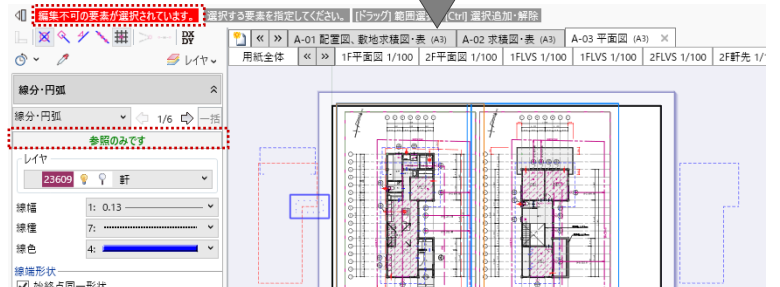
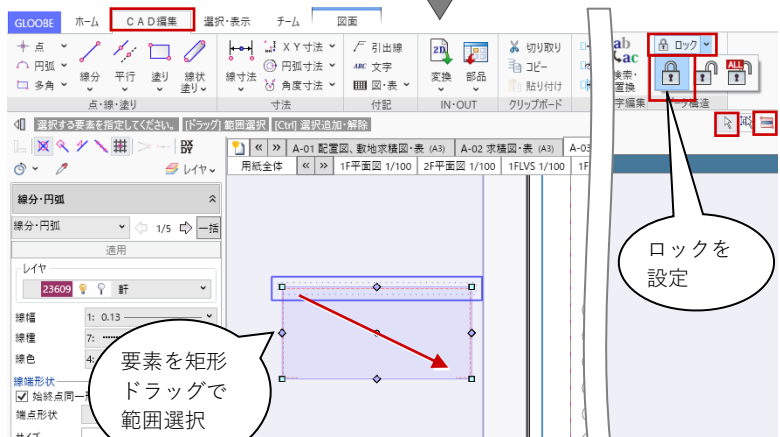
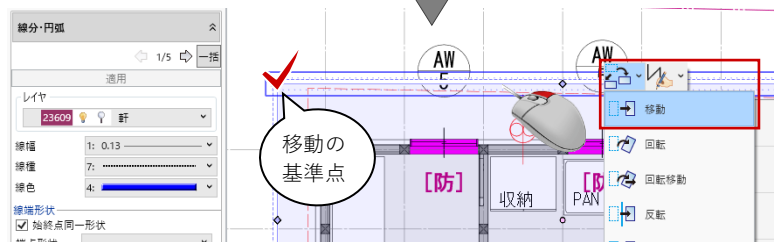
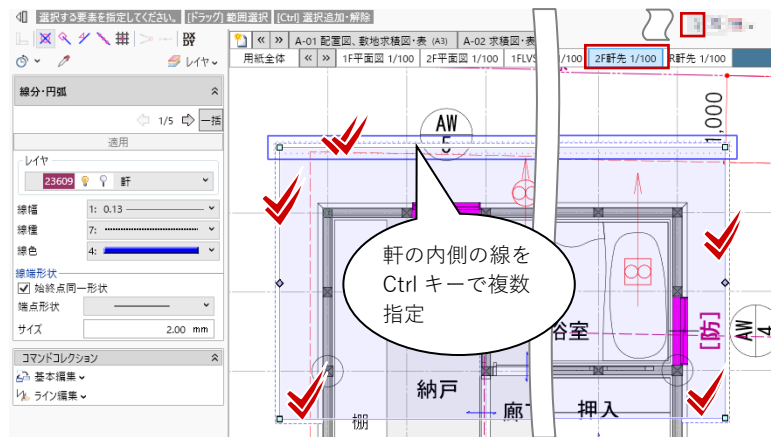
ロックしたい要素のある図面（ここでは2F 軒先）をアクティブにします。軒先線が二重線になっていますので、内側の線とクリップ領域を「Ctrl」キーを押しながら複数選択します。選択後、右クリックポップアップメニューの「基本編集」より「移動」をクリックします。

移動の基準点を任意に指定し、用紙枠外の任意の点を移動先としてクリックします。

用紙枠外に移動した要素を矩形範囲指定で再度選択します。「CAD 編集」タブの「ロック」メニューより、「ロック設定」します。

同様にして、R 軒先の二重線要素も用紙枠外に移動してロックします。

ロックしたデータは、選択時に「編集不可」「参照のみ」といった制限のメッセージが表示されます。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

GLOOBEの「ロック」と「再作成」の機能につきましては、操作ガイド「図面編集編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「図面編集編」よりご確認ください。

▶ GLOOBEの各種マニュアルはこちらから

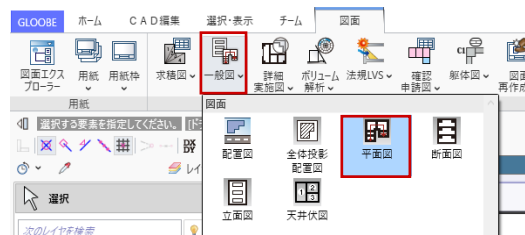
<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/globe/manual.html>



5.11. 【図面作成】平面図（凡例）

5.11.1. 平面図

「図面」タブの「一般図」メニューから「平面図」をクリックします。



「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「汎用2D」を選びます。

名称：汎用2D

縮尺：1/100



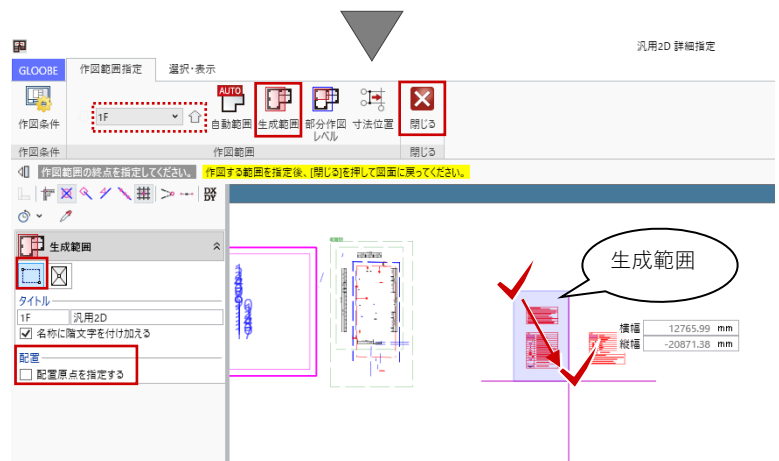
「詳細指定」をクリックします。

「汎用2D 詳細指定」のウィンドウが表示されます。

「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

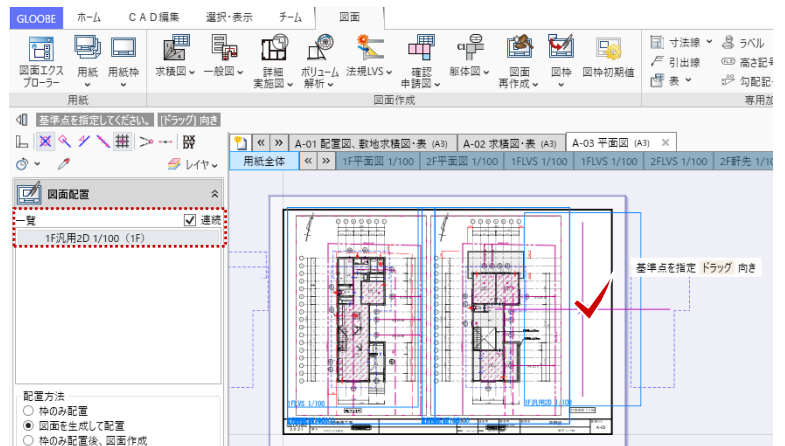
配置原点を指定する：OFF にして、生成範囲を矩形指定します。



「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

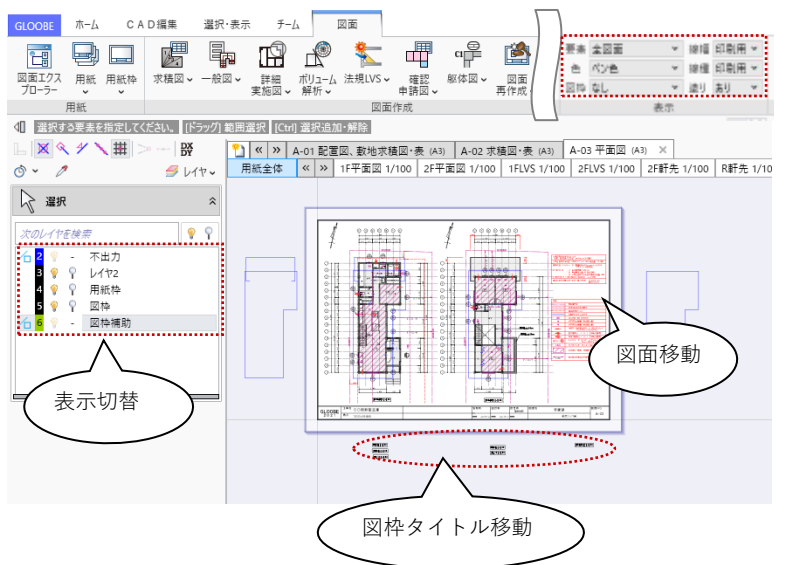
コマンドサポートウィンドウで「汎用2D」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します



5.12. 【図面作成】レイアウト調整

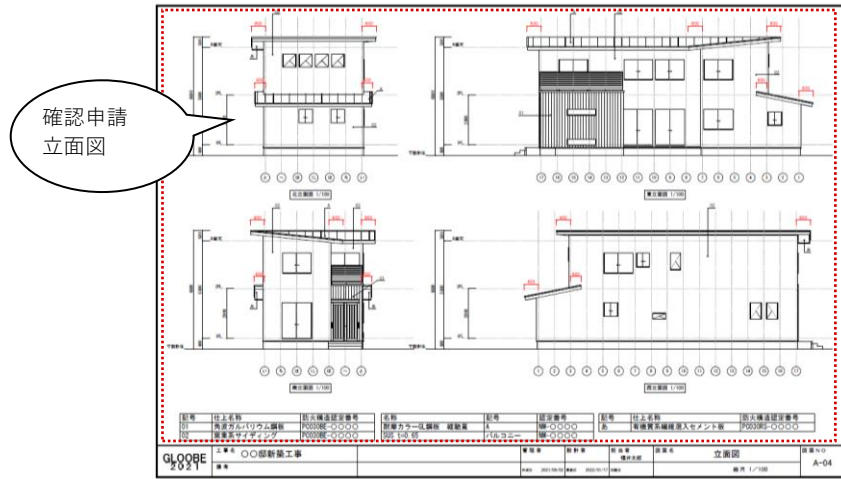
「配置図」と同様に、レイアウトを調整します。

「レイアウト調整」の操作方法については、「2章 配置図」でご紹介しましたので、そちらをご確認ください。

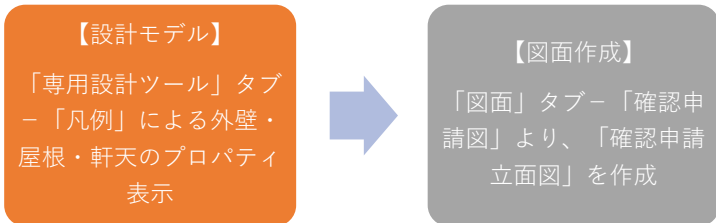


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

6. 立面図



6.1. 作成フロー



6.2. 【設計モデル】プロパティと凡例

6.2.1. 凡例

「専用設計ツール」タブから「凡例」をクリックします。

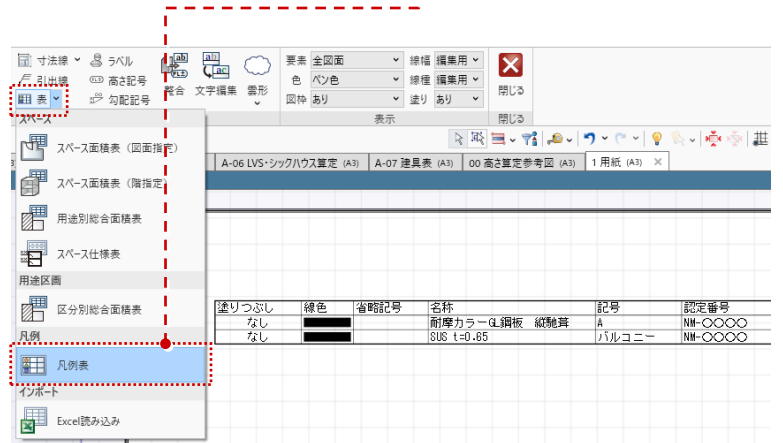


「凡例」のダイアログより、次の凡例テンプレートを選択します。

グループ：4号申請
名称：屋根仕上



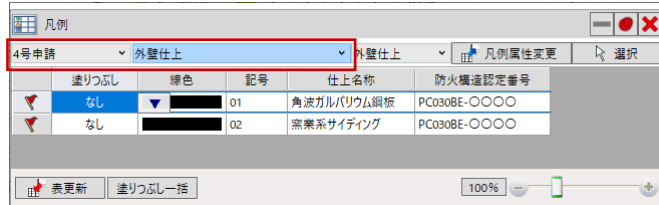
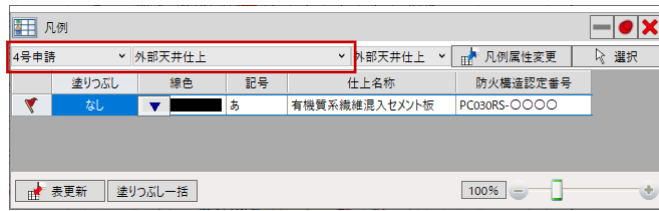
「凡例」として整理したこちらの表を、後ほど図面作成の機能で「凡例表」として図化します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

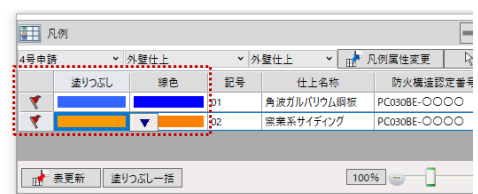
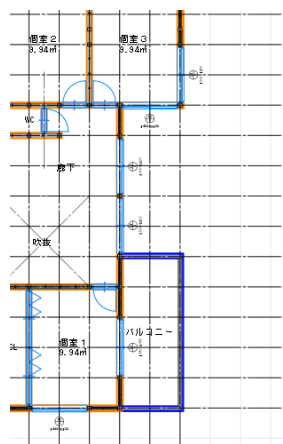
図化する凡例として、次の2つの凡例
 テンプレートも確認しておきましょ
 う。

グループ：4号申請
 名称：外部天井仕上
 名称：外壁仕上



ここでは、立面図上に表を図化するた
 めに「凡例」を利用しますが、「塗り
 つぶし」「線色」等を使って設計モデ
 ルの編集・確認にご利用いただくこと
 もできます。

「凡例」については、「5章 平面図」
 でもご紹介しております。「省略記号」
 については、そちらでご確認ください。



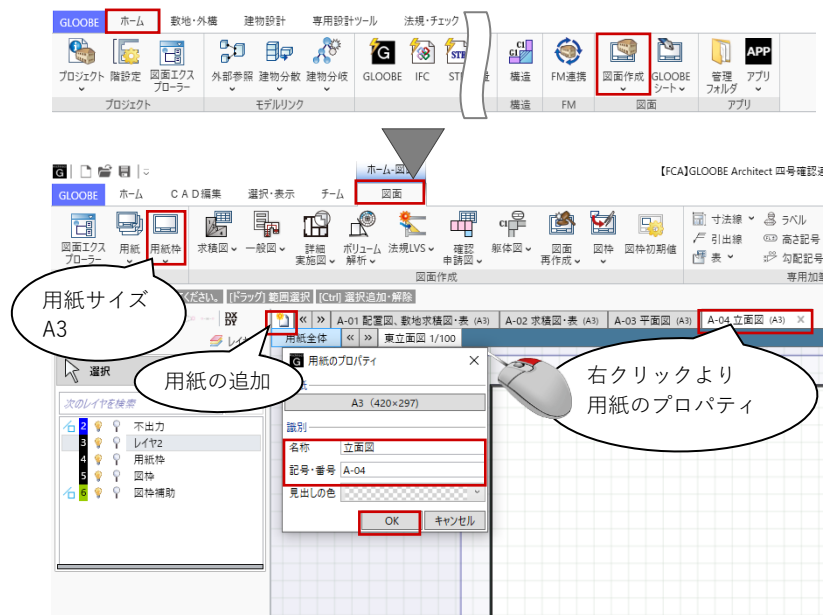
6.3. 【図面作成】立面図

6.3.1. 立面図

「ホーム」タブより、「図面作成」を
 開きます。

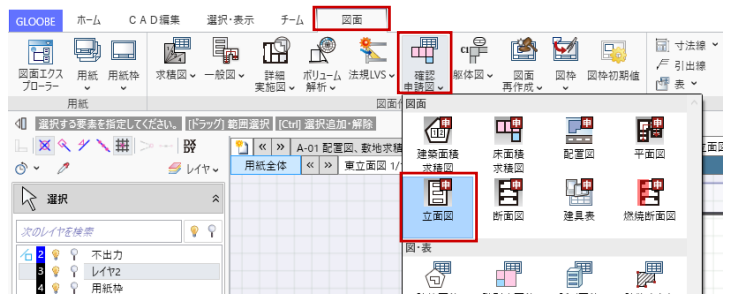
「用紙の追加」で4ページ目を追加し
 ます。

1ページ目と同様に「用紙枠配置」で
 A3横の図枠を用意し、「用紙のプロパ
 ティ」で名称を「立面図」、記号・番
 号を「A-04」とします。



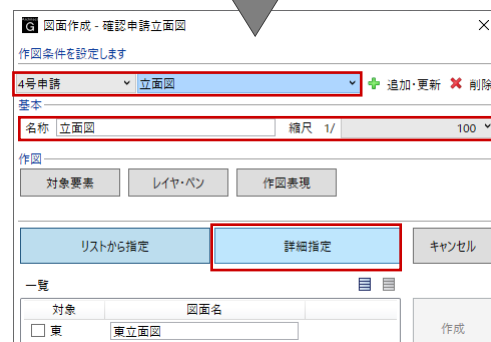
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「図面」タブの「確認申請図」メニューから「立面図」をクリックします。



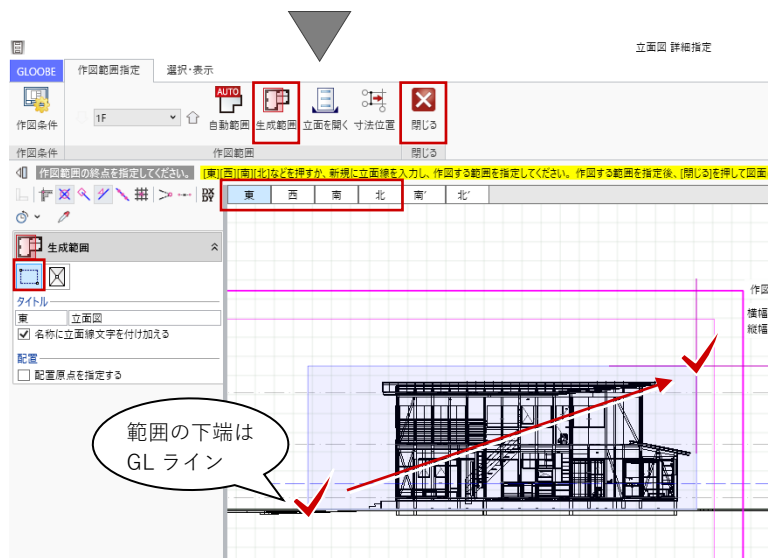
「図面作成－確認申請立面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」－「立面図」を選びます。

名称：立面図
縮尺：1/100



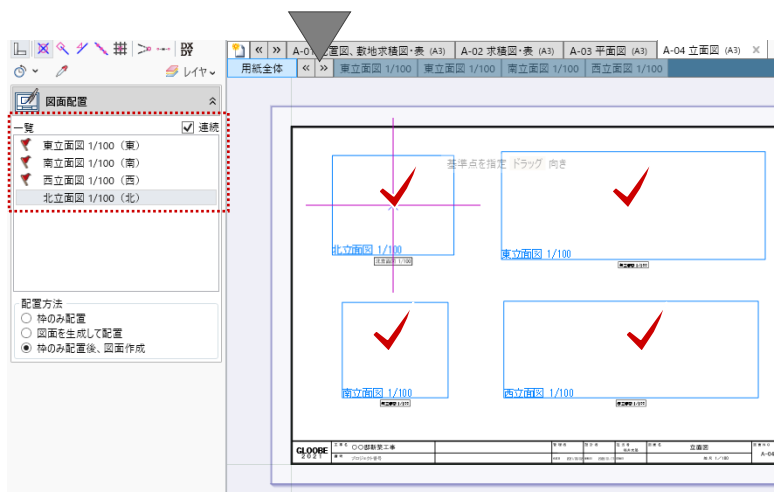
「詳細指定」をクリックします。

「立面図 詳細指定」ウィンドウの「作図範囲指定」タブより「生成範囲」をクリックし、「東」「西」「南」「北」のビューそれぞれで立面図の生成範囲を指定します。範囲の下端はGLライン上で指定します。



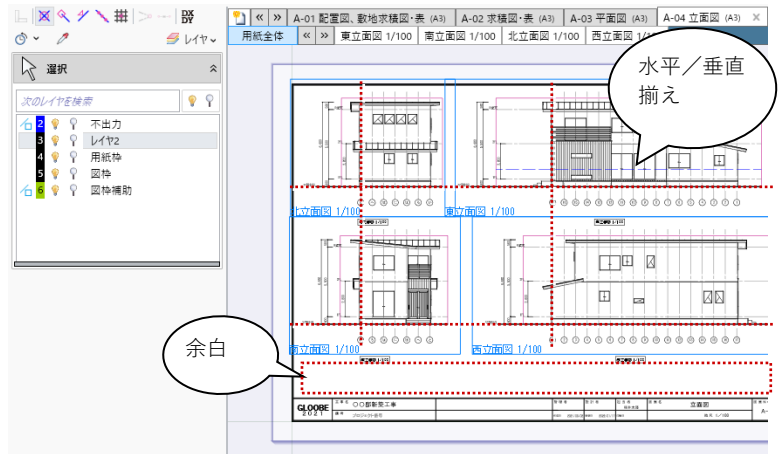
「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「東立面図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続けて南・西・北立面図もそれぞれ配置します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

ここでの説明は省略しますが、「図枠原点」「図枠揃え」等を使って図面のレイアウトを整えます。
 図面を上方に「移動」して、凡例表を挿入するための余白を設けます。



6.4. 【図面作成】専用加筆

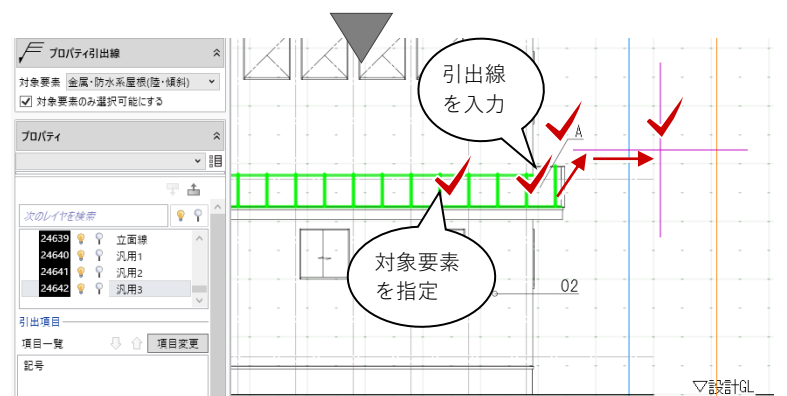
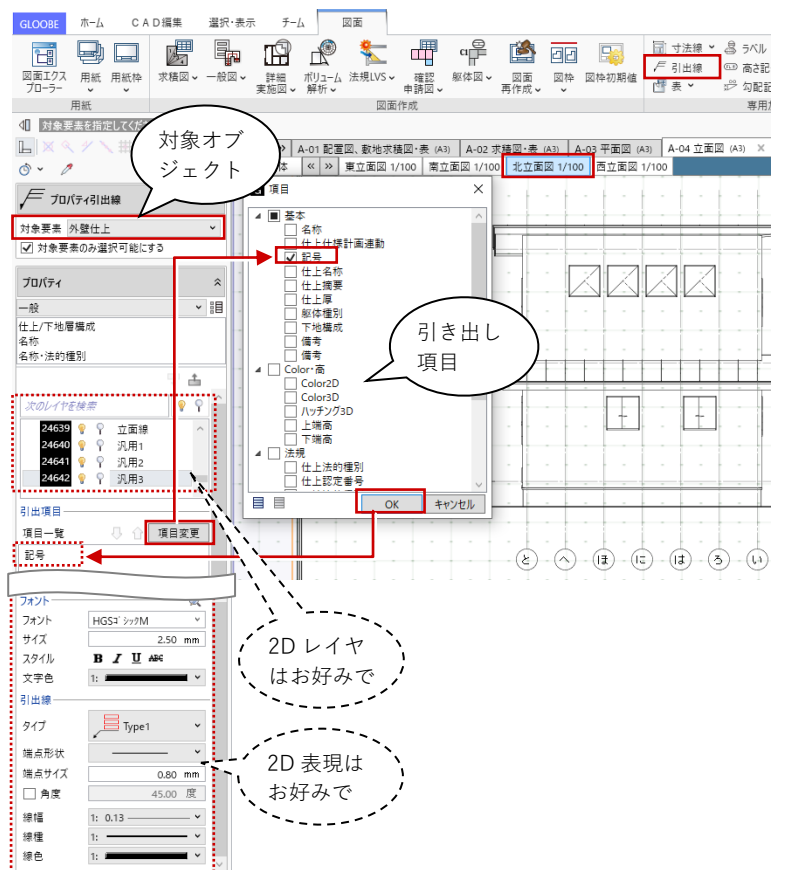
6.4.1. 引出線

「配置図」「平面図」と同様に、「専用加筆修正」で加筆します。
 加筆したい図面（ここでは北立面図）をアクティブにします。

「図面」タブの「引出線」をクリックし、「対象要素」を指定します。ここでは、「外壁仕上」「金属防水系屋根（陸・傾斜）」「外部天井仕上」のオブジェクトを指定して、それぞれのプロパティ情報のうち「記号」の項目を引き出します。

加筆の際のレイヤやフォント、引出線属性については任意に指定してください。

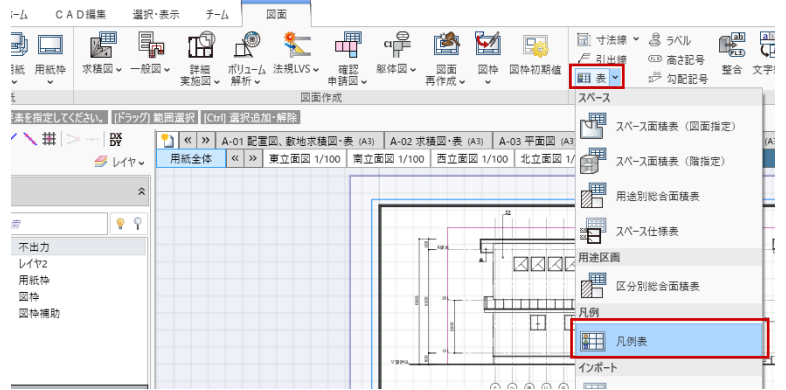
各立面図に対し、同様にして引出線を加筆します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

6.4.2. 凡例表

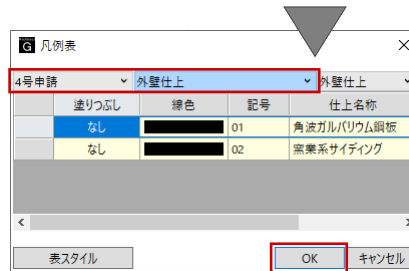
「図面」タブの「表」メニューより、「凡例表」をクリックします。



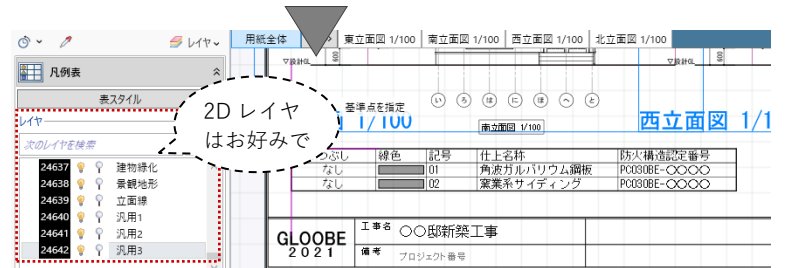
「凡例表」のダイアログより、次の凡例テンプレートを選択します。

グループ：4号申請

名称：外壁仕上



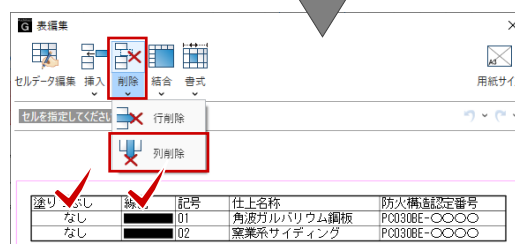
「OK」して、凡例表を用紙上にクリックで配置します。レイヤについては任意に指定してください。



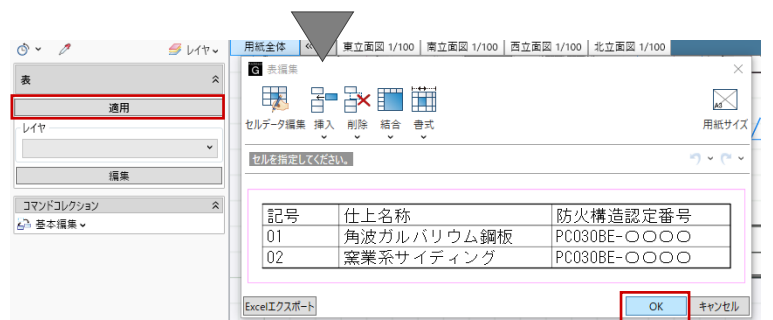
ツールバーの「選択」より、配置した凡例表を選択します。

コマンドサポートウィンドウより「編集」をクリックします。

「表編集」ダイアログが表示されます。「削除」メニューの「列削除」より、「塗りつぶし」「線色」の列をそれぞれクリックして削除します。



「表編集」ダイアログを「OK」で終了し、コマンドサポートウィンドウより「適用」で確定します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

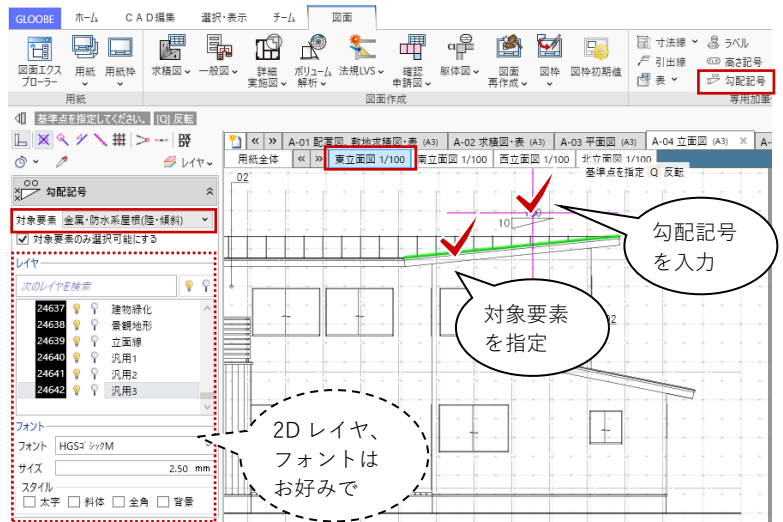
同様に、屋根仕上・外部天井仕上の凡例表を作成し、不要な列を「表編集」で削除します。



6.4.3. 勾配記号

加筆したい図面（ここでは東立面図）をアクティブにします。

「図面」タブの「勾配記号」をクリックし、「対象要素」（ここでは「金属防水系屋根（陸・傾斜）」のオブジェクトを指定して、勾配記号を入力します。



加筆の際のレイヤやフォントについては任意に指定してください。

各立面図に対し、同様に勾配記号を加筆します。

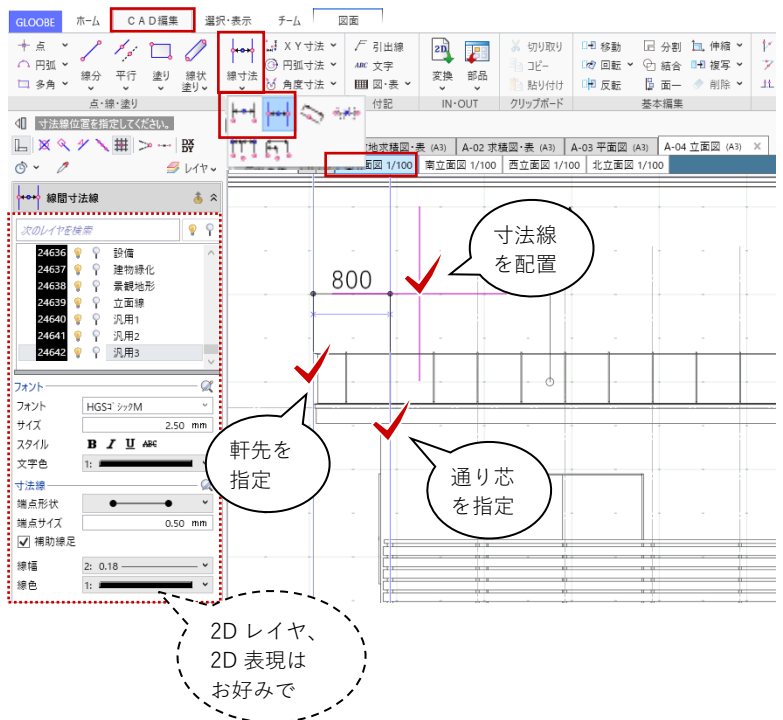
6.5. 【図面作成】 2D CAD 編集

6.5.1. 寸法線

2D 汎用 CAD 機能を利用して加筆します。

加筆したい図面（ここでは東立面図）をアクティブにします。

「CAD 編集」タブの「2 点間寸法線」または「線間寸法線」で、軒の出寸法を入力します。



加筆の際のレイヤやフォント、寸法線属性については任意に指定してください。

各立面図に対し、同様に軒の出寸法を加筆します。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

6.5.2. ロック

図面内の不要な部分を枠外へ移動して、ロックを設定します。

ロックしたい要素のある図面（ここでは南立面図）をアクティブにします。ツールバーの「選択」より、1Fと2Fの外壁仕上の階区切り線の要素を選択して、右クリックから「基本編集」の「移動」、またはトラックの左ドラッグで用紙枠外に移動します。

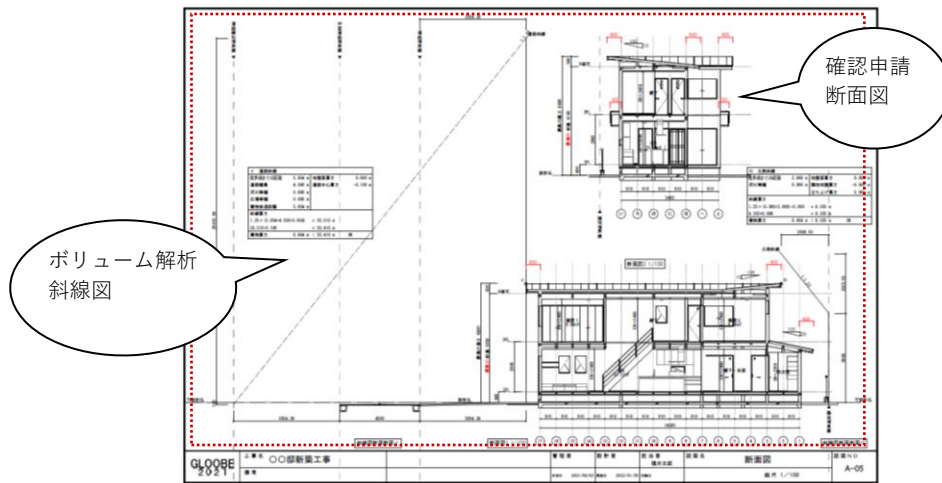
移動した階区切り線の要素を再度選択して、「CAD 編集」タブの「ロック」メニューより、「ロック設定」します。

各立面図に対し、同様にして不要な部分をロックします。

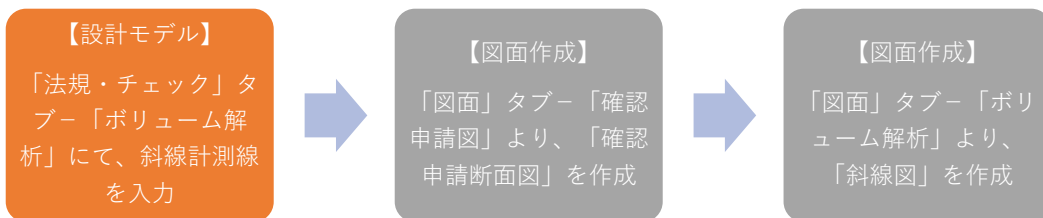


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

7. 断面図



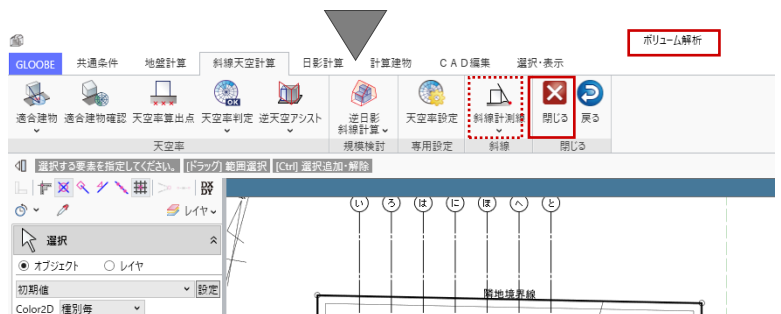
7.1. 作成フロー



7.2. 【設計モデル】斜線計測線

7.2.1. 斜線計測線

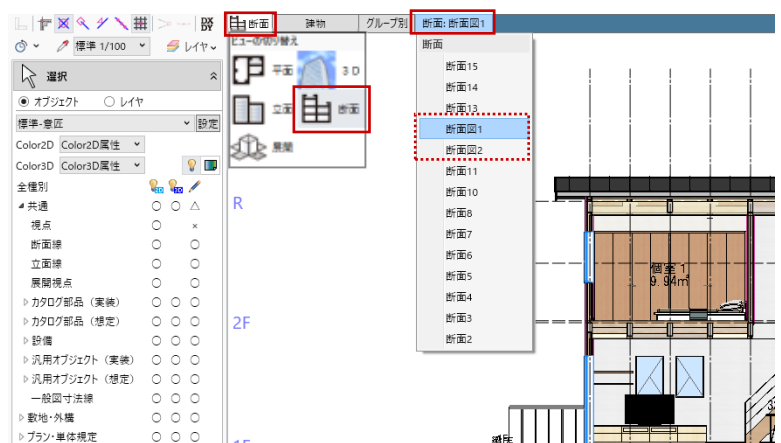
「法規・チェック」タブから「ボリューム解析」をクリックして、斜線計測線を確認します。確認後は、「閉じる」で終了します。



「斜線計測線」については、「2章 配置図」でご紹介しましたので、そちらをご確認ください。

7.2.2. 断面ビュー

「ビューの切り替え」より「断面ビュー」を確認します。ここでは「断面図1」「断面図2」を使って図面化を行います。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

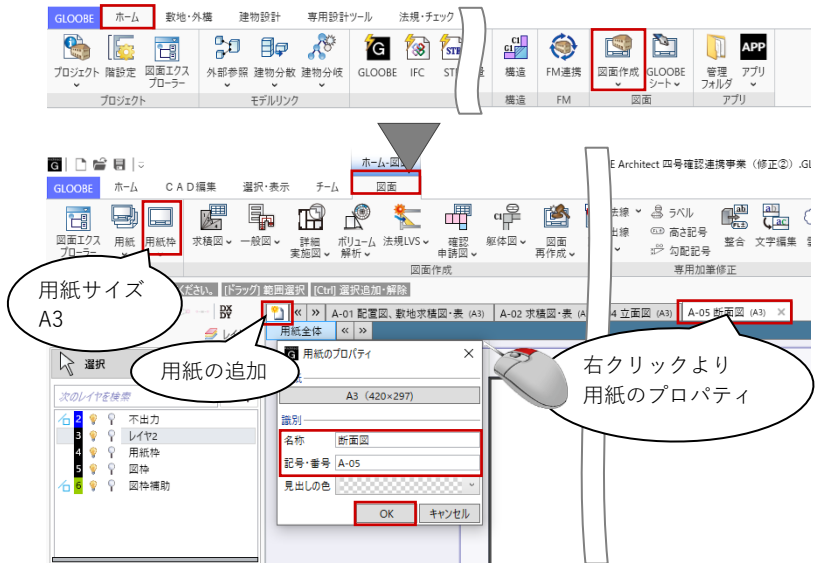
7.3. 【図面作成】断面図

7.3.1. 断面図

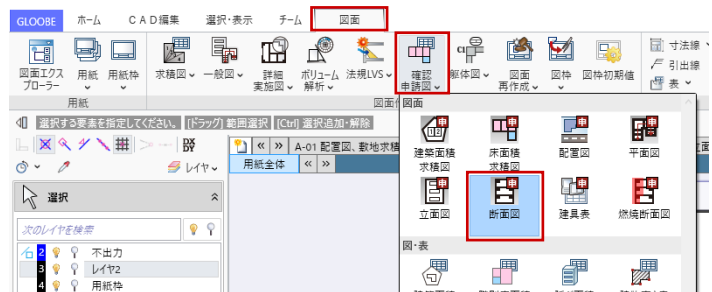
「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「用紙の追加」で5ページ目を追加します。

1ページ目と同様に「用紙枠配置」でA3横の図枠を用意し、「用紙のプロパティ」で名称を「断面図」、記号・番号を「A-05」とします。



「図面」タブの「確認申請図」メニューから「断面図」をクリックします。



「図面作成 - 確認申請断面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「断面図」を選びます。

名称：断面図
縮尺：1/100



「詳細指定」をクリックします。

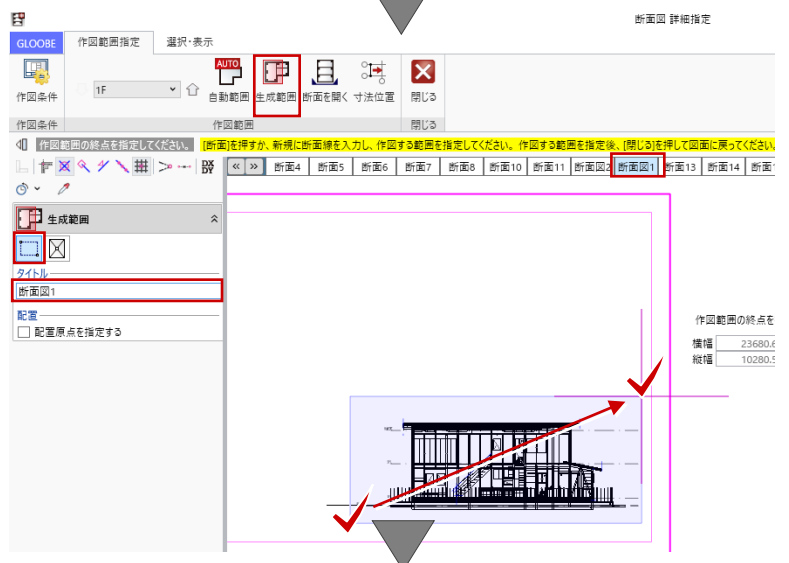
「断面図 詳細指定」ウィンドウが表示されます。

「断面図 1」をクリックします。

「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

タイトル：断面図 1 として、断面図の生成範囲を指定します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「断面図2」をクリックします。

「生成範囲」をクリックし、

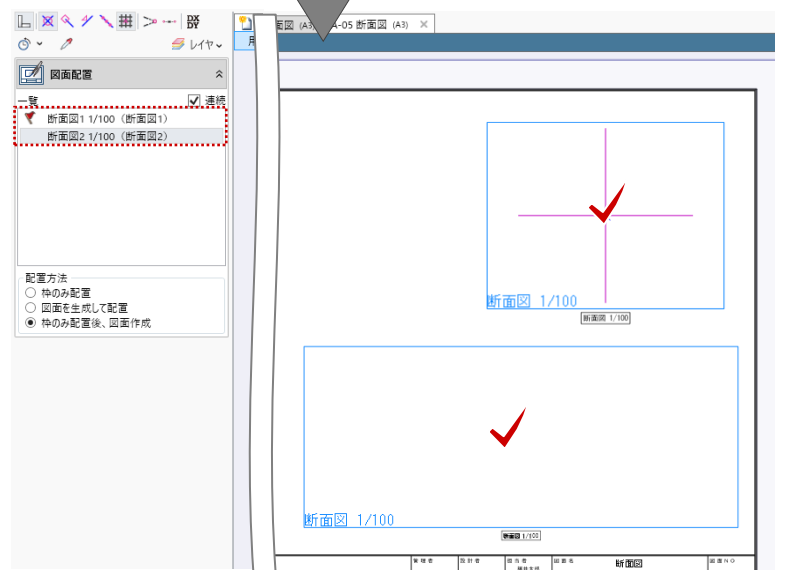
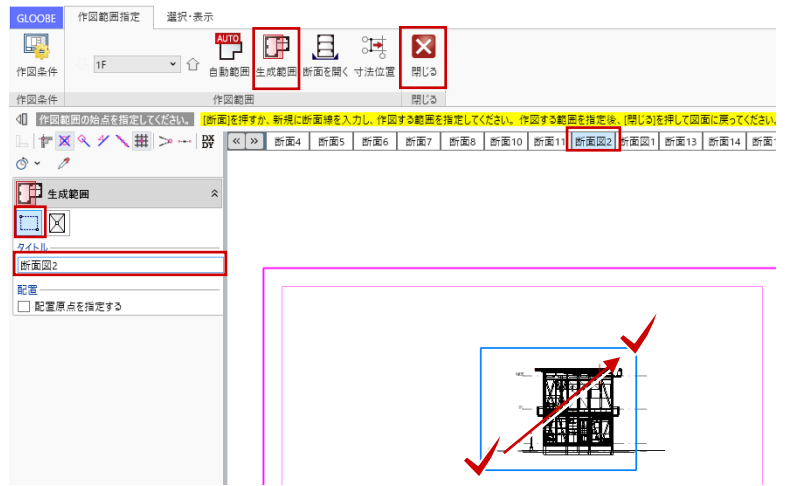
入力モード：矩形

タイトル：断面図2 として、断面図の生成範囲を指定します。

「閉じる」をクリックして、「図面」

タブに戻ります。

コマンドサポートウィンドウで「断面図1」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続けて「断面図2」もそれぞれ配置します。



7.4. 【図面作成】専用加筆

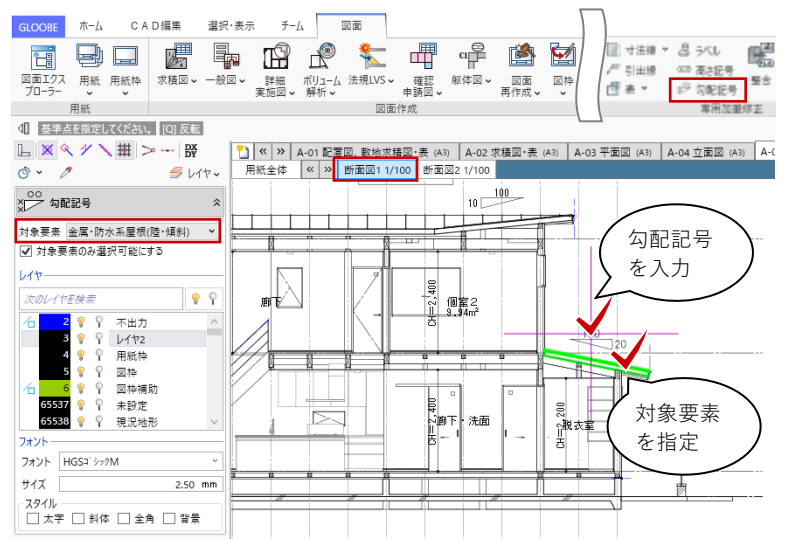
7.4.1. 勾配記号

「立置図」と同様に、「専用加筆修正」で加筆します。

加筆したい図面（ここでは断面図1）をアクティブにします。

「図面」タブの「勾配記号」をクリックし、「対象要素」（ここでは「金属防水系屋根（陸・傾斜）」）のオブジェクトを指定して、勾配記号を入力します。

同様にして、断面図2にも勾配記号を加筆します。

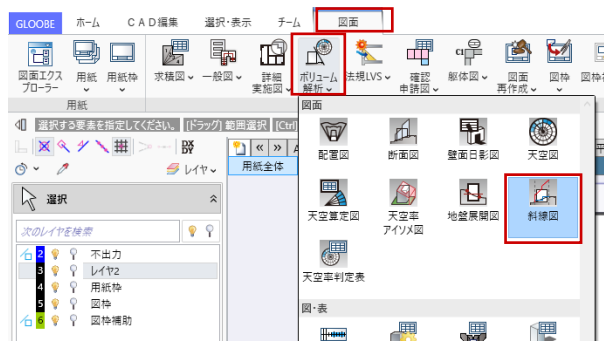


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

7.5. 【図面作成】斜線図

7.5.1. 斜線図

「図面」タブの「ボリューム解析」メニューから「斜線図」をクリックします。



「図面作成 - 斜線図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「斜線図」を選びます。

名称：斜線図断面

縮尺：1/100



「範囲指定」をクリックします。

「斜線図断面 範囲指定」ウィンドウが表示されます。

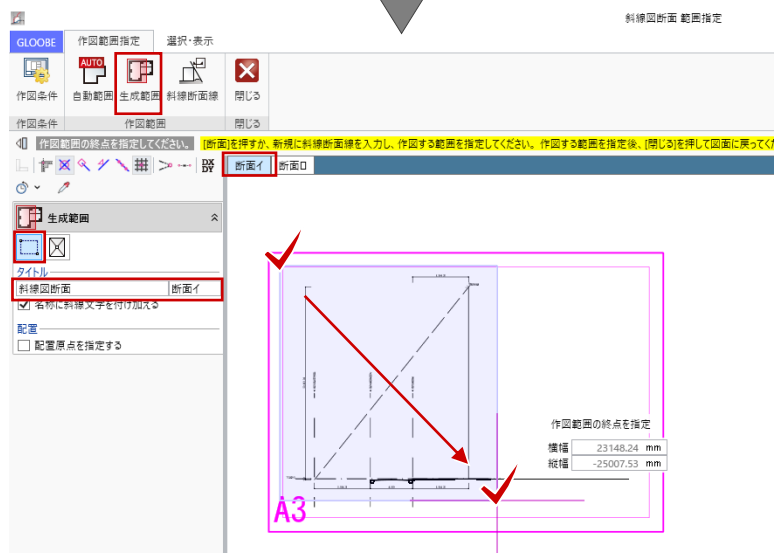
「断面イ」をクリックします。

「生成範囲」をクリックし、

入力モード：矩形

タイトル：斜線図断面 断面イ

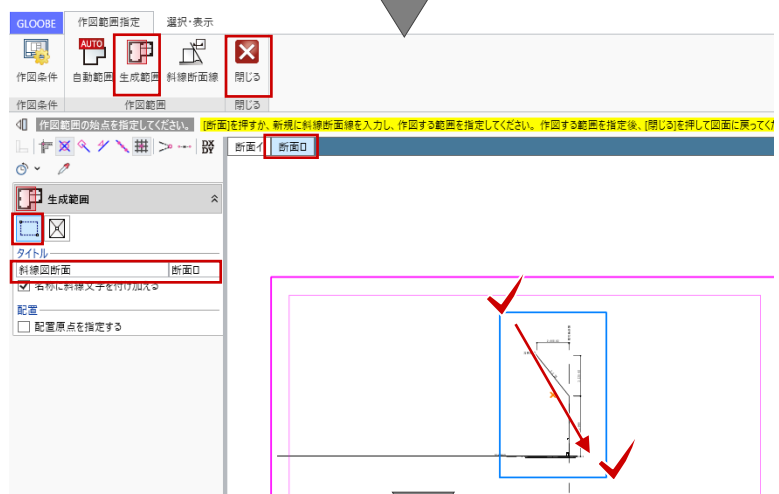
として、断面図の生成範囲を指定します。



「断面口」をクリックして、同様に生成範囲を指定します。

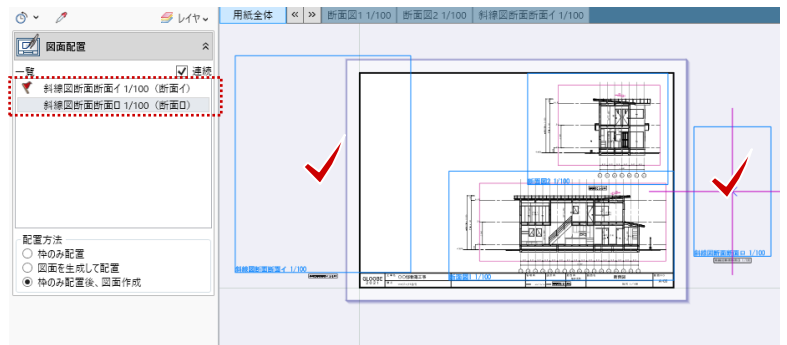
「閉じる」をクリックして、「図面」

タブに戻ります。



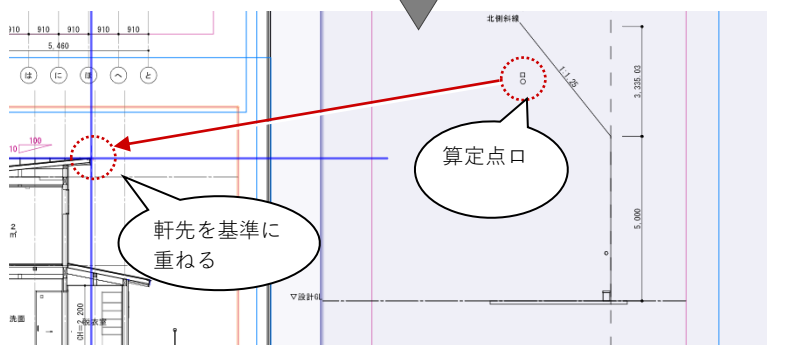
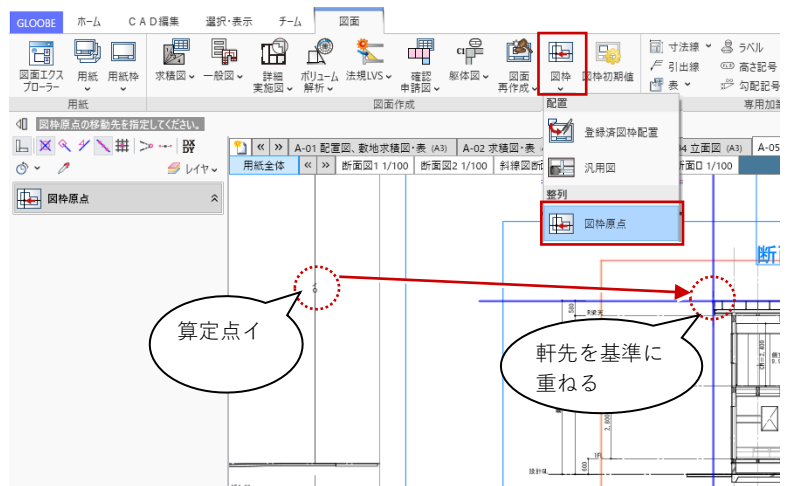
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

コマンドサポートウィンドウで「斜線
図断面 断面イ」が選択されているこ
とを確認し、用紙枠外でかまいません
のでいったんクリックで配置します。
続けて「断面口」も配置します。



配置した図面の算定点を基準に、「斜
線図断面イ・ロ」と「断面図 1」の図
面を重ねます。

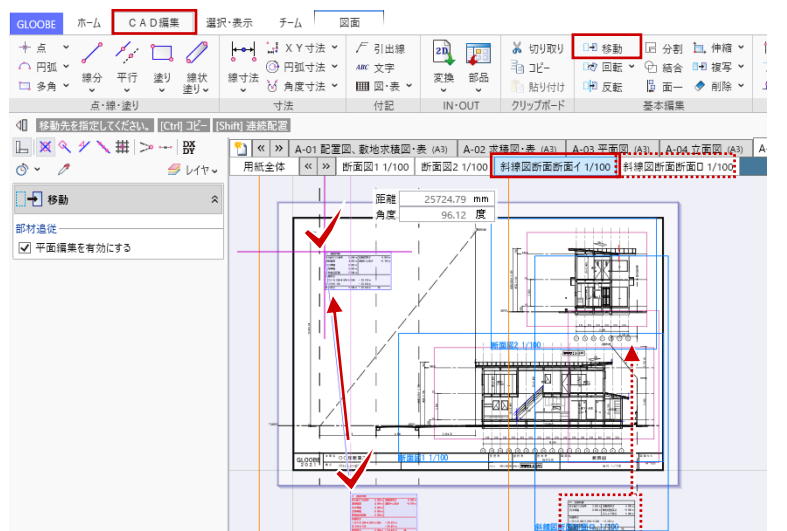
ここでの説明は省略しますが、「図枠
原点」「図枠揃え」等を使って図面を
移動して重ねます。



斜線の算定表を見やすい位置に移動し
ます。対象図面（斜線図断面イ）をア
クティブにします。

「CAD 編集」タブの「移動」をクリッ
クして、算定表を選択して移動しま
す。

同様にして、断面口の算定表も移動し
て全体のレイアウトを整えます。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

7.6. 【図面作成】2D CAD 編集

7.6.1. 寸法線

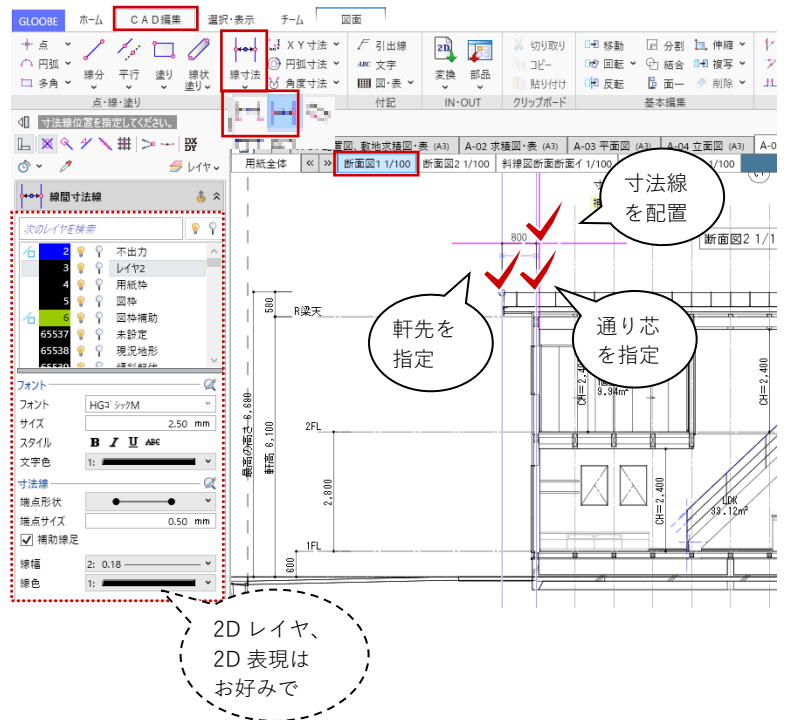
2D 汎用 CAD 機能を利用して加筆します。

加筆したい図面（ここでは断面図 1）をアクティブにします。

「CAD 編集」タブの「2 点間寸法線」または「線間寸法線」で、軒の出寸法を入力します。

加筆の際のレイヤやフォント、寸法線属性については任意に指定してください。

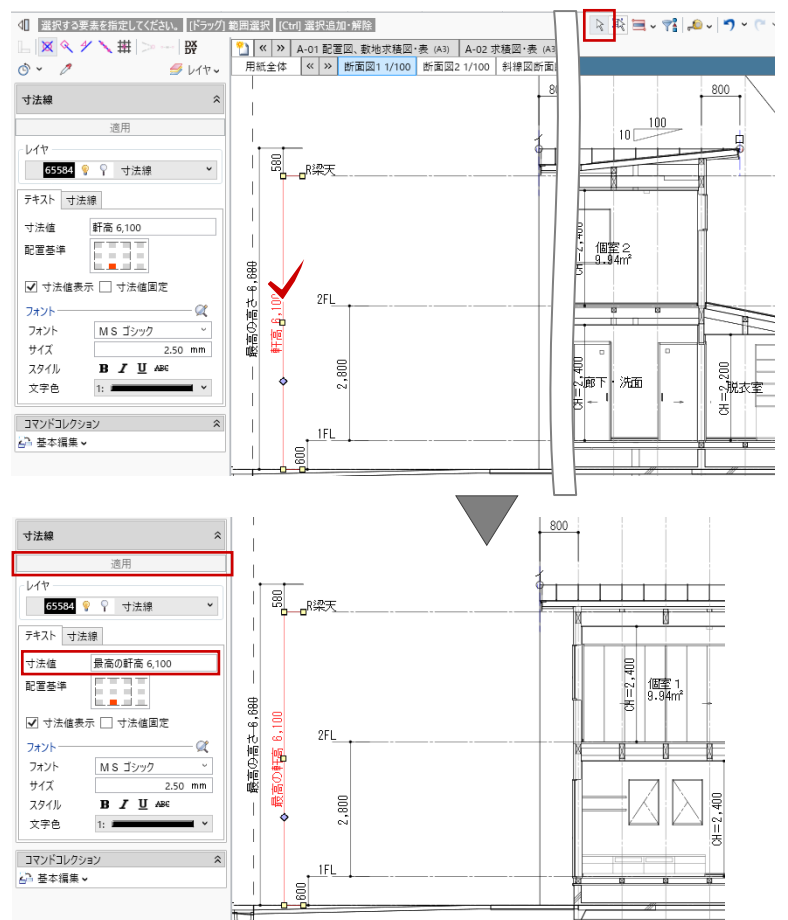
各断面図に対し、同様にして軒の出寸法を加筆します。



7.6.2. 文字編集

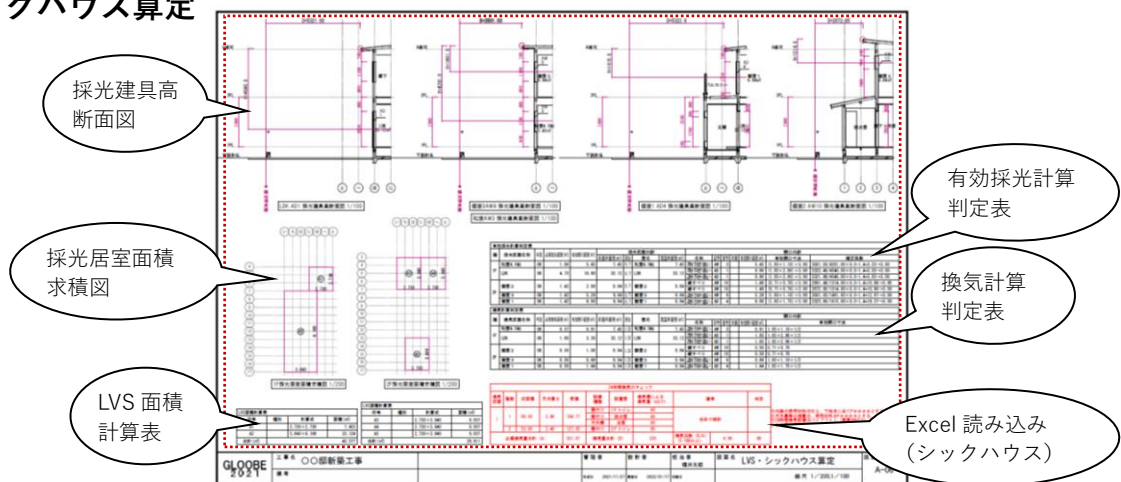
ツールバーの「選択」より、「軒高 6100」の文字を選択します。

寸法値テキストボックスの内容を寸法値：最高の軒高 6100 と編集して、「適用」をクリックします。

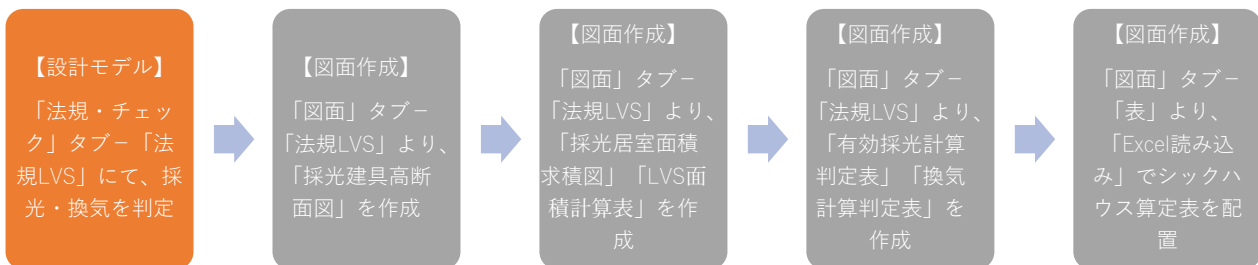


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

8. LVS・シックハウス算定



8.1. 作成フロー

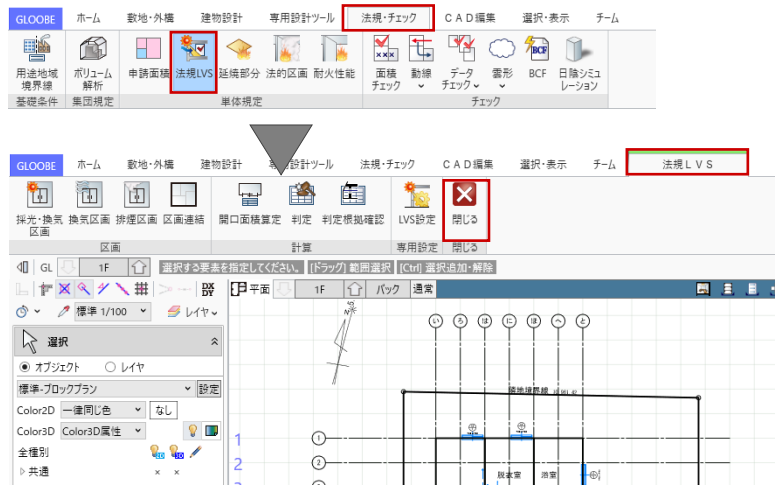


8.2. 【設計モデル】 法規 LVS

8.2.1. 法規 LVS を開く

「法規・チェック」タブから「法規 LVS」をクリックして、判定結果等を確認します。確認後は「閉じる」で終了します。

「法規 LVS」については、「5章 平面図」でご紹介しましたので、そちらをご確認ください。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

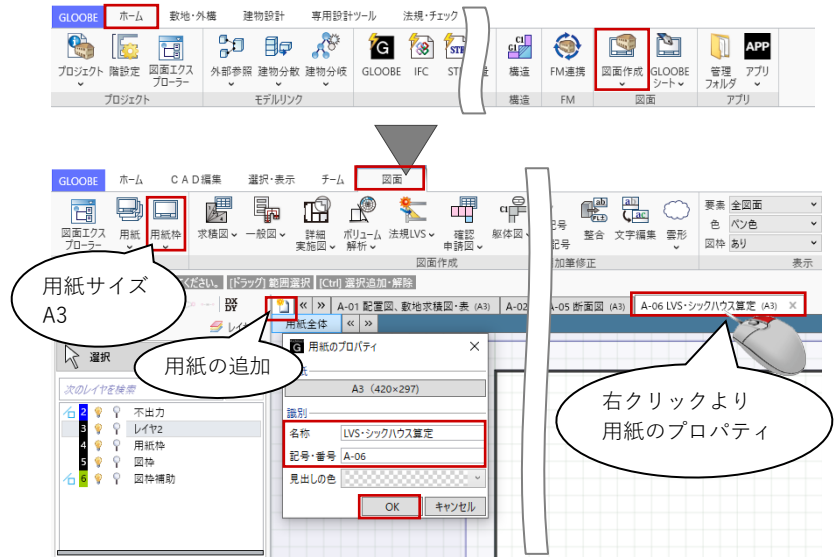
8.3. 【図面作成】法規 LVS 図面・表

8.3.1. 採光建具高断面図の作成

「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「用紙の追加」で6ページ目を追加します。

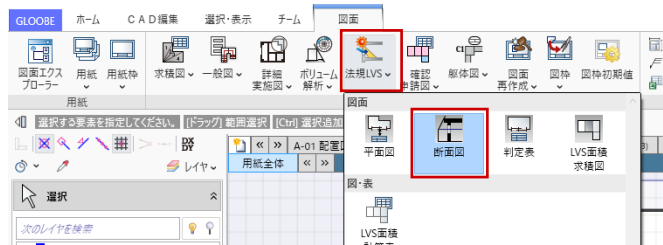
1ページ目と同様に「用紙枠配置」でA3横の図枠を用意し、「用紙のプロパティ」で名称を「LVS・シックハウス算定」、記号・番号を「A-06」とします。



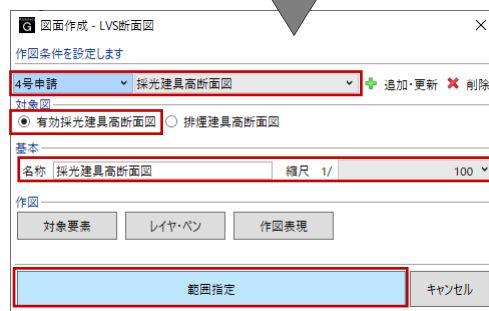
「図面」タブの「法規 LVS」メニューから「断面図」をクリックします。

「図面作成 - LVS 断面図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「採光建具高断面図」を選びます。

対象図：有効採光建具高断面図
名称：採光建具高断面図
縮尺：1/100



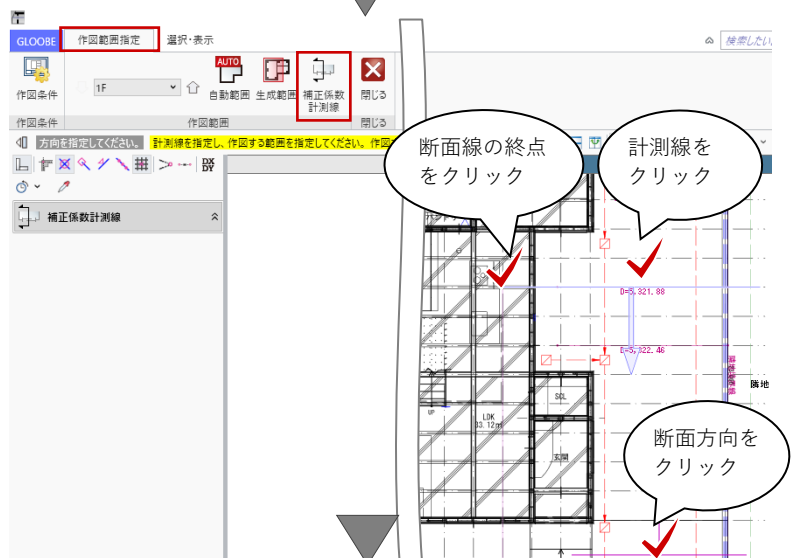
「範囲指定」をクリックします。



「採光建具高断面図 範囲指定」のウィンドウが表示されます。

「作図範囲指定」タブの「補正係数計測線」より計測線を指定します。ここでは1階 LDK 東面のAD1の建具「D=5321.88」と表示された計測線をクリックします。

続いて、断面線の終点として「に」の通り芯上をクリックし、断面の描画方向（ここでは下方方向）をクリックします。



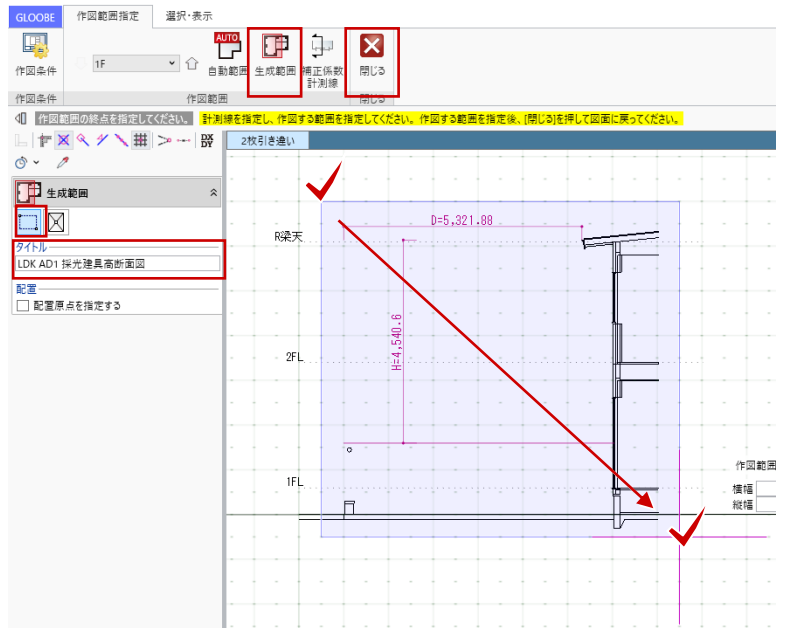
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「生成範囲」をクリックして、作図範囲を指定します。

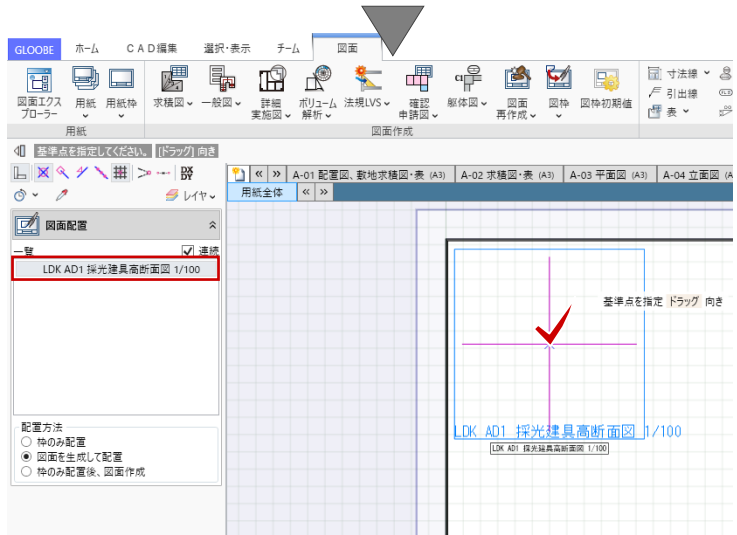
入力モード：矩形

タイトル：LDK AD1 採光建具高断面図

「閉じる」をクリックして、「図面」タブに戻ります。

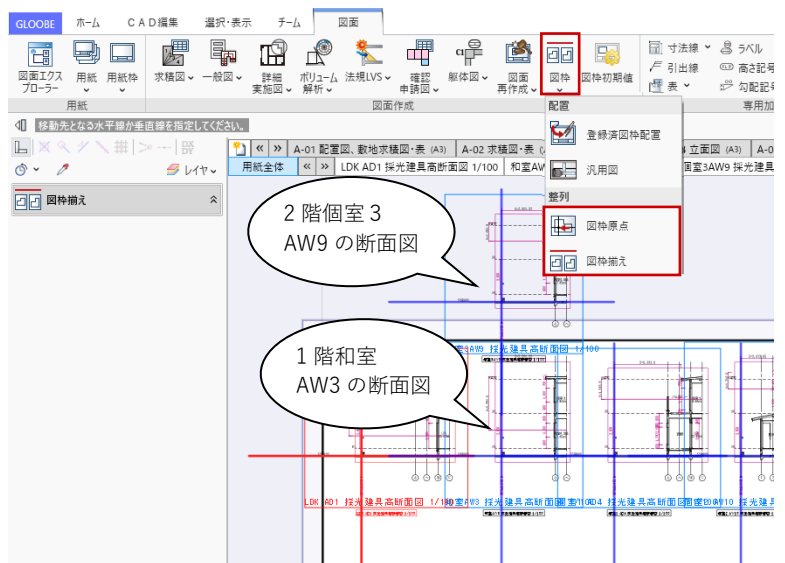


コマンドサポートウィンドウで「採光建具高断面図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。



同様にして、「1階 和室 東面の AW3」「2階 個室 3 東面の AW9」「2階 個室 1 東面の AD4」「2階 個室 2 北面の AW10」の採光建具高断面図を作成します。

「2階 個室 3 東面の AW9」は後で和室 AW3 の図面と重ねて表示するため、いったん用紙枠外にレイアウトしておきます。



ここでの説明は省略しますが、「図枠原点」「図枠揃え」を使って図面のレイアウトを整えます。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

「個室 3 AW9 採光建具高断面図」をアクティブにします。

図面を重ねるにあたって不要なデータを削除します。

単純にデータを削除してもかまいませんが、ここでは「図面再作成」を利用して「作図条件」で不要な要素を作図しないように設定します。

- ・対象要素

作図対象：全 OFF

- ・作図表現 - 階レベル

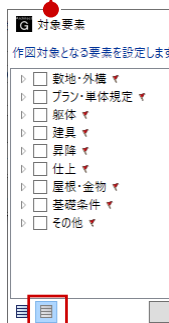
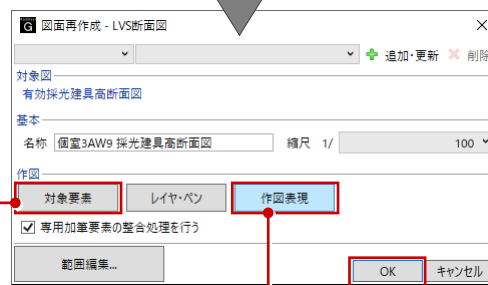
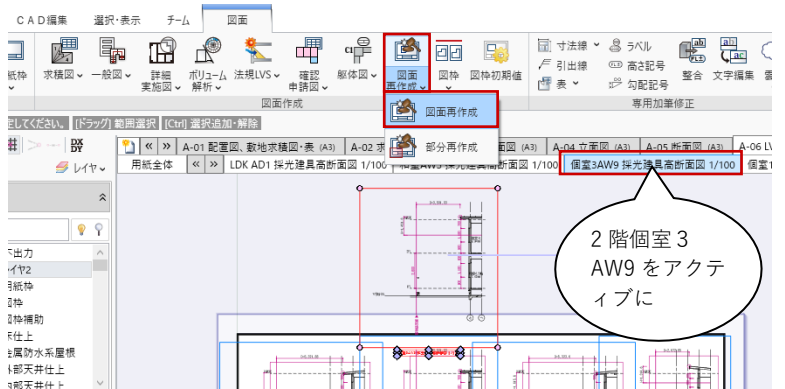
階レベル：全 OFF

レイヤペン：

名称：GL ライン

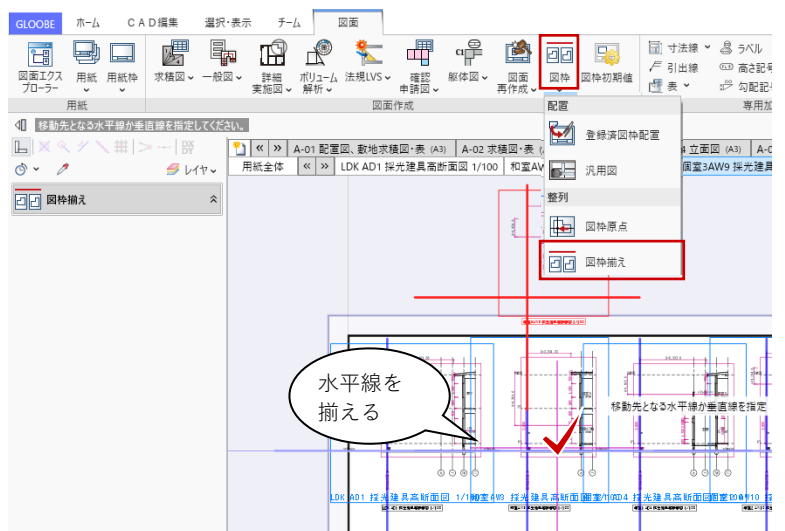
レイヤ：作図 OFF

設定後、「OK」で図面再作成を実行します。



削除ができれば、「図枠揃え」で「個室 3 AW9」の断面図を「和室 AW3」へ重ねます。

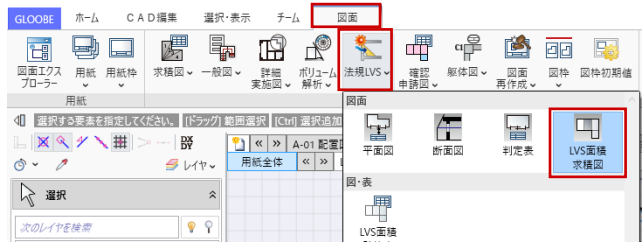
この時点では図面内で文字が重なったままとなっています。図面の編集、加筆修正については後ほどご紹介します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

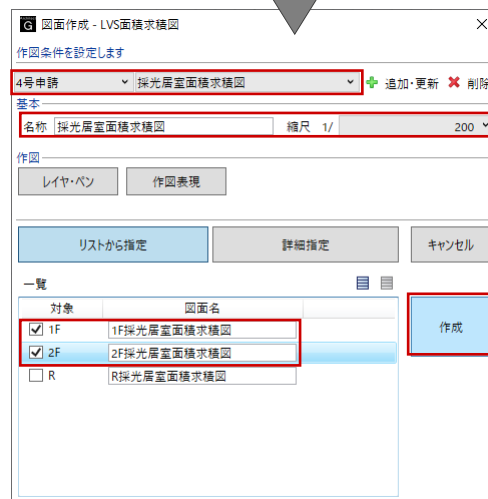
8.3.2. LVS 面積求積図

「図面」タブの「法規 LVS」メニューから「LVS 面積求積図」をクリックします。



「図面作成 - LVS 面積求積図」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」 - 「採光居室面積求積図」を選びます。

名称：採光居室面積求積図
縮尺：1/200



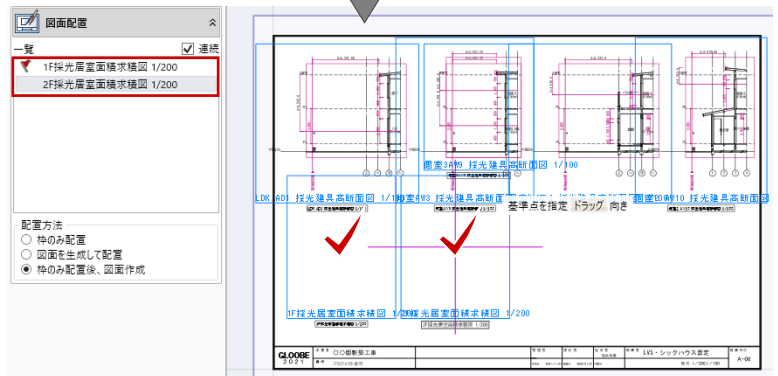
一覧より対象を

1F：ON 2F：ON

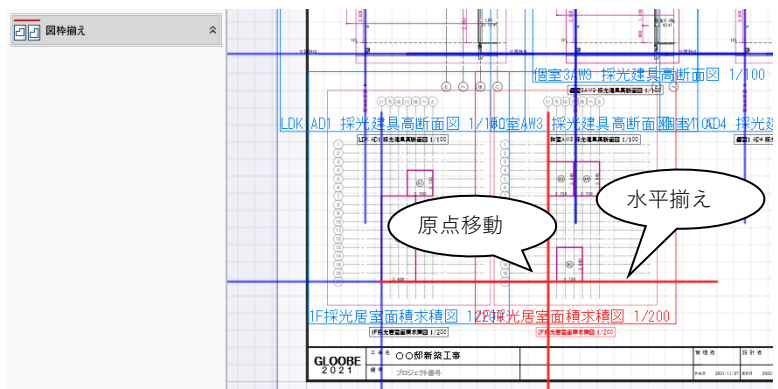
にします。

「作成」をクリックします。

コマンドサポートウィンドウで「1F 採光居室面積求積図」が選択されていることを確認し、用紙上にクリックで配置します。続いて「2F 採光居室面積求積図」もクリックで配置します。



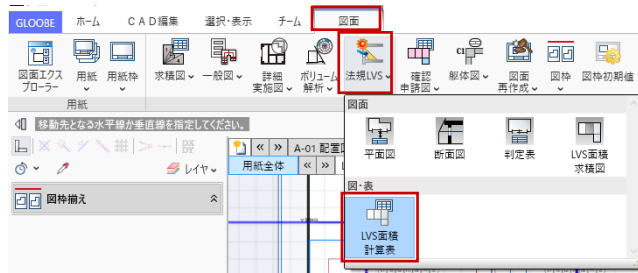
ここでの説明は省略しますが、「図枠原点」「図枠揃え」等を使って図面のレイアウトを整えます。



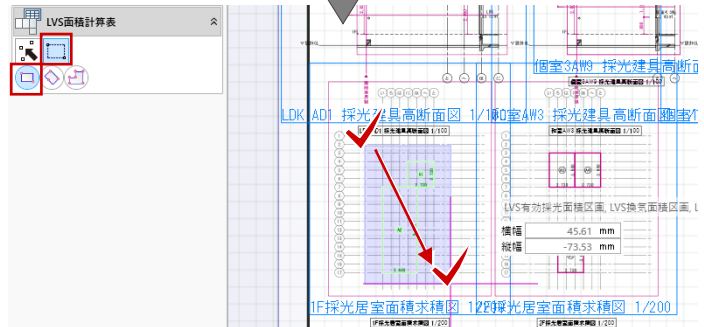
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

8.3.3. LVS 面積求積図

「図面」タブの「法規 LVS」メニューから「LVS 面積計算表」をクリックします。



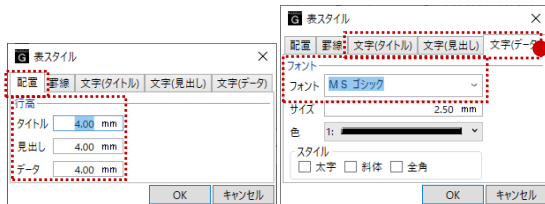
入力モード：範囲指定：矩形 矩形範囲 で、配置した採光居室面積求積図の対象範囲（ここでは1階）を矩形範囲で指定します。



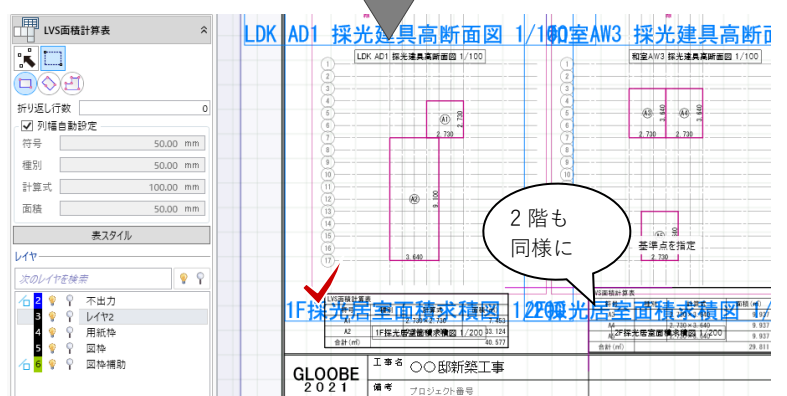
「LVS 面積計算表」ダイアログが表示されます。

小数点桁数・丸め等を確認します。

このままでもかまいませんが、「表スタイル」で行高・フォントサイズを少し小さくします。



「OK」でダイアログを終了し、用紙上にクリックで計算表を配置します。

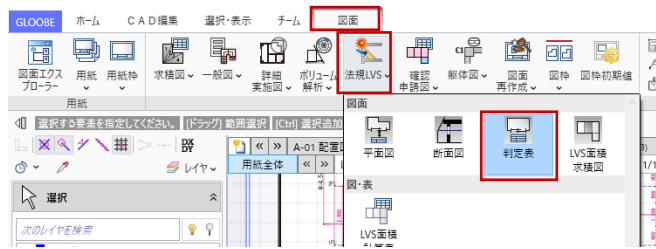


同様にして、2階のLVS 面積計算表を作成します。

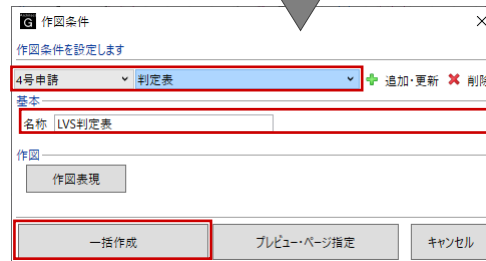
第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

8.3.4. 判定表

「図面」タブの「法規 LVS」メニューから「判定表」をクリックします。



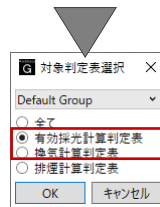
「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」-「判定表」を選びます。



名称：LVS 判定表

「一括作成」をクリックします。

「対象判定表選択」より、「有効採光計算判定表」を選んで「OK」します。



用紙上にクリックで判定表を配置します。



同様に、「換気計算判定表」を作成します。

GLOOBE の法規 LVS の図面作成機能につきましては、目的別操作ガイド「採光・換気・排煙計算編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「採光・換気・排煙計算編」よりご確認ください。

▶ GLOOBE の各種マニュアルはこちらから

<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/gloobe/manual.html>

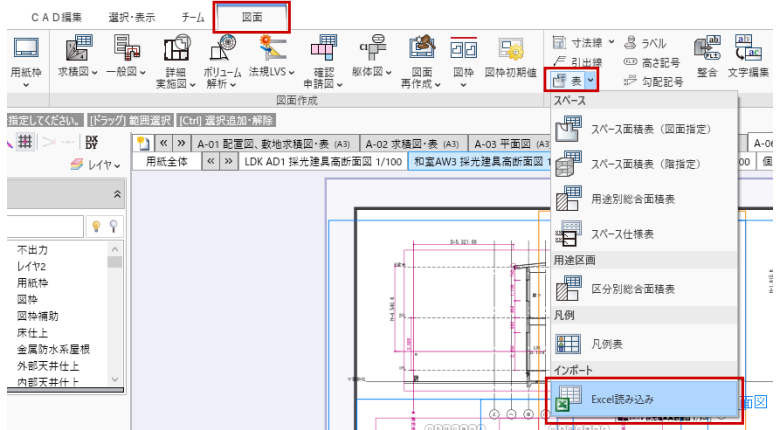


第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

8.4. 【図面作成】専用加筆

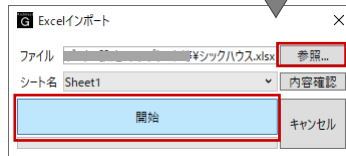
8.4.1. 表（Excel 読み込み）

「図面」タブの「表」メニューより、「Excel 読み込み」をクリックします。



「Excel インポート」のダイアログが開きます。

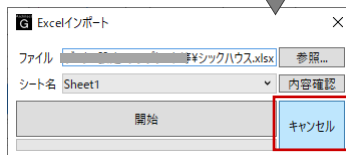
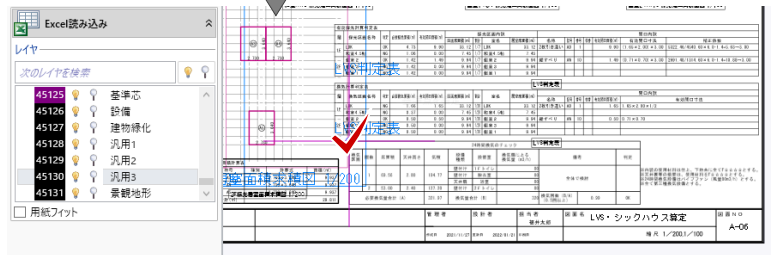
ファイルの「参照」ボタンから、配布ファイルの「シックハウス.xlsx」を開き、「開始」をクリックします。



Excel インポートが完了すると「表編集」ダイアログが開きます。内容を確認して「OK」します。



用紙上にクリックで、シックハウスのチェック表を配置します。配置後、「Excel インポート」のダイアログは「キャンセル」で終了します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

8.4.2. 引出線

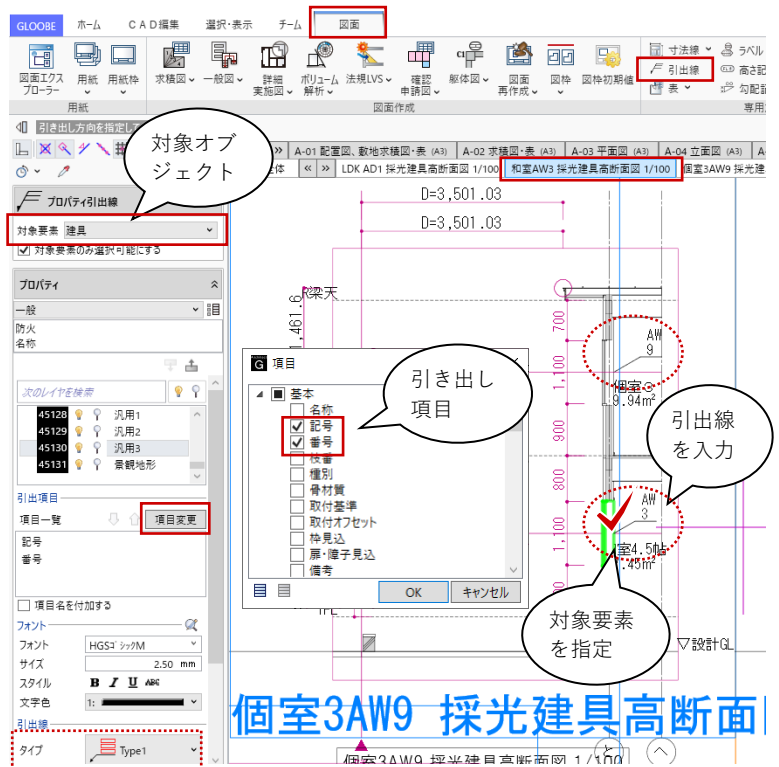
これまでと同様に、「専用加筆修正」で加筆します。

加筆したい図面（ここでは和室 AW3 採光建具高断面図）をアクティブにします。

「図面」タブの「引出線」をクリックし、「対象要素」を指定します。ここでは、「建具」のオブジェクトを指定して、プロパティ情報のうち「記号」「番号」の項目を引き出します。

加筆の際のレイヤやフォント、引出線属性（ここでは Type1）については任意に指定してください。

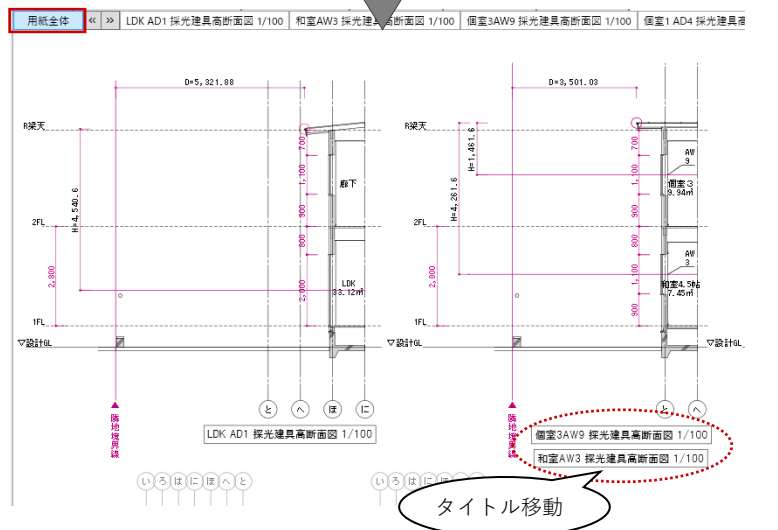
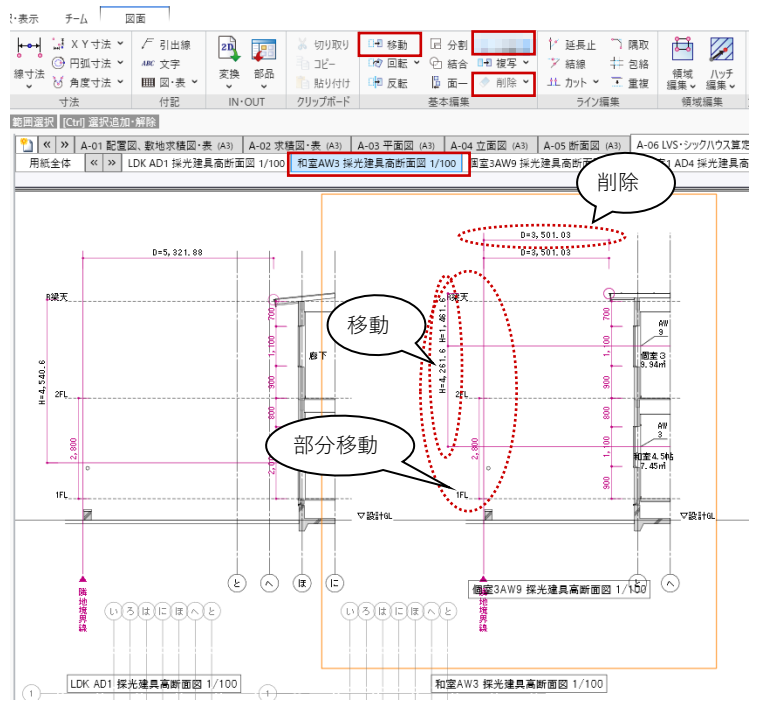
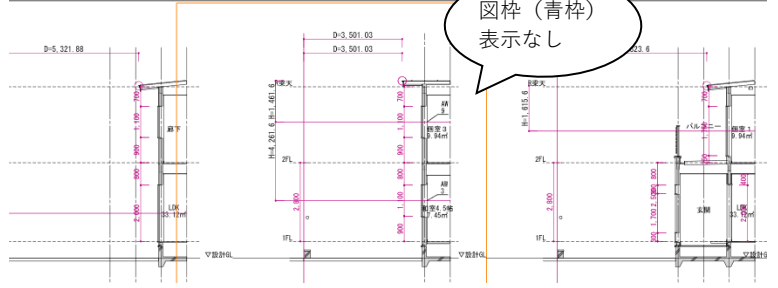
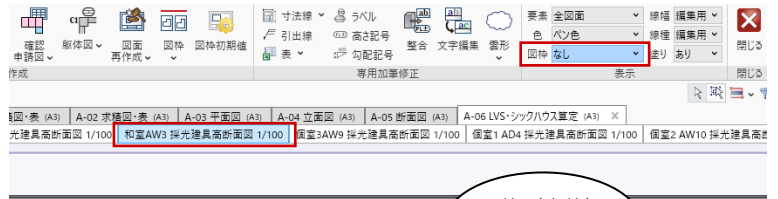
各断面図の建具に対し、同様にして引出線を加筆します。



8.5. 【図面作成】2D CAD 編集

編集したい図面（ここでは和室 AW3 採光建具高断面図）をアクティブにして、「CAD 編集」タブの各種機能を利用して図面を修正します。

「図枠」表示は「なし」としたほうが、図面編集しやすくなります。



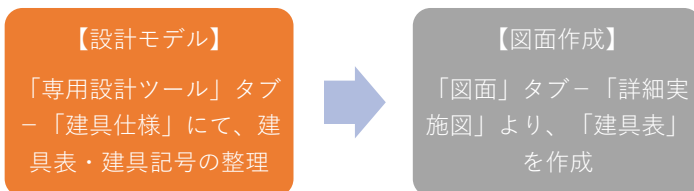
同様にしてその他の図面も編集して、レイアウトを整えます。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

9. 建具表



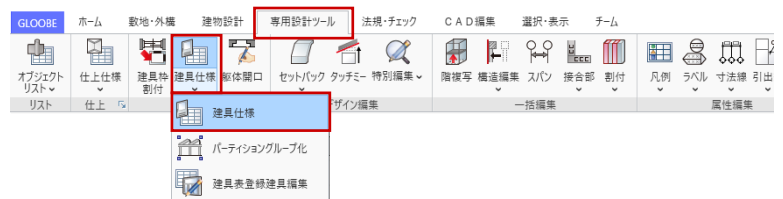
9.1. 作成フロー



9.2. 【設計モデル】 建具仕様

9.2.1. 建具仕様を開く

「専用設計ツール」タブから「建具仕様」をクリックします。



「リスト-建具仕様」ウィンドウが開きます。



「建具表」タブを開きます。



ここでは確認だけとして、「閉じる」で「建具仕様」ウィンドウを終了します。

基本				装図		位置・数量					
記号	番号	仕様	名称(形式)	種別	骨材質	装図記号	装図番号	階	取付場所	数量	防
AD	1	2枚引き違い	ガラス戸	ガラス戸	アルミニウム			0 1F	LDK	2	
AD	2	2枚引き違い	ガラス戸	ガラス戸	アルミニウム			0 1F	和室4.5帖	1	
AD	3	2枚引き違い	ガラス戸	ガラス戸	アルミニウム			0 1F	LDK	1	
AD	4	2枚引き違い	ガラス戸	ガラス戸	アルミニウム			0 2F	個室1	1	
AW	1	FIX	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	玄関	1	
AW	2	FIX	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	玄関	1	
AW	3	2枚引き違い	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	和室4.5帖	1	
AW	4	2枚引き違い	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	浴室	1	
AW	5	2枚引き違い	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	WC	3	
AW	6	縦すバリ	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	LDK	1	
AW	7	縦すバリ	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	LDK	1	
AW	8	縦すバリ	ガラス窓	ガラス窓	アルミニウム			0 1F	LDK	1	

「建具仕様」については、「5章 平面図」でご紹介しましたので、そちらをご確認ください。

第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

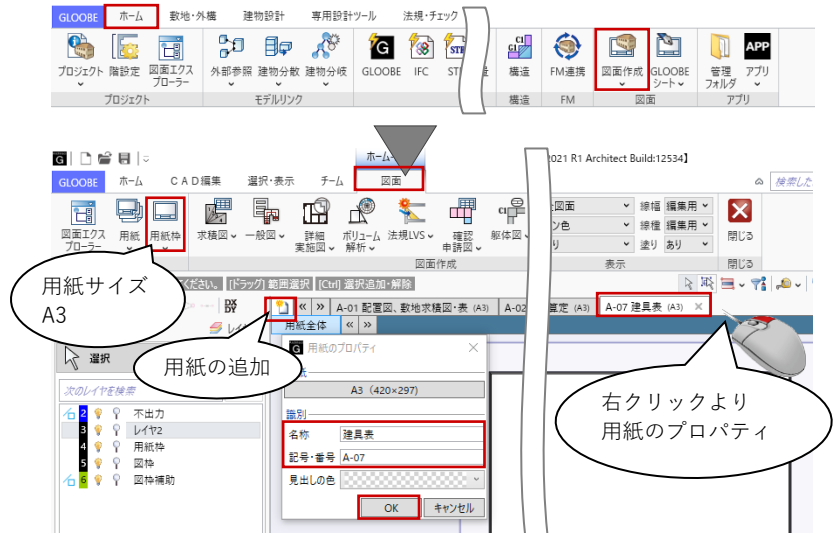
9.3. 【図面作成】 建具表

9.3.1. 建具表の作成

「ホーム」タブより、「図面作成」を開きます。

「用紙の追加」で7ページ目を追加します。

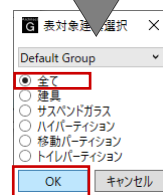
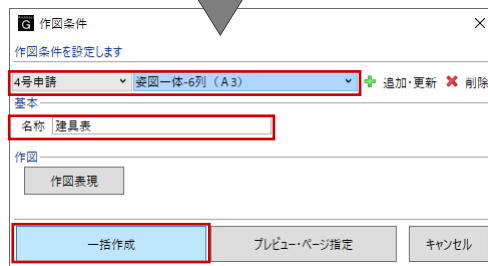
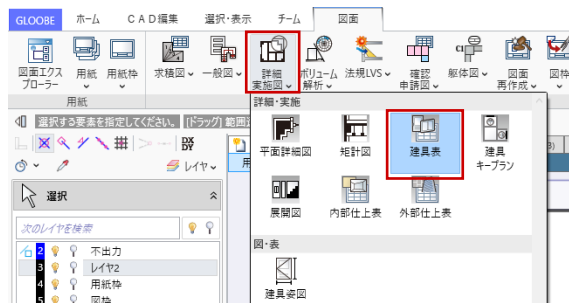
1ページ目と同様に「用紙枠配置」でA3横の図枠を用意し、「用紙のプロパティ」で名称を「建具表」、記号・番号を「A-07」とします。



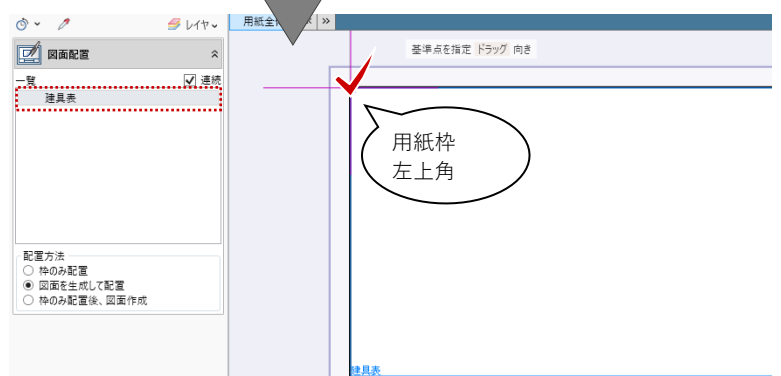
「図面」タブの「詳細実施図」メニューから「建具表」をクリックします。「作図条件」ダイアログで、「作図条件」のテンプレートから「4号申請」-「姿図一体・6列 (A3)」を選びます。

名称：建具表

「一括作成」をクリックします。「表対象建具選択」を「全て」で「OK」します。

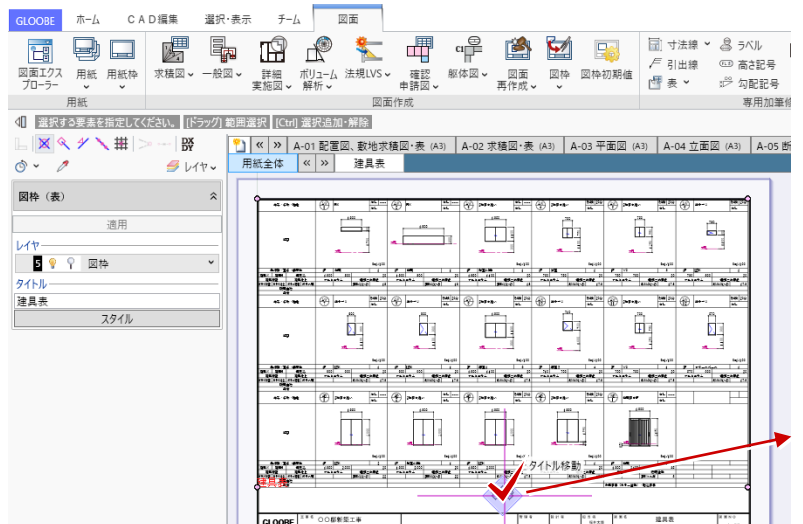


用紙枠の左上をクリックして、建具表を配置します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています

不要な図面タイトルは、選択して「◆ タイトル移動」のトラッカーで用紙枠外に移動します。



建具表の作成方法につきましては、操作ガイド「モデル詳細編」で詳しくご紹介しています。福井コンピュータアーキテクト公式サイト「お客様サポート」に掲載のマニュアル「モデル詳細編」よりご確認ください。

▶GLOOBE の各種マニュアルはこちらから
<https://archi.fukuicompu.co.jp/user/products/globe/manual.html>

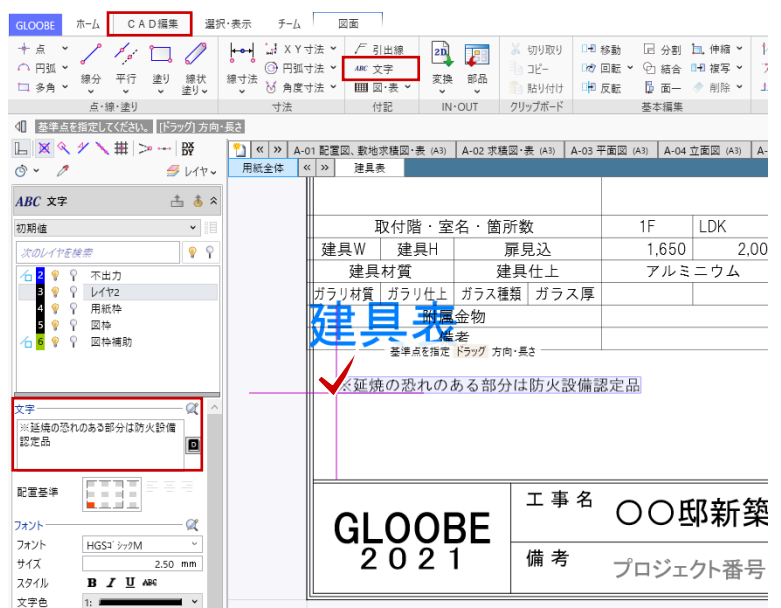


9.4. 【図面作成】2D CAD 編集

文字を加筆します。

「CAD 編集」タブより「文字」をクリックします。

テキストボックス内に加筆したい文字列を入力して、用紙上に配置します。



第三者へのトレーニングのため、このドキュメントを無断転載、複写、配布することは禁止されています